

2016年度 年報

Annual Report 2016



大阪大学国際教育交流センター

Center for International Education and Exchange, Osaka University

巻 頭 言

大阪大学国際教育交流センター長
有 川 友 子

国際教育交流センターは、平成22年4月の留学生センターからの改組以降も、大阪大学の国際化に引き続き貢献し、質の高い留学生教育交流支援を目指すという大きな目標のもと、4WD（日本語教育研究、短期プログラム開発研究、交流アドバイジング研究の3チーム＋サポートオフィス）体制にて各種活動に積極的に取り組んでおります。この度、平成28年度の活動につきまして報告いたします。最初に本年度のトピックス、その後各活動について詳細に報告しております。

大阪大学の外国人留学生数は平成28年度5月1日現在で2,184名となりました。近年の留学生数の増加とともに多様化が進む中、国際教育交流センターの留学生に関わる活動並びに学内外との連携協力につきましても多様化が進んでおります。また海外派遣の推進に関わる各種プログラムにつきましても、検討中のものを含め多様化が進んでおります。更に留学生のキャリア支援やキャリア教育に加え、元留学生社会人、企業、行政機関等との産学官協働も進んでおります。

国際教育交流センターは、新たなニーズに応えるべく各種の新たな活動につきまして積極的に取り組むとともに、これまでと変わらず重要である全大阪大学のニーズに柔軟に対応した教育、各種交流や支援に関わる活動、各教員の専門分野に応じた研究活動を行っております。

例えば大阪大学の全留学生の8割強の1,700名程度が、本センター日本語教育研究チームによる多様なニーズに対応した各種日本語科目を受講中もしくは受講経験をもっております。また平成28年度にスタートしました新規受け入れプログラムの留学生に対する日本語教育につきましても協力しております。また本センターの短期プログラム開発研究チームは通常の学期をベースとした交換留学に加えて、米国カリフォルニア大学や豪州の協定校の学生を主な対象とした短期間のJ-ShIPや超短期プログラムを開発し先駆的に実施してきた実績を持っております。また受入だけでなく、交換留学や短期研修プログラム等、また本学学生の派遣についても全学的な立場から相談対応や支援、コーディネートを行っております。更に交流アドバイジング研究チームはIRIS（留学生交流情報室）をベースに、留学生相談対応は勿論、学生間交流、地域との交流等、関係部局等と緊密な連携とネットワークを活用して活動を行っております。そしてサポートオフィスは外国人留学生と研究者受け入れに関わり、主にビザに関わる支援と宿舎情報提供を全学的に行っております。

大阪大学において留学生数の増加とともに各種コースやプログラムの多様化が進む中で、留学生・一般学生に関わる教育交流支援の質の保証が益々重要となっております。留学生が大阪大学の学生として教育研究を含む各種活動について日本人など一般学生と同じ機会を持つこと、言語文化等多様な背景をもつ留学生に対して大学として必要なサポートを充実させていくこと、いずれも不可欠です。

これからも関係部署と連携しつつ、国際教育交流センターは留学生中心の部局として、大阪大学の国際化に積極的に貢献してまいります。

大阪大学国際教育交流センター
2016年度 年報

目 次

巻 頭 言

I. 本年度のトピックス	1
1. 日本語・グローバル理解演習（仮称）の開設に向けて	1
2. 関西の企業における元留学生社会人交流会「サロン・デ・ゼクスパット」の活動	3
3. 短期プログラムの「将来像」について	7
4. Frontier Human Science プログラム	9
5. 2016 年度国際教育交流センタースピーチコンテスト	10
6. 派遣プログラム運営アウトソース化など	13
7. CIEE 協議会シリーズ——多文化交流の最前線——	15
8. 研修会・講習会の開催	20
9. 西口教授、日本語教育学会賞を受賞	23
II. 現 況	24
1. 運営形態	24
2. 組 織	25
3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等	26
4. 今年度の動き	27
III. 留学生対象日本語プログラム	28
1. 日本語集中（研修）コース	29
2. 留学生日本語選択コース	34
3. 全学共通教育	35
4. 国際交流科目	37
5. 学際融合教育科目	38
IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム	39
1. 時 間 割	39
2. 学生数と進学先	40
3. 平成 28 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会	40
V. 国際教養・専門複合型プログラム	42
1. 行 事	43
2. 2016 年度春学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト	44
3. 2016 年度秋学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト	47
4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数	50
5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み	51
VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム	54
1. 『超短期』プログラム	54
2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP	55

VII. 留学生支援	59
1. 生活・就学支援	59
2. 地域との連携	66
3. 留学生に対するキャリア支援	68
VIII. 海外派遣留学支援	72
1. 海外研修・異文化体験プログラム	72
2. 海外留学オリエンテーション	74
3. 大学間交換留学者数	75
4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション	77
5. 留学報告会	79
6. 海外留学相談とアドバイス	80
IX. サポートオフィスの活動	82
1. 査証（ビザ）関連手続きの支援	82
2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援	83
3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催	83
4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催	84
5. ホームページの管理運営	84
6. 各種印刷物の改訂版作成・配布	85
X. 大学院・学部教育	86
1. 授業担当	86
2. 研究指導	92
3. 研究指導学生学位論文	94
4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ	94
XI. その他の活動	95
1. 各種行事	95
2. 海外出張・海外研修	98
3. 出版物・印刷物等	99
4. 来訪者対応	100
5. 日本語テーブル	100
XII. 教員個人データ	103
資料編	
資料1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2016年度 時間割	135
資料2 2016年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数一覧	139
資料3-1 国際交流科目授業時間割（平成28年春学期）	141
資料3-2 国際交流科目授業時間割（平成28年秋学期）	142
資料4 日本語授業についてのアンケート	143
資料5 国際交流科目 授業アンケート（質問票）	147
資料6 国際交流科目 授業アンケート（結果）	149

I. 本年度のトピックス

1. 日本語・グローバル理解演習（仮称）の開設に向けて

(1) 背景

大阪大学では現在、共通教育・教養教育の改革に向けての検討が進められている（2017年2月教育改革支援室報告「共通教育・教養教育改革の方向性についてのまとめ」）。改革の方向性については、学問の神髄を極める専門性の獲得に加え、次の3点を三大資質として涵養することを目指している。

- (a) 幅広い見識に基づく確かな社会的判断力としての「教養」
- (b) 異なる文化的背景を持つ人と対話できる「国際性」
- (c) 自由なイマジネーションと横断的なネットワークを構想する「デザイン力」

そして、国際性を涵養するための教育の中核として、これまでの外国語教育を発展させた新たな外国語教育を構想している。この教育には以下の2つの柱が設定されている。

- (1) グローバル化する社会に対応し国際的に活躍できる英語力を有する人材の育成
- (2) 多言語・多文化への深い理解にもとづく国際的視野をもった人材の育成

新たな外国語教育においては、外国語科目ではなくグローバルコミュニケーション科目という枠組みの下に各種の科目が提供される（2017年2月外国語教育改革報告書）。

一方で、国際教育交流センターにおいてはこれまで、基礎日本語教育の改革及び上級段階のアカデミックな言語活動技能の科目の改革を推進し（科研費基盤研究(B) 課題番号 21320093『留学生大量受け入れ時代に向けた大学における新たな日本語教育スタンダードの構築 研究成果報告書』）、さらに中級基礎段階のカリキュラム・教材開発を行ってきた（西口（2014）、西口（2016）、いずれも大阪大学リポジトリ OUKA から入手可能）。こうした一連の改革の次のステップとして、本センターでは本年度より、上述の大阪大学における共通教育・教養教育の改革及び外国語教育の改革と歩調を合わせる形で、従来の国際交流科目日本語の上級段階の教育改革の検討に着手した。

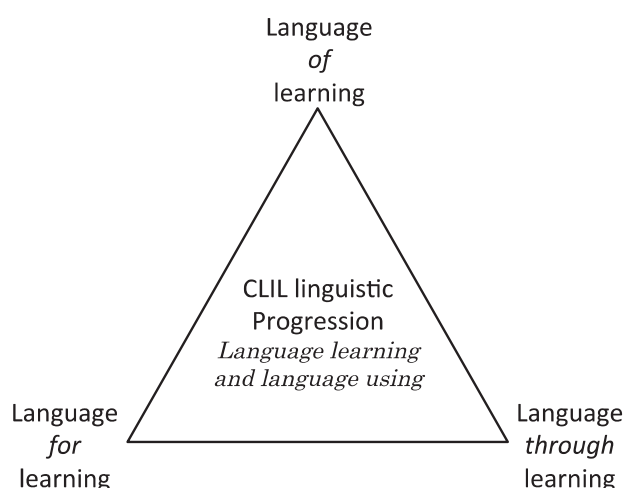
(2) 日本語・グローバル理解演習（仮称）

現在、大阪大学には毎年約200名の交換留学生が訪れ、所属学部の講義や英語で行われる国際交流科目の講義を受講し、大部分の学生は同時に国際交流科目の日本語科目の下に日本語を学習している。これまでの上級日本語科目、具体的にはJA500とJA600では、聴解・読解・作文・プレゼンテーション等の言語技能を養成することを主眼とした教育を実施してきた。そうした中でテーマが設定されることもあったが、それはあくまで言語活動を行うための題材として扱われ、テーマがそれとして注目されて教育内容として設定されることはなかった。近年、外国語教育学においては、内容と言語を統合した教育方法が注目され、ヨーロッパにおいてはCLIL（content and language integrated learning）の名の下に、北米においてはCBI（content-based instruction）の名の下に教育が企画され実践され、成果を挙げている。こうした新たな外国

語の教育方法に注目して、本センターでは、本年2月21日に、第10回大阪大学専門日本語教育研究協議会として、FDを兼ねてCLILをテーマとしたシンポジウムを開催した（本年報のp.18）。

上級日本語教育は、上級外国語教育としては上記(1)の英語教育と通じ、異言語・異文化理解の教育としては上記(2)の多言語・多文化教育と共通の側面を持つ。そのような点と上述のCLILの考え方に注目すると、上級日本語教育は、日本語力の増強を図ると同時に、日本の文化を知り理解するという2つの側面を有する複合的な科目として企画し実施するのが、留学生の興味・関心にも合致し、日本語の教育としても有効であろうと判断される。一方で、日本文化理解の側面については、さまざまな言語的文化的背景を有する留学生という学習集団での学習においては、日本の社会や歴史や文化などを単に学習するのではなく、学生集団が有する文化的多様性をも学習のための資源として投入しつつ、文化の相互浸透や拡散の状況などにも注目して、現代社会におけるグローバルな状況についての理解を深めることが重要であろう。

以上のような考えに基づいて、上級段階の新たな日本語教育として今後、日本理解とグローバル理解及び日本語の教育を統合した日本語・グローバル理解演習（仮称）を企画・開発し、2019年度の外国語教育改革の実施に歩調を合わせて、2019年4月以降順次実施していくこととした。2017年度においては、上述のような趣旨の教育の具体的な内容や方法を検討し、さらに、具体的な科目を企画してカリキュラムや教材の開発を進めていく予定である。15回の授業を1科目とする日本語・グローバル理解演習（仮称）は、8週間のクォーター科目や夏季集中の科目などにも適用しやすいという利点もある。



CLILの概念図の1つである言語三角図（Coyle, Hood & Marsh 2010）

2. 関西の企業における元留学生社会人交流会「サロン・デ・ゼクスパット」の活動

大阪大学国際教育交流センターでは、社会貢献活動の一環として、2016年7月から関西の企業における元留学生社会人交流会「サロン・デ・ゼクスパット」（以下、「ゼクスパット」とする）を関西経済連合会（以下、関経連とする）と協力してコーディネートし実施した。本稿では、当該活動の背景と実績、活動内容の概要を報告するとともに、所感を述べる。

(1) 背景

本稿における「ゼクスパット」は、関経連に事務局を置く「グローバル人材活用運営協議会」の事業の一環として実施されているものである。「グローバル人材活用運営協議会」は、留学生の就職支援に取り組んでいる経済団体、大学、大学コンソーシアム、行政機関とともに、産学官協働によって2013年6月に設立された¹⁾。

2016年5月には、関西で働く一人の外国人社員の問題提起により、元留学生社会人交流会として「サロン・デ・ゼクスパット」が発足した。同年7月から関経連と協力して、元留学生社会人のネットワーク形成と学びの場としてデザインし、月1回（19:00～21:00）実施している。

(2) 開催実績

これまでの開催実績は、下記のとおりである。これまで関西の企業19社から延べ63名の元留学生社会人が参加しており、ほかにも、企業、大学、行政の関係者、留学生が参加した。

実施年	実施日	参加者人数	特記事項	開催場所
2016年	7月20日	10名		グランフロント大阪 北館 7階 ナレッジサロン
	9月1日	9名		
	10月6日	8名		
	11月10日	6名		
	12月14日	34名 (内、元留学生社会人12名)	拡大版 (企業・大学・行政関係者12名、留学生10名を含む)	
2017年	1月23日	10名		グランフロント大阪 北館 タワーC 9階大阪大学工学研究科オープンイノベーションオフィス
	2月16日	18名 (内、元留学生社会人5名)	大阪大学工学研究科アジア人材育成研究教育プログラムとのコラボ企画 (留学生11名を含む)	
	3月16日	4名 (内、元留学生社会人3名)	留学生1名を含む	

(3) 活動内容の概要

「ゼクスパット」では、元留学生社会人のネットワーク形成と学びの共同体の構築を支援することを目指し、ケース学習を中心とした討論活動を行っている。ケース学習とは、事実にもとづくケース（仕事上のコンフリクトの事例）を題材に、設問に沿って、参加者が協働でそれを整理・討論し、時には疑似体験しながら考え、解決方法を導き出し最後に一連の過程について内省を行う学習方法を指す（近藤・金2010）²⁾。ケース学習で使用されるケース教材は、実際の企業で生じた出来事をエピソードにしたもので、ビジネス関係者へのインタビューをもとに書かれている。

これまで取り上げてきたケースの例には、「結論は同じなのに…」「まだ9時半です！」「私に任されたはずなのに…」「もう変更はできません」「ほう・れん・そう!?!」「もう動かさないで！」「完成度」などがある³⁾。参加者は、各ケースについてグループで討論し、そのケースにおける問題（コンフリクト）を可視化し掘り下げ、さらに全体で討論しながら、解決策とその妥当性について考える。この過程で参加者は、自分自身の職場での経験や仕事上の価値観を共有しつつ、各自の問題解決への糸口を見つけたりする。



「元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット」でのケース学習の様子
(2016年9月1日、第4回目)

2016年12月には、企業・大学・行政の関係者および現役留学生を交えた形で、拡大版の「ゼクスパット」を実施した。当日は、バックグラウンドの異なる参加者間でケース学習を体験してもらい、参加者間のネットワーキングを図った。事後アンケートには、様々な意見が挙げられたが、その中から、社会人参加者から得られた「ケース学習（「ほう・れん・そう!?!」）や職場のコミュニケーションについて」の肯定的なコメントをいくつか示しておく。

表1 12月の拡大版「ゼクスパット」の事後アンケートにおけるコメント例

日本人社会人の参加者の声	元留学生社会人の参加者の声
• 日本的な「空気を読む」「感じ取る」という風土への感じ方についてヒントがあった。	• 自分の意見が言えるし、他の方の意見と経験を聞くことができよかった。
• 時代の変化を感じさせられる会合だった。外国社員、留学生も色々変化があり、かなりグローバル化が進んでいると感じている。	• 日本人から見たら普通であることを、外国人にとっておかしいと思う場合は多いと思う。しかし、どこがおかしいか、日本人はわからないので、両方とも話し合うことが大事だと思う。
• 色々なバックグラウンドの人と話し合うことができ有意義だった。	• お互いに立場を気にせず、気軽に意見交換ができる場なので、視野も広げやすいと思う。
• 外国の方が思った以上に「日本の企業がどういものか」を知っている、考えていると思った。それに対し、受け入れる日本人、日本企業の側も文化の違いに寛容になり、理解するように努めることが重要ではないかと思う。	• 一つの問題に対して、複数の職種・業界などの例があれば、もっと分析が深まるのではないかと思う。

2017年2月には、留学生との合同会合に向けて、現役留学生を交えたコラボ企画を試みた。大阪大学工学研究科アジア人材育成研究教育プログラムの留学生を始めとする大阪大学の学部生・大学院生、関西大学、大阪市立大学の留学生が参加した。グループでケース学習（「完成度」）による討論活動を行った後、参加者間での交流の時間も設けた。留学生の多くは、就職活動やインターンシップを控えており、社会人の先輩からの経験に基づいた意見に耳を傾けていた。以下に、終了時に得られた参加者からの肯定的なコメントをいくつか示しておく。

表2 2月の「ゼクスパット」終了後の参加者のコメント例

元留学生社会人の参加者の声	現役留学生の参加者の声
• いつも思うことですが、どこまでが異文化の問題なのか、単純に人と人の違いなのか分かりません。最近では平成生まれ、ゆとり世代でも色々な問題があることも多いと思います。	• これからの社会人生活についての不安感を払拭できました。先輩たちや就活の仲間から色々な面白い意見を聞けてとても勉強になりました。これからもぜひ参加させてください。
• 評価やアドバイスをするときは、認めるところと指摘するところをわかりやすく説明する！	• この場を通して「成長」という言葉を実感しました。自分でもそうだし、ケースの中のシャームさんと会社もきっと成長したと思います。失敗してからの成長ですね。
• 報告や相談の重要性についてもう一度考えさせられました。	• ディスカッションのテーマがなかなか良かった。すごく共感したし、上司の立場から考えることで、確かに理解しやすくなった。
• 自分だけに起こっていることではないことがよくわかりました。書式と内容の両方が整っていることがベストなら、それを目指すことは重要だと考えます。	• もっとたくさんのケースを知りたかったです。日本人は書式のどこを特に気にしているか、例があればよかったと思います。

(4) 所感

本稿で取り上げた「ゼクスパット」での一連の活動は、元留学生社会人の横と縦のつながりを支援し、働く中で感じる問題を他者と共有することで各自が置かれている状況を理解し、ひいては自分の働く現場での実践をより良くするということを目指すものである。これまで関西の企業 19 社から延べ 63 名の参加者が継続的に参加していることから、一定の貢献ができていると考えている。

最後に、これまでの参加者の声や議論の内容を踏まえて、担当者としての所感を述べる。一つ目に、元留学生社会人参加者が議論したいと思っている問題の多くは、外国人社員だからというより、現代社会において働く者ならだれもが感じ得る共通の問題でもあるように思われる。現在、留学生の就職後の定着支援を図る取り組みが日本の各所で始まっているが、彼ら自身の経験に基づく問題提起をきっかけに、同時代を生きる日本人社員を含め、企業関係者との開かれた話し合いの場をもっと積極的に作ることが、今後重要になってくるのではないだろうか⁴⁾。

二つ目に、大学・大学院で学ぶ留学生については、社会人の先輩との交流の機会を作ることもさることながら、狭い意味での日本の企業文化の理解に留まらず、在学中にもっと「働くこと」や「ダイバーシティ」について考え、自分とまわりとのつながりを見渡して理解し、人・物・情報の移動や企業間の競争が激しくなる時代においていかに生きるかについての展望を得ることが重要であろう。これらの観点を含めて、引き続き、支援を行っていく予定である。

注

- 1) 「グローバル人材活用運営協議会」の設立については、『経済人』（関経連 2013）の Close up の記事を参照されたい。同記事によれば、2013 年設立当時の構成員は、経済団体など、大学、大学コンソーシアム、政府機関を合わせて 20 団体である。http://www.kankeiren.or.jp/keizaijin/13_08closeup.pdf
- 2) ケース学習については、次の解説の後半部分を参照されたい。金孝卿・近藤彩（2017）「人材育成を目指すビジネスコミュニケーション教育」『日本語教育通信 日本語・日本語教育を研究する 第44回』国際交流基金 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/reserch/201702.html>
- 3) 使用したケース教材は、近藤彩・金孝卿・ムグダヤルディ・福永由佳・池田玲子（2013）『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習 職場のダイバーシティで学び合う【教材編】』ココ出版より。
- 4) 「ゼクスパット」の活動については、これまでも企業関係者への情報発信を行ってきた。その例に、ジェトロ大阪本部・関西経済連合会（グローバル人材活用運営協議会）「中堅・中小企業等の海外展開における高度外国人材の活用」に係るワークショップ（育成・定着、異文化マネジメント編）、話題提供（金孝卿）「関西における留学生の就職後の定着支援の取り組み」、2016 年 11 月、が挙げられる。

3. 短期プログラムの「将来像」について

2015年3月に策定された「大阪大学国際戦略」では、2020年までの目標として；

学部生の 10%

大学院生の 25%

全体の学生人口での 15%

を留学生とする意欲的な数値目標を立てている。そして2024年度にはその割合を17%まで伸ばすとしている。

そういった目的に向けての戦略的組織として2016年に設置されたのが「高等教育・入試研究開発センター」である。しかし現実には定員管理の厳格化などによって私費留学生の大幅な受入強化などは、全学からの合意を受けるのは難しく、やや雲行きが怪しくなっているのが実情である。そのため、留学生受入の量的増大については、グローバルイニシアチブセンターによって主導される「大阪大学ASEANキャンパス設置構想」（ASEAN域内に概ね4キャンパス程度を設置して、現地の企業などとも協力しながら、高度グローバル人材育成教育・研究を展開する）の設置とともに、引き続いて国際教育交流センターなどが中心となりつつ「交換留学生」「サマースクール参加学生」などの非正規生としての学内受入を推進することが必要となると考えられる。

本センター短期留学プログラム研究開発チームでは、授業料不徴収型、つまり交換留学ベースのプログラムとして国際教養・専門複合型プログラム（いわゆるOUSSEP）を運営してきた。1996年に22名の受入で発足して以来、本プログラムは順調に受入数を伸ばしており、年間100名以上を受け入れている。プログラムで定着した自主研究科目を発展させる形でFrontierLab@OsakaUといったプログラムを成立させ好評を得ている。

また2016年度は人間科学研究科が新規の短期プログラムのFrontier Human Science ProgramをMonash大学と協働で立ち上げた。本センターからはプログラム設計に関してのアドバイスおよび日本語教育の実施とインターンシッププログラムの設計・実施について人間科学研究科に対して積極的に貢献した。関係者の協力を得て、本プログラムは様々な問題を孕みながらも、無事に運命を軌道に乗せることが出来ている。海外有力協定校の要望に応えつつ、既存の教育リソースであるG30英語コースを活用して新たな受入スキームを作り上げる先事例となったと前向きに評価をしても良い。OUSSEPが1996年に創設されて11年目に部局主体で新規受け入れプログラムが創設されたのは慶事であると言えよう。学内での短期プログラム運営活発化の気運を捉え、例えばInternational Collegeなどとも協力しつつ、学術的に意義深い授業料不徴収型のプログラム群の設計を刺激する必要がある。

また日本サイドで付与する奨学金資源なども枯渇していく中で、交換留学よりも短い期間で完結し、在籍校の授業スケジュールにも影響されるところの少ない「授業料徴収型プログラム」として、本センターでは日本語防災プログラムと、学期内日本語専修プログラム（いわゆるJ-ShIP）を運営してきた。基本的な考え方としては、本センターが提供しうる教育リソースとしては日本語をキラーコンテンツとして利用していくのが相応しいという考えに基づいている。

ただし、世界最先端の研究を数多く手がけている本学のプログラムとして、やや言語に偏ったプログラム構成になっている事は否めない。本センターが主体的に手がけているわけではないが、チーム教員が協力しながらFrontierLabのサマースクール版が2015年度から運用が始まっているのは朗報である。各研究科の力を結集して従来の交換留学協定の、いわば「外側」に増設・拡張を可能とするプログラムデザインで

あり、教室や宿舍などのキャパシティを調整していくことで、かなり柔軟に対応することが出来るはずである。その意味では、こういった設計のプログラムをさらに拡張していくことは理に適っている。

その一方で、当初に掲げた「大阪大学国際戦略」に掲げられた目標を達成するためには、それでも追いつかないほどに受入数を「かさ上げ」していく必要がある。昨年度年報では、短期プログラム開発研究チームを預かる立場として近藤佐知彦からは《インターンシップの制度化・短期プログラム化》《日本の大学間での協働（joint）受入プログラム》などの提案を行っている。例えば《インターンシップ制度化・短期プログラム化》は、いわば教育部分のアウトソース化であるが、同時に学生交流のロジスティック部分のアウトソース化も考えるべき時期にきて居るかもしれない。

《学外教室の活用》

非正規生を増やしていくとすれば、現在の大学の枠組みの「外側」に留学生を積み上げていく事になるが、同時に従来型の教室ローテーションなどとは整合性がとれなくなる可能性もある。近い将来には箕面キャンパス移転に伴い、現在のように教室にゆとりがある状況は期待できなくなりそうなことも心配のタネである。新キャンパスに併設されるという箕面市の会議室・集会場設備の活用や、場合によっては地域の塾や英語教室と連携するなど、従来のあり方にとらわれないロジに関する発想が必要になるかもしれない。

《新発想ホームステイ》

例えば既にJ-ShIPにおいてホームステイを外部エージェントなどに任せる方向で運営をはじめているが、上記地域の塾や英語教室などとも連動させ、地域の家庭で子供達などのグローバル人材化支援や語学学習者に対する支援などのタスクを付して、安価でステイさせる方法などの開発も考えられる。運営自体は引き続き外部エージェントに任せるとしても、様々なバラエティをつけることでファミリーが得られる魅力を「見える化」させ、新たなファミリー開拓につなげることも考えられるかもしれない。

以上、本稿については短期プログラムのコーディネートや開発を行ってきた経験から、近藤佐知彦が個人的に記しているものであり、本センターの見解を代表しているものではない事はおことわりした上で、今後の読者諸賢のご意見を乞いたい。

4. Frontier Human Science プログラム

2015 年 11 月にオーストラリア総領事館を介して、全学協定校であるモナシュ大学関係者から以下のようなコンタクトがあった。

- ① モナシュ大学が新コースとして Bachelor of International Business Administration のコースを新設し、モナシュカレッジがその運営を行う。
- ② 新コースでは半年程度の海外留学を履修課程に組み込む予定。そのためには英語で Bachelor 程度の正規授業が提供出来るパートナーを探している。
- ③ インターンシップなどが出来ることが望ましく、豪州国籍の学生は新コロomboプラン（奨学金）の対象ともなる。
- ④ アジア各国（中国など）とともに、日本にも 20 名程度の学生を派遣できるパートナーを探したい。

以上の問合せを受け、本センター教員が、国際部国際学生交流課、人間科学部（研究科）の G30 英語コース関係者、国際交流担当副学長などと領事館担当官やモナシュカレッジと関係者との面談をセッティングしている。

その後多少の紆余曲折はあったが、モナシュ大学と大阪大学との全学学生交流協定に附属する「Frontier Human Science Exchange Program」協定書（本学からは総長名）が 2016 年 5 月 4 日に発効、人間科学部が提供する G30 英語コースの指定授業を中心に 20 人までのモナシュ生を秋学期からの半年間受け入れ、日本語授業も受講させることが決まった。その見返りに日本側からは年間 10 人の授業料不徴収枠を確保することが出来ることになっている。またプログラム運営費として年間二万豪州ドルが支払われることになった。

上記の枠組みを作り上げていく上で、本センター短プロチームから人間科学研究科（G30 英語コース）に適宜アドバイスを行うと共に、豪州側が重視しているインターンシップについては、同じく短プロチーム教員が奔走して、二つの会社で三人分のインターンシップ機会を新たに創成している。これは当初モナシュ大が日本企業との連携の下に企業見学ツアーなどをセットアップしようとしたものの、学生の属性などによって企業から、三人の学生が見学を断られるといった事態が生じてしまったことに対応したものであった。その枠組みは「HELP!」の英語研修を使って若手職員の英語研修の一助となるように活用をしたものであった。また複数のモナシュ大学生が「HELP!」に参加するなど、日本人学生との交流などにも積極的に加わっている。ちなみに上記の協定書中にも「HELP!」への参加可能性について言及した条文がモナシュ側の希望でつけ加えられるなど、G30 コースでの英語授業だけに限らず、日本語授業をはじめ、本センターが全学対象に提供しているサービスを評価されてモナシュとの新しい枠組みが作られている、といってもよい。

また過密になる日本語クラスに対応して、既述のプログラム運営費の一部を割り、日本語チームの協力によって JA100（初級）クラスが増設されて、モナシュ生を収容している。

スーパーグローバル大学創成支援や、その他のプロジェクトの中で高く掲げられる留学交流の数値目標であるが、多くの阪大生にとって、比較的言語障壁の低い英語圏との関係強化は戦略上必要であるのは言うまでもない。英語コースの教育コンテンツ活用によって「年間 10 人」の授業料不徴収枠を稼ぐという Frontier Human Science については、かねてからの懸案であったいわゆる「文系 Frontier」について一定解を出したものであるともポジティブに評価できる。同様の枠組みについては、その後本学と接触を持ったシンガポール国立大の関係者なども高い関心を示しており、今後モデルケースともなり得るのではないかと期待している。

5. 2016 年度国際教育交流センタースピーチコンテスト

今年度も吹田キャンパスにおいて国際教育交流センタースピーチコンテストを開催した。「留学からわたしが得たもの（好奇心の赴くままに、勇気を持って突き進め!）」という共通のテーマのもとで、大阪大学で学ぶ外国人留学生と留学帰国者がともにスピーチを披露し、成果を競い合った。審査の結果、言語文化研究科所属の張硯君さんが最優秀賞に輝いた。

【2016 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト 受賞者】

最優秀賞	張 硯君	言語文化研究科	「耳を澄ましたら、 聞こえてくるものがある」
優 秀 賞	金 範俊	文学部	「空気を読むより 新しい空気を吹き込もう」
優 秀 賞	孫 亦凡	人間科学部	「人生の舞台で、声を出したい」
特 別 賞	Kishinami Jessica Megumi	日本語日本文化教育センター	「始まりはいつも自分から」
特 別 賞	Alizadehkolagar Seyedehmehrasa	情報科学研究科	「日本から世界を見ること」
特 別 賞	山本 晟太	外国語学部	「中国の多様性」
特 別 賞	Lashkevich Nataliya	文学部	「より広い世界へ」

【受賞者と審査委員】



【プログラム】

2016 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト プログラム（敬称略）

主 催：大阪大学国際教育交流センター
協 賛：国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ
日 時：2016 年 12 月 12 日（月）16：30～18：30
場 所：吹田キャンパス IC ホール（大学本部棟西隣）4 階会議室
総合司会：国際教育交流センター 特任助教 歳岡 冴香

- 開会の挨拶
国際教育交流センター 副センター長 教 授 村 岡 貴 子
- 来賓紹介
千里ロータリークラブ 青少年奉仕委員長 小 谷 澄 信
社会奉仕委員長 西 田 泰 晤
会長エレクト 古 城 紀 雄
- 審査委員紹介
千里ロータリークラブ 青少年奉仕委員長 小 谷 澄 信
経済学研究科 准教授 中 川 功 一
国際教育交流センター 准教授 大 谷 晋 也
国際教育交流センター 特任准教授 魚 崎 典 子
- スピーチコンテストの流れ、および審査方法の説明
- 出場者スピーチ

***** 休憩（10 分）*****

- 表彰（各賞贈呈）、記念撮影
国際教育交流センター長 教 授 有 川 友 子
千里ロータリークラブ 青少年奉仕委員長 小 谷 澄 信
- 審査総評
国際教育交流センター 特任准教授 魚 崎 典 子
- 受賞者挨拶（代表）
- 閉会の挨拶
国際教育交流センター長 教 授 有 川 友 子
- ティーパーティー：IC Hall @ IRIS へ移動

【募集要項】

2016 年度 大阪大学国際教育交流センター
スピーチコンテスト発表者募集要項

1. 日 時	2016 年 12 月 12 日 (月) 午後 16:30~18:30 (予定) (選考・表彰式・写真撮影を含む)
2. 場 所	吹田キャンパス IC ホール 4 階会議室
3. 題 目	「留学から私が得たもの」※内容に合わせて副題をつけてください。
4. 主 催	大阪大学国際教育交流センター
5. 協 賛	国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ
6. 応募資格	① 本学に在籍する日本語を母語としない留学生 ② 海外に 1 学期間以上留学・特別プログラム等で長期滞在した経験を持つ学生 (学部生・院生・国籍を問わない) で大阪大学に在籍している者
7. 応募方法	国際教育交流センターのホームページにある応募用紙 (概要 400 字程度) と学生証コピーをメールに添付して送付してください。 または、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室へ提出してください。
8. 応募用紙	Word ファイル (Office2003 以上) を以下からダウンロードしてください。 【2016 年度留学生スピーチコンテスト応募用紙】 URL : http://www.ciee.osaka-u.ac.jp/
9. 応募締切	2016 年 11 月 28 日 (月)
10. 書類審査及び発表者の決定	応募者の中から書類選考を通過し、実際のスピーチコンテストにて発表して頂く学生へ 12 月 2 日 (金) (予定) までに直接メールで連絡します。 また、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室にて該当者の掲示を予定しています。
11. スピーチ要領	① 日本語で 6 分以内の発表 ② 計 6 分の発表 (最初に留学先で使用した言語を使い 3 分以内のスピーチを行い、続いて日本語で同じ内容の 3 分以内のスピーチを行うこと) ※パワーポイント使用可。
12. 審査基準	スピーチの内容や構成、メッセージのアピール力や表現能力などを総合的に評価します。言語運用能力は評価項目の一つです。 留学生の場合は、日本語学習歴、滞在期間を考慮して審査を行います。
13. 表彰・副賞	スピーチコンテストの後に、表彰式を行います。 ・最優秀賞：賞状・2 万円分図書カード (1 名) ・優 秀 賞：賞状・1 万円分図書カード (2 名) ・特 別 賞：賞状・5 千円分図書カード (4 名) ※出場者全員に参加賞があります。
14. 応募先・問い合わせ先	国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室 E-mail : iris@ciee.osaka-u.ac.jp (件名に「スピーチコンテスト応募」と明記してください。)
15. その他	・表彰式終了後、IRISにてティーパーティーを予定しています。 ・受賞者の方々には、海外留学オリエンテーション等において体験談発表の依頼をする場合があります。

6. 派遣プログラム運営アウトソース化など

大阪大学のスーパーグローバル大学創成支援事業では、平成32年までに海外派遣数を倍増させる（全学生の4%から8%へ）という目標を掲げている。現在本センター・短プロチームでは交換留学派遣に加え、エセックス大学（英国）やモナシュ大学（豪州）への休暇中の短期プログラムなど短期派遣にも取り組んできた。学生を持たない、いわば「大学中央」である本センターとしては、専門性の高いプログラムよりも、休暇中の短期派遣の「次のステップ」、つまり将来の交換留学参加などにつながる語学資格取得などを目的とするプログラム運営を心がけてきている。専門性の高いプログラムは各部署のイニシアティブにお任せするとして、主として低年次生などを対象として、学部横断的な汎用性の高いプログラムの開発運営が本センターのミッションだと信じているからである。

汎用性の高いプラン、としてどのようなものを企画するのかは様々な方法があると思われるが；

- ① 外国語
- ② 異文化体験
- ③ 国際交流
- ④ インターンシップ

などについて、学生達に刺激を与えるプランが考えられる。

そのような中、特に①に関するプログラム運営の受託について、外部のエージェントから打診を受けるような機会もあり、現在国際部国際学生交流課と短プロチームとの間で種々の交渉、検討そして情報収集を行っている。

具体的にどのように動くかは未だに見えてきていないところであるが、概ね以下の様な方向性で送り出し先の多様化や運営の簡素化、一部外部委託などの方策が考えられる。なお、本センターで留学プランを考えていく際には「単位化できるような教育的コンテンツが含まれ」「教育効果を測定できるような資料を得られる」プログラムであることが条件となる。

《従来型派遣の運営アウトソース》

現在日本学生支援機構で想定されている「短期派遣」のモデルは、大学等が企画してまとまった数の学生を単一派遣先に送り出すという、いわば「集団企画旅行型モデル」のプログラム群である。現在センターで取り組んでいるプログラムもこのカテゴリーに含まれるが、他学においては留学先選定、交渉、成績等の取りまとめなどを外部エージェントに任せ、留学申し込み等についても大学事務ではなくエージェントがおこなう、という事例が見られるようになった。本学に対してもそのようなアプローチは複数きており、情報収集を進めるとともに、近い将来にそのような方向性で、低学年学生対象の派遣留学先の多様化を進めることを検討中である。

《認定留学多様化》

上記は「集団企画旅行型」であるが、2度目3度目の留学や、外国語学部などに散見される英語以外の言語を深めたい学生などに対して、上記のような従来型派遣プログラムが「食い足りない」ケースも考えられる。単一もしくは複数のエージェントの間で協議を進め、本学で単位を認定できる最低限のスペックを定め、それらのスペックを満たす派遣プログラムについては単位認定が出来る仕組みを構築する。そのことによって、学生達の自主的な自己研鑽の機会についても、本学から単位が与えられ、また本学にと

っては、それらの学生の学びが可視化される。なお、上にあげた事項としては、本センターでは概ね①や④のように、成果が見えやすいプログラムについて認定をおこなう方向になるのではないと思われる。また従前外国語学部でおこなわれていたという「休学留学」では、専門科目の認定をおこなっていたわけで、部局の協力があれば、より専門性の高いプログラム（科目）を認定することも可能になる。

《サマースクール認定》

本学協定校でも質の高い様々なサマースクールなどが開催されているが、参加等について各学生の自主性に任されているのが現状であり、大学として組織的な対応はしてきていない。既述のように「単位化できるような教育的コンテンツが含まれ」「教育効果を測定できるような資料を得られる」プログラムであることが確認できた場合、情報収集から学生募集について一部を外部に委託し、大学として単位付与および互換を進めていく。たとえば上記②③といった内容については教育効果が認定しにくい場合もあるかもしれないが、協定校における異文化体験・国際交流、といった面での安心感も付与される。留学初心者にも比較的ハードルが低いであろう多様なプログラムを用意することにより、本学から「トビタツ！」学生がさらに増えてくれることを願いたい。

なお上記のようなプログラムを構想した場合、一つの問題点は最初の《従来型派遣プログラム運営アウトソース》以外では、日本学生支援機構の助成を受けられないのではないかと、ということである。そのあたりの問題点については、本学の国際化施策全般との整合性も考えながら、みなさまと話し合っていくと考えている。

7. CIEE 協議会シリーズ ― 多文化交流の最前線 ―

例年と同様、平成 28 年 2 月に 3 つの研究協議会を主催した。以下、それぞれの概要とプログラムについて報告する。

2 月 3 日(水)：国立大学法人留学生指導研究協議会

本協議会では、第Ⅰ部で「留学生アドバイジングの過去・現在・未来」というテーマで COISAN 設立 20 周年シンポジウムが行われた。第Ⅱ部では、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室専門官の泉茂樹氏から「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」のご説明の後、「障害を持つ留学生への支援」をテーマとした協議を行った。まず名古屋大学国際教育交流センター特任講師の酒井崇氏が講演を行い、その後、3 つの分科会にわかれてディスカッションを実施した。



分科会での討議、全体討論を通して、障害を持つ留学生支援について、教育・制度・環境面から改めて検討した。＜出席者：71 名（学内 13 名・学外 58 名）＞

2 月 21 日(火)：第 10 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

本協議会では「内容言語統合型学習（CLIL）の実践に向けて」というテーマのもと、「CLIL（内容言語統合型学習）の理論・事例・発展」（上智大学文学部英文学科教授・池田真氏）および「名古屋大学日本法教育研究センターと CLIL」（名古屋大学大学院法学研究科特任講師・宮島良子氏）の 2 つのご講演をいただくとともに、本センターからも、西口光一教授が大阪大学における CLIL の実践に向けて、その背景と展望について報告した。全体討論では、様々な立場の参加者から質疑が交わされ、活発な論議が展開された。＜出席者：65 名（学内 30 名・学外 35 名）＞



2 月 16 日(木)：第 25 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

第 25 回となる本協議会では、「大阪大学各留学生会の活動と各国の文化について学ぼう」というテーマで大阪大学中国留学生会、インドネシア留学生会、ベトナム留学生会、インド留学生会の留学生たちが活動の紹介や各国文化についての発表および民族音楽のパフォーマンスを行った。本協議会ではホストファミリー、家主など、地域にて様々な形で留学生支援に関わるボランティアや国際交流団体関係者等と大阪大学関係者が一堂に会し、留学生支援に関わる本学と地域とのネットワークを更に充実させている。＜出席者：167 名（学内 49 名・学外 118 名）＞



平成 28 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会
兼 第 46 回大阪大学留学生教育・支援協議会

日 時：平成 29 年 2 月 3 日(金) 10:30～17:20

場 所：大阪大学吹田キャンパス銀杏会館 3 階ホール

主 題：第Ⅰ部 「留学生アドバイジングの過去・現在・未来」10:30～12:45

第Ⅱ部 「障害を持つ留学生への支援」 13:30～17:20

次 第（敬称略）

[総合司会 大阪大学国際教育交流センター 有川 友子]

第Ⅰ部 10:30～12:45 COISAN 設立 20 周年記念シンポジウム

「留学生アドバイジングの過去・現在・未来」

ファシリテーター：茨城大学留学生センター教授 安 龍洙

10:30～10:40 大阪大学国際教育交流センター長 有川 友子

「留学生アドバイジング体制の現状」

10:40～11:00 大阪大学名誉教授 古城 紀雄

「留学生政策・留学生制度の側面から」

11:00～11:20 神戸大学名誉教授 瀬口 郁子

「グローバル人材育成事業と神戸大学海外同窓会との連携
— 海外インターンシッププログラムを事例として —」

11:20～11:40 横浜国立大学名誉教授 門倉 正美

「日本語教育も含めた留学生アドバイジングの方向性」

11:40～12:45 全体討議

第Ⅱ部 13:30～17:20

挨拶（13:30～13:40） 大阪大学理事・副学長 山中 伸介

1. 留学生受入れに関する施策

説 明（13:40～14:10）

「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」

文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室専門官 泉 茂樹

質疑応答（14:10～14:20）

[2.& 3.& 4.コーディネーター：東京大学国際センター准教授 大西 晶子]

2. 講演（14：30～15：20）

「障害のある留学生の受入対応について ― Inclusion の実現を目指して ―」

名古屋大学国際教育交流センター特任講師 酒井 崇

休憩・移動（15：20～15：35）

3. 分科会「障害を持つ留学生への支援」（15：35～16：35）

A：「教育・研究指導における支援 ― 教育的配慮の課題」

ファシリテーター：北海道大学国際連携機構国際教育研究センター准教授 青木麻衣子

B：「制度的支援 ― 受け入れ時の制度整備」

ファシリテーター：三重大学教育学部講師 服部 明子

C：「学生生活全般の支援 ― 学生を支えるキャンパス環境の整備」

ファシリテーター：名古屋大学国際教育交流センター教授 田中 京子

4. 各分科会からの報告と全体討論（16：40～17：10）

閉会の挨拶（17：10～17：20） 大阪大学国際教育交流センター長 有川 友子

懇談会（17：30～19：00）

以 上

第 10 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

日 時：2017 年 2 月 21 日(火) 13:00～17:00 (受付 12:40～)

場 所：大阪大学吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5 & 6

主 催：大阪大学国際教育交流センター

— 内容言語統合型学習 (CLIL) の実践に向けて —

総合司会 国際教育交流センター 特任准教授 金 孝卿

13:00～13:10 開会の挨拶 国際教育交流センター センター長 有川 友子

13:10～14:00 講演 1：CLIL（内容言語統合型学習）の理論・事例・発展
上智大学文学部英文学科 教授 池田 真
大学院言語科学研究科英語教授法コース兼任

14:00～14:10 休 憩

14:10～15:00 講演 2：名古屋大学日本法教育研究センターと CLIL
名古屋大学大学院法学研究科 特任講師 宮島 良子
(法政国際教育協力研究センター勤務)

15:00～15:15 休 憩

15:15～16:00 報 告：大阪大学における CLIL の実践に向けて
大阪大学国際教育交流センター 教授 西口 光一

16:00～16:10 休 憩

16:10～16:55 討 論：大学での日本語教育における CLIL の可能性を考える
司会 国際教育交流センター 准教授 西村 謙一

16:55～17:00 閉会の挨拶 国際教育交流センター 副センター長 村岡 貴子



Twitter から参加しよう！

Twitter にて情報を発信しています。

ハッシュタグ (#oujisp10) をつけて、ご意見・感想・質問をどんどん tweet してください！

第 25 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

日 時：平成 29 年 2 月 16 日(木) 13:30～16:30

場 所：大阪大学 吹田キャンパス

銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール

銀杏会館 3 階 大会議室（懇談会）

主 催：大阪大学国際教育交流センター

<プログラム>

(敬称略)

13:30～13:40 挨拶 理事・副学長 山中 伸介

13:40～15:35 大阪大学各留学生会の活動と各国の文化について学ぼう

発表者

李 志豪
(リ シゴウ)

大阪大学中国留学生代表
医学系研究科博士後期課程一年（中国）

Puspito
(ドゥウィ・プスピトサリ)

言語文化研究科（インドネシア）

Nguyenxuan Khoa
(グエンスアン・コア)

情報科学研究科（ベトナム）

Sai Shidhaye
(サイ・シダエ)

日本語日本文化教育センター（インド）

15:35～15:40 挨拶 国際教育交流センター長 有川 友子

15:45～16:30 懇談会

懇談会では松田與三市郎様からのご寄付による国際教育交流センター交流アドバイジング研究チーム助成金より軽食をご用意しております。

8. 研修会・講習会の開催

国際教育交流センターでは、留学生の安全な暮らしを支援するため、「留学生のための交通安全講習会」を4月に開催した。また6月から7月にかけて「留学生のための防犯講習会」を吹田・豊中・箕面の各キャンパスで開催した。10月には交通安全講習と防犯講習を合わせた内容で「留学生のための交通安全防犯講習会」を開催した。さらに、ハラスメント問題に対する意識向上を図るため、教職員を対象とした「ハラスメント問題研修会」を計3回開催した。

(1) 留学生のための交通安全講習会

国際教育交流センターは、留学生の安全な日常生活を支援するため、吹田警察と安全衛生管理部との共催で「留学生のための交通安全講習会」を4月に開催した。参加者は54名であった。

Important information for all international students
留学生の皆さんへ大事なお知らせ



Learn about traffic safety, especially about rules and manners for riding a bicycle!
交通安全、自転車運転のルールとマナーについて学ぼう！

Suita City police will hold a workshop about traffic safety.
吹田警察署による交通安全講習会を行います。

We don't know much about "traffic rules" for bicycles.



※同時通訳あり(Simultaneous English interpretation)
4:30 p.m., Mon., April 11
平成28年4月11日(月) 16時30分～
Large Meeting Room, 3rd Floor, Ichō Kaikan,
Suita Campus, Osaka University
大阪大学 吹田キャンパス 銀杏会館 3階 大会議室

自転車の「交通ルール」について
我々が知らないことを学ぼう！



国際教育交流センター／安全衛生管理部／学生交流推進課



講習会の様子（2016.4.11）

(2) 留学生のための防犯講習会

国際教育交流センターは、留学生の安全な日常生活を支援するため、大阪府警と安全衛生管理部との共催で「留学生のための防犯講習会」を6月に吹田および豊中キャンパスで開催した。また箕面キャンパスではビデオ上映による講習会を7月に開催した。参加者は吹田キャンパス 34 名、豊中キャンパス 28 名、箕面キャンパス 54 名であった。

Important information for all international students

留学生の皆さんへ大事なお知らせ

Learn about safety and crime prevention to protect yourselves!

犯罪にあわないための知識について学ぼう！

Osaka Police will hold a workshop about crime prevention.

大阪府警による防犯講習会実施



[Registration not required] [申込不要]
※Simultaneous English interpretation (英語同時通訳あり)
4:30-5:30 p.m., Mon., June 27
平成28年6月27日(月) 4:30-5:30 p.m.
**Meeting Room 1, 1st Floor, Convention Center,
Suita Campus, Osaka University**
吹田キャンパス コンベンションセンター1階 会議室1

日本人学生も
参加OK





大阪府警察
OSAKA POLICE

国際教育交流センター／安全衛生管理部／国際学生交流課

(3) 留学生のための交通安全防犯講習会

10 月には、交通安全講習と防犯講習を合わせた内容で「留学生のための交通安全防犯講習会」を開催した。参加者は 24 名であった。

Important information for all international students

留学生の皆さんへ大事なお知らせ

Learn about ①traffic safety (rules and manners for riding a bicycle)

②crime prevention to protect yourselves

交通安全、自転車運転のルールとマナー、そして犯罪にあわないための知識について学ぼう！

Workshop about traffic safety and crime prevention by Suita Police

吹田警察署による交通安全と防犯講習会



[Registration not required] [申込不要]
※同時通訳あり(Simultaneous English interpretation)
4:30 p.m.-5:30p.m., Mon., October 24, 2016
平成28年10月24日(月) 16:30~17:30
MO Hall, 3rd Floor, Convention Center, Suita Campus
吹田キャンパス コンベンションセンター3階 MOホール



吹田警察署／国際教育交流センター／安全衛生管理部／国際学生交流課

(4) ハラスメント問題研修会

国際教育交流センターでは、ハラスメント問題に対する教職員の意識向上を図るため、研修会を3回実施した。まず5月13日に主に事務職員を対象として、ハラスメント相談室の上原秀子特任講師による「ハラスメント防止研修会」を計2回実施し、参加者は総計20名であった。3月10日には教職員を対象にハラスメント相談室の中野冬美専門相談員による「ハラスメント問題研修会」を開催した。今回は、特にセクシャル・ハラスメントの問題を中心に講演および質疑応答が行われた。参加者は26名であった。

9. 西口教授、日本語教育学会賞を受賞

本センター日本語教育研究チームの西口光一教授は、長年の日本語教育学研究と日本語教育開発と教材出版などの業績を評価されて、第14回日本語教育学会賞を受賞した。

西口教授は1994年の本センター（前身は留学生センターで、2010年4月に国際教育交流センターに改組）開設以来の教員で、爾来、日本語の習得と教育の言語心理的な側面を考究し、またそうして明らかにされた原理に基づいてセンターの日本語教育の改善と改革に取り組み、そうした研究と実践の成果を論文や口頭発表の形で積極的に発信してきた。その一方で、生活者としての外国人に対する日本語学習支援活動にも直接また間接に関わってきた。今回の受賞は、そうした西口教授のたゆまない日本語教育学と日本語教育への貢献が評価されたものである。

第14回日本語教育学会賞

受賞者

西口 光一氏

【授賞理由】

西口光一氏は、長年に渡り、氏独自の思想に裏付けられた研究と実践に携わり、その思想を多くの日本語教育研究者及び実践者に伝えてこられました。

まず、西口氏の功績の第一に挙げられるのが、先進的な研究の数々です。氏は一貫して接触場面における言語活動の原理を追求する研究に取り組んでこられました。それらの研究成果は多数の論文として発表されていますが、その集大成が単著『対話原理と第二言語の習得と教育—第二言語教育におけるバフチンのアプローチ』（2015年、くろしお出版）と言えます。また、氏はこれまでの研究に、状況論、社会文化的アプローチ、ヴィゴツキー、バフチンなど海外の理論を積極的に取り入れてきました（単著「状況的学習論と新しい日本語教育の実践」『日本語教育』100号（1999年）、共著『文化と歴史の中の学習と学習者—日本語教育における社会文化的パースペクティブ』（2005年、凡人社）、単著「ヴィゴツキー—心理学から見た第二言語の習得」『社会と文化の心理学—ヴィゴツキーに学ぶ』（2011年、世界思想社）等）。そして、単著『第二言語教育におけるバフチンの視点—第二言語教育学の基盤として』（2013年、くろしお出版）には、氏が10年来精力的に取り組んで来たバフチンの理論がまとめられています。これらの研究を通して氏が発信してきたメッセージは、氏の言葉を借りれば、日本語教育研究の中心となる言語を、ラング的に捉えるだけでなく、言語心理機能として捉えることが重要である、ということだと言えます。今でこそ、日本語教育研究には多様なアプローチが存在していますが、その現状を培ってきた先導的存在の一人として、西口氏が挙げられます。

次に、西口氏は所属先の大阪大学で長らく氏の思想を反映させた自己表現中心の基礎日本語教育に取り組んできました。この実践は、基礎的な段階での日本語教育を「ラング的」実践から解放する取り組みだと言えます。それらは、単著『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese—テーマで学ぶ基礎日本語』（2012年、くろしお出版）として具現化されています。その他、単著『基礎日本語文法教本』（2000年、アルク）、単著『例文で学ぶ漢字と言葉 N2』（2005年、スリーエーネットワーク）も氏の思想を具体的な実践の形にした教材としてあげられます。研究、実践に広く貢献されてきた西口氏ですが、その貢献は地域日本語教育の現場にも向けられてきました。氏は地域ボランティア対象の講座講師を担当、ボランティア向け日本語教材『日本語おしゃべりのたね』（2011年、スリーエーネットワーク）を監修し、『日本語教育』138号では「市民による日本語教育支援を考える」（2008）を発表し、そのあり方を示されています。

以上のように、西口氏は多岐にわたる取り組みの中で、一貫して日本語教育における「言語心理的」視点の重要性を伝え、また実践に移してきました。こうした取り組みは、日本語教育全体に大きな影響を及ぼし、研究と実践を先導してきたと言えます。このような西口氏のこれまでの功績を称え、日本語教育学会賞を贈ります。

以上



2016年5月21日、授賞式にて撮影。中央が西口教授。

Ⅱ. 現 況

1. 運営形態

国際教育交流センターは、平成6年に設置された留学生センターが平成22年4月に発展的に改組してできた学内共同教育研究施設である。国際教育交流センターはその最高意思決定機関として国際教育交流センター教授会を置いている。国際教育交流センター教授会は、国際教育交流センター長（本センター教授）、国際教育交流センター教員12名（専任教員9名と特任准教授2名、特任講師1名）、及び各研究科から選ばれた教授または准教授15名、計28名の本学教員で構成されている。本教授会において国際教育交流センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月1回（8月を除く）定例教授会が開かれた。

国際教育交流センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の5つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、国際教育交流センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、国際教育交流センター教員連絡調整会議が毎月1回（8月を除く）開催されている。同会議は、センター長を含む国際教育交流センター教員14名全員（専任教員10名、特任准教授2名、特任講師1名、特任助教1名）及び国際教育共通事務室課長補佐と係員が構成員となっている。この会議を通して、センターの運営や各種業務や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

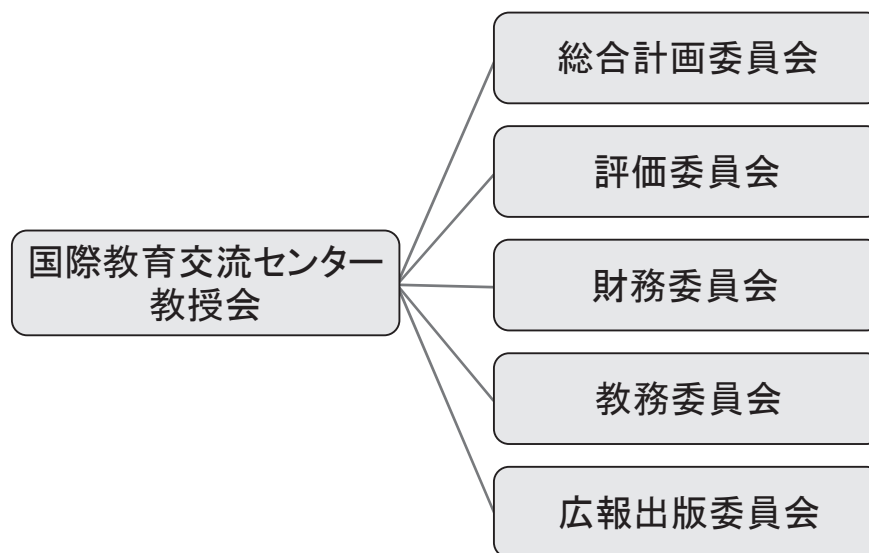


図1 国際教育交流センター教授会と各種委員会

2. 組 織

国際教育交流センターは、交流アドバイジング研究チーム（教授1、准教授1、特任准教授1）、短期プログラム開発研究チーム（教授1、准教授1、特任助教1）、日本語教育研究チーム（教授3、准教授3、特任准教授1、特任講師1）の3つのチームとサポートオフィスで構成されている。そして、教員を中心として、特任事務職員（交流アドバイジング研究チーム2、短期プログラム開発研究チーム3、日本語教育研究チーム1、サポートオフィス2）も参画して、実際の業務にあたっている。

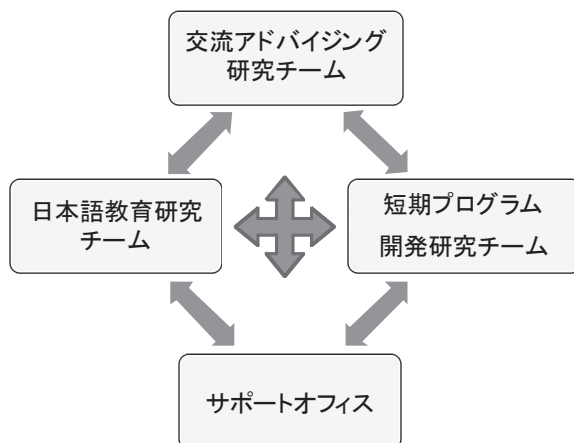


図2 国際教育交流センターのチームとサポートオフィス

また、各チームは必要に応じて相互支援・協力をしながら各種の業務に当たっている。センターが行っている主な業務は以下の通り。

教育	留学生受け入れ支援	海外留学派遣支援	地域・社会貢献	サポートオフィス
- 日本語研修コース - 留学生日本語プログラム - 国際交流科目 - 全学共通教育（日本語と多文化コミュニケーション） - 全学共通教育基礎セミナー - 大学院教育 - 大学院高度副プログラム、大学院高度プログラム、学際融合教育科目 - 超域イノベーション博士課程プログラム、未来共生イノベーター博士課程プログラム - 学部英語プログラムにおける日本語科目と教養科目 - 各種の超短期プログラム	- OUSSEP 運営 - 超短期プログラムの開発と運営 - 留学生オリエンテーション - 留学生を対象としたカウンセリング - 受け入れ・派遣に関わるコーディネーション - 大阪大学留学生会（OUISA）との連携・支援 - Brothers and Sisters Program (BSP) の支援 - 留学生日本語スピーチコンテストの企画・運営 - 留学生のキャリア支援	- 短期派遣留学プログラムの開発と運営 - 海外留学相談・アドバイス - 海外留学・研修等危機管理オリエンテーション - 海外留学帰国学生と派遣内定者との交流会 - 海外留学帰国者スピーチコンテストの企画・運営	- 留学生交流情報室（IRIS） - 留学生支援ボランティア協議会 - いちよう日本語プログラム - ホストファミリープログラム - 公立学校教員初任者研修 - 国際理解教育への協力 - にほんごテーブル運営のボランティアグループの支援	- 新規来日留学生・外国人研究者等への情報提供 - ビザ取得手続き等各種手続きのサポート - 宿舍手配の支援 - 新規来日者オリエンテーション - 各種ハンドブックやホームページの作成・更新
研究活動				
- 日本語教育のカリキュラム・教材開発と日本語学習・教育支援システムの開発 - 多文化社会と留学生交流研究会の開催 - 留学生指導研究協議会等各種の研究会や研究協議会の開催 - 日本語教育に関する研究・開発、留学生教育、留学生交流に関する研究				

図3 国際教育交流センターの業務の概要

3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等

※ 2016 年 4 月現在を基本とする。

センター長		有川 友子 (Ph.D、Education)
交流アドバイジング 研究チーム	教授	有川 友子
	准教授	伊藤ゆかり (博士 (国際公共政策))
	准教授	魚崎 典子 (特任、博士 (工学))
短期プログラム開発 研究チーム	教授	近藤佐知彦 (Ph.D、Social Science)
	准教授	宮原 啓造 (Ph.D、Mechanical Engineering)
	助教	歳岡 冴香 (特任、博士 (言語文化学))
日本語教育研究 チーム	教授・副センター長	村岡 貴子 (博士 (言語文化学))
	教授	西口 光一 (博士 (言語文化学))
	教授	義永美央子 (博士 (言語文化学))
	准教授	大谷 晋也 (修士 (言語文化学))
兼任教員		難波 康治 (教育学修士)
		西村 謙一 (法学修士)
		金 孝卿 (特任、博士 (応用言語学))
	講師	勝田 順子 (特任、博士 (学術))
	留学生受入れ	鄭 聖汝 (講師、文学研究科)
	専門教育教員	安元 佐織 (講師、人間科学研究科)
		ペドリサ・ルイス (准教授、法学研究科)
		ウィラワン・ドニー・ダハナ (准教授、経済学研究科)
		浦川 理 (講師、理学研究科)
		藤田 清士 (教授、工学研究科)
		寺井 智之 (講師、工学研究科)
		金子 聖子 (助教、工学研究科)
		中橋 真穂 (助教、工学研究科)
		鎌谷 研吾 (講師、基礎工学研究科)
		牛田 英子 (2016 年 6 月 16 日 - 8 月 15 日)
特任講師 (短期)		
非常勤講師	岡崎 洋三、畑中 香乃、山崎 深雪、福良 直子、藤澤 好恵、 小原 俊彦、岡田亜矢子、梅本 仁美、伊藤 創、滝井 未来、 菅 摂子、浦木 貴和、野々口ちとせ、蔭山 拓、上仲 淳、 新庄あいみ、竹内 茜、田中 真衣、矢部 正人、花井 理香、 木村 康代、乾 逸子、半田佳奈子	
日本語 TA	佐川 祥予、陳 雪蓮、柳 善美、王 健、武藤 (小田) 佐智子	
特任事務職員	村田いずみ (留学生交流情報室)、段家 恭子 (留学生交流情報室) 川上 圭子 (短期チーム)、山村 賛美 (短期チーム)、遠藤 美紀 (短期チーム) 黒川 愛実 (サポートオフィス)、三輪久美子 (サポートオフィス)、 小関 祐子 (日本語教育)	

事務補佐員	福井めぐみ（短期チーム）、根津 大輔（短期チーム、2016 年 5 月 31 日まで）、
	奥 奈津子（短期チーム、2016 年 6 月 1 日から）
	誓山 藍（サポートオフィス）、
	池内 沙織（サポートオフィス、2016 年 6 月 30 日まで）、
	中村 香菜（サポートオフィス、2016 年 8 月 16 日から）
留学生交流情報室 スタッフ	五十嵐美香（日本語教育、2016 年 6 月 1 日から）
	深見知佐子、岩根 由依、山岸 美穂、山下 景子

4. 今年度の動き

2016 年 4 月に義永美央子氏は教授に昇任した。同じく、2016 年 4 月に勝田順子氏が日本語教育研究チームの特任講師に着任した。J-ShIP 他の超短期プログラムを主として担当する特任講師として、各種プログラムの学生受入れと運営、教育内容の企画・調整や、短期プログラム開発研究チームと協同した新たな短期プログラムの開発など活躍が期待されている。また、本年度は、夏の J-ShIP プログラムにおいて、同期間中の特任講師として牛田英子氏（本務校はカリフォルニア大学サンディエゴ校、講師）を任用した。牛田氏は、コーディネータとしてまた授業担当教員として十二分な役割を果たしてくれた。

Ⅲ. 留学生対象日本語プログラム

国際教育交流センターでは、下記表に見るとおり、全学の留学生を対象に各種日本語プログラムを実施・提供している。学生の多様な日本語学習ニーズに応じ、総合的な日本語科目および専門日本語科目を中心に提供するプログラム内容となっている。未習者を対象とした入門レベル（100 レベル）から、日本語能力試験 N1 相当以上の超上級レベル（700 レベル）まで7段階のレベルを設定している。

* 単位あり正規科目

対象留学生		プログラム名	レベル
大学院生・研究生 (研究留学生)	国費大使館推薦	1. 留学生日本語集中（研修）コース	100 ～ 300
	全学	2. 留学生日本語選択コース	100 ～ 700
	全学	3. 学際融合教育科目	600 ～ 700
学部留学生	一般正規生	4. 全学共通教育：第2外国語/国際教養*	700
	学部英語コース	4'. : 第1外国語*	100 ～ 600
短期留学生		5. 国際交流科目（日本語）*	100 ～ 600
日韓共同理工系留学生プログラム生		6. 日韓共同理工系留学生プログラム	400・500

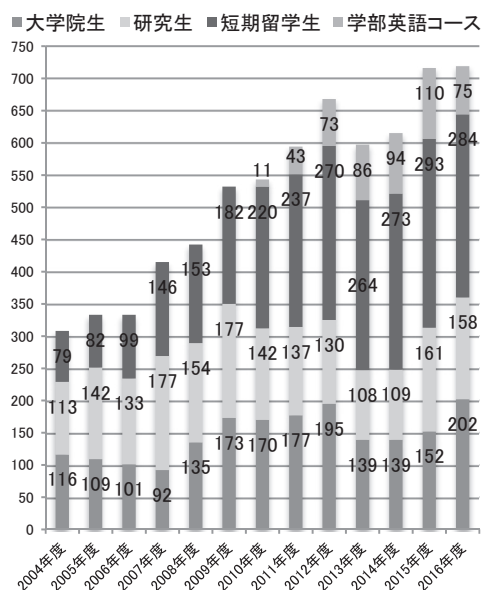


図1 年度ごと身分別履修者数の推移
(学部一般正規生 (上表の4、4') は含まない)

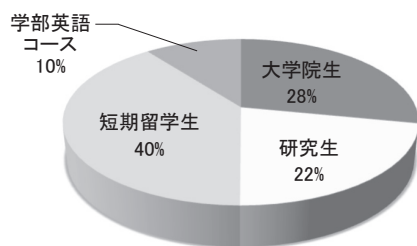


図2 履修者身分別分布

2016年度の春学期・秋学期の履修者数合計は719名で、過去最高となっている（図1）。身分別分布（図2）にみると、短期留学生が40%と最大の割合を占める。また、大学院生の受講者数が初めて200人を超えた点も今年度の特徴である。

2004年度以降の推移（図1）から、総履修者数がこの12年で約2倍以上に増加していることがわかるが、短期留学生増およびG30学部英語コース新設が日本語履修者数急増の要因となっている。G30による留学生増の方針を実現するために開始された学部英語コースや短期留学生の積極的受け入れといった大学の国際化戦略を反映した結果である。

大学全体としては、2017（平成28）年度から学事暦が変更され、4学期制が導入されることが決定しているが、本センターの日本語プログラムでは全ての科目をセメスター科目（春～夏学期および秋～冬学期開講）として開講する予定である。

上記1～6のプログラムの春学期および秋学期の開講科目の時間割、および、選択コースの履修登録状況は、巻末記載の資料1、資料2に示している。

1. 日本語集中（研修）コース

日本語集中（研修）コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした15週間の集中的な日本語予備教育コースである。受講生の大部分は文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生および短期留学生）も受け入れている。

受講生は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、IJ100, IJ200, IJ300の3クラス（春学期はIJ150も含む4クラス）に分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期末には修了発表会を実施し、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。この修了発表会には受講生の研究指導教員を招待する他、発表準備の過程を随時指導教員に報告し、日本語学習と研究活動との接続に配慮している。また、大学での研究活動を行うにふさわしい日本語教育を提供するために、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした教材開発を行い、それらを授業で活用し、さらに改善を重ねている。

(1) IJ100/150 クラス

① 概要

100クラスは、コース開始時に日本語の学習経験が全く、もしくはほとんどない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。例年受講生が多い春学期には、より学生のレベルに応じたきめ細かい教育を実施するため、100/150/200/300の4クラス体制をとっている。100クラスは日本語学習経験が全くない学生、150クラスはカタカナやひらがながかろうじて読め、挨拶程度の日本語が使えるレベルの学生を対象とする。いずれも授業時間数は1週間当たり15コマで、うち4コマを漢字と語彙のクラスにあてている。100/150クラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

② 時間割

第44期・第45期 日本語集中（研修）コースIJ100, IJ150 クラス時間割（平成28年度）

第44期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 10:30～12:00	チュートリアル1 IJ100	チュートリアル2 IJ150	講義 IJ150	チュートリアル3 IJ100	チュートリアル4 IJ150
12:00～13:00 昼休み					
3時間目 13:00～14:30	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	プレゼンテーション IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150
4時間目 14:40～16:10	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	プレゼンテーション IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150
5時間目 16:20～17:50			講義 IJ100		

第 45 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2 時間目 10:30～12:00	チュートリアル 1	チュートリアル 2		チュートリアル 3	チュートリアル 4
12:00～13:00 昼休み					
3 時間目 13:00～14:30	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	プレゼンテーション IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100
4 時間目 14:40～16:10	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	プレゼンテーション IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100	コミュニケーション 行動 IJ100
5 時間目 16:20～17:50			講義 IJ100		

(2) IJ200 クラス

① 概要

200 クラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は 1 週間当たり 12 コマで、10 コマの 200 クラス専用授業とチュートリアル 1 コマおよび選択必修の漢字・語彙クラスで構成されている。なお、「漢字・語彙クラス」は漢字系か非漢字系かに分かれて受講する（下記の時間割参照）。「200 クラス日本語（コミュニケーション行動）(IJ200)」は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。

② 時間割

第 44 期・第 45 期日本語集中（研修）コース IJ200 クラス時間割（平成 28 年度）

第 44 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50～10:20			漢字と語彙 漢字系 JK202		漢字と語彙 非漢字系 JK201
2 時間目 10:30～12:00	プレゼンテーション 基礎 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200	チュートリアル IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200
12:00～13:00 昼休み					
3 時間目 13:00～14:30	プレゼンテーション 基礎 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200
4 時間目 14:40～16:10				コミュニケーション 行動 IJ200	

第 45 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50～10:20			漢字と語彙 漢字系 JK202		漢字と語彙 非漢字系 JK201
2 時間目 10:30～12:00	プレゼンテーション 基礎 IJ200	会話と文法 IJ200	チュートリアル IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200
12:00～13:00 昼休み					
3 時間目 13:00～14:30	プレゼンテーション 基礎 IJ200	会話と基礎 IJ200	読解 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200	コミュニケーション 行動 IJ200
4 時間目 14:40～16:10				コミュニケーション 行動 IJ200	

※漢字と語彙：JK201 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK202 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

(3) IJ300 クラス

① 概要

300 クラスは、日本語を 1～2 年、約 200～300 時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は 1 週間当たり 9 コマで、「コミュニケーション行動」5 コマ、「文法・読解」2 コマ、「漢字と語彙」1 コマ、そして個別学習指導（「チュートリアル」）1 コマで構成されている。「コミュニケーション行動」はトピックベースの授業で、政府資料等の生教材を使用して読解、聴解、ディスカッション、ライティングを行い、「漢字と語彙」および「文法・読解」で語彙や文法を学習する。

② 時間割

春学期、秋学期とも、同一のトピック・ユニットで学習した。扱ったトピックは、気候・地理、食べる、家族、住む、大阪、男性と女性、若者・教育、環境問題、文化の歴史、社会の歴史である。

第 44 期・第 45 期 日本語集中（研修）コース IJ300 クラス時間割（平成 28 年度）

第 44 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50～10:20			漢字と語彙 漢字系 JK302	漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2 時間目 10:30～12:00		文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	
12:00～13:00 昼休み					
3 時間目 13:00～14:30	ライティング IJ300	文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	チュートリアル IJ300

第 45 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50~10:20			漢字と語彙 漢字系 JK302	漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2 時間目 10:30~12:00		文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	
12:00~13:00 昼休み					
3 時間目 13:00~14:30	ライティング IJ300	文法・読解 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	コミュニケーション 行動 IJ300	チュートリアル IJ300

※漢字と語彙：JK301 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK302 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

○コーディネータ

村岡貴子（全体・IJ200 クラス）、西村謙一（IJ300 クラス）、金孝卿（IJ150 クラス）、
西口光一（IJ100 クラス）

○学生数と身分別内訳（IJ150 は春学期（第 44 期）のみ開講のため秋学期（第 45 期）は“—”と記す）

クラス別人数

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 44 期	15	9	9	10	43
第 45 期	7	—	8	10	25
合計	22	9	17	20	68

身分別人数

	大使館推薦※1	教員研修※2	学内応募※3	計
第 44 期	34	0	9	43
第 45 期	3	6	16	25
合計	37	6	25	68

※1 大使館推薦クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 44 期	15	9	5	5	34
第 45 期	0	—	0	3	3
合計	15	9	5	8	37

※2 教員研修クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 44 期	—	—	—	—	—
第 45 期	3	—	1	2	6
合計	3	0	1	2	6

※3 学内応募クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 44 期	0	0	4	5	9
第 45 期	4	0	7	5	16
合計	4	0	11	10	25

教員研修生を除く、大使館推薦の配置（進学）先別内訳

	IJ100		IJ150		IJ200		IJ300		計	
	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外
第 44 期	12	3	8	1	8	1	9	1	37	6
第 45 期	0	0	—	—	0	0	3	0	3	0
合計	12	3	8	1	8	1	12	1	40	6

○学生出身国と配置(進学) 先一覧

学生の出身国

国名	第 44 期	第 45 期
アゼルバイジャン共和国	1	0
アメリカ合衆国	1	0
アルゼンチン共和国	1	0
アンゴラ共和国	1	0
イラク共和国	1	1
インド	1	0
インドネシア共和国	2	2
ウガンダ共和国	1	1
エルサルバドル共和国	1	0
ガボン共和国	2	0
クロアチア共和国	1	0
シリア・アラブ共和国	1	0
スーダン共和国	1	0
ソロモン諸島	1	0
タイ王国	1	2
トルコ共和国	1	2
バングラデシュ人民共和国	1	0
ブラジル連邦共和国	1	1
ブルガリア共和国	1	0
ブルキナファソ	1	0
フィリピン共和国	5	2
ベトナム社会主義共和国	2	2
ベラルーシ共和国	0	1
ベルギー王国	1	0
ポーランド共和国	1	0
マラウイ共和国	1	1
マレーシア	1	0
メキシコ合衆国	1	1
モザンビーク共和国	1	0
モーリタニア・イスラム共和国	1	0
ルーマニア	0	1
ラオス人民民主共和国	1	0
中華人民共和国	3	4
東ティモール民主共和国	1	0
英国	1	0
大韓民国	1	4
計	43	25

配置 (進学) 先一覧

配置 (進学) 先	第 44 期	第 45 期
文学研究科	0	1
人間科学研究科	2	0
医学系研究科	4	1
医学系研究科保健学科	1	1
薬学部	0	1
国際公共政策研究科	2	2
工学研究科	9	4
情報科学研究科	2	2
接合科学研究所	1	1
歯学研究科	1	0
理学研究科	1	1
社会経済研究所	1	0
経済学研究科	7	0
産業科学研究所	0	2
微生物病研究所	0	3
レーザーエネルギー学研究センター	1	0
免疫学フロンティア研究センター	2	0
核物理研究センター	1	0
蛋白質研究所	1	0
総合研究大学院大学	1	0
和歌山大学	3	0
大阪府立大学	1	0
奈良先端科学技術大学院大学	2	0
大阪教育大学	0	6
計	43	25

2. 留学生日本語選択コース

選択コースの主要な履修対象留学生は、全学の大学院生および大学院入学を希望する研究生である。これらの留学生の中には、研究活動の遂行に必要となるアカデミックな日本語能力の養成を必要とする者もいれば、研究活動や大学院入試は英語で行われるが、研究室等での日常的なコミュニケーションに日本語を必要とする者もいる。そのため、日本語を用いて論文の執筆やプレゼンテーション、口頭コミュニケーションなどの研究活動をするための「専門日本語」科目に力点を置くとともに、その基礎となる「一般日本語」科目として総合日本語科目や漢字と語彙科目を開講し、学内の留学生の幅広い日本語学習ニーズに対応している。受講希望者は本センターが開発した日本語レベルチェックをウェブ上で受け、各自の日本語学習ニーズと日本語学習に充当可能な時間等を勘案し、該当日本語レベル（入門 100 レベルから超上級 700 レベルまでの 7 レベル）の科目群の中から、必要な科目を週当たり 1 ～数科目選択できるように設定されている。

○開講科目

100 から 300 までの入門～中級前半レベルでは、総合日本語・漢字と語彙・文法講義で構成される一般日本語科目を提供している。一方、400 以上の中級～超上級レベルでは、専門をより深く学ぶための日本語を各スキル（リーディング・ライティング・コミュニケーション・プレゼンテーション）ごとに学ぶ専門日本語科目や、キャリア形成を視野に入れたビジネス日本語科目を提供している。

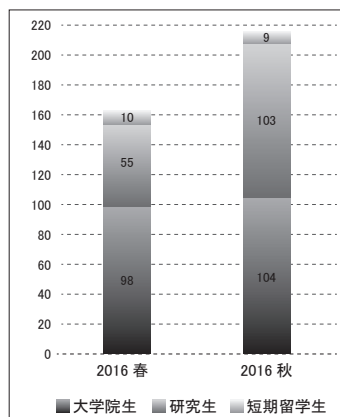
開講科目一覧

	一般日本語科目			専門日本語科目				
	総合日本語 (JB)	漢字と語彙 (JK)	文法講義 (JG)	アカデミックリーディング (JR)	アカデミックライティング (JW)	アカデミックコミュニケーション (JC)	アカデミックプレゼンテーション (JP)	ビジネス日本語コミュニケーション (BJ)
100 (入門)	JB100*1							
200 (初級)	JB200*1	JK*2 201	JK*3 202/302					
300 (初中級)	JB300*1	JK*2 301	JG 300/400					
400 (中級)					JW 400/500	JC 400/500	JP 400/500	
500 (中上級)								BJ 500/600/700
600 (上級)				JR 600/700	JW 600/700	JC 600/700	JP 600/700	
700 (超上級)								

*1 JA 受講者は受講できません。*2 母語で漢字を使わない人のためのクラスです。*3 母語で漢字を使う人のためのクラスです。

○履修登録者数

実数で春学期 163 名、秋学期は 216 名、計 379 名が選択コースを履修した。身分別内訳では、大学院生が約半数を占め最も多く、次いで研究生、短期留学生の順となっている。部局別では、工学研究科を筆頭に、14 研究科／学部および 5 研究所 4 センター（巻末に一覧）と、学内の日本語学習ニーズに広く応えていることがわかる。



学期・身分別受講者数

2016年度 秋学期
留学生日本語プログラム
選択コース

登録履修

履修登録はKOAN(<https://koan.osaka-u.ac.jp/>)から行ってください

履修登録期間: 9月26日(月)～10月24日(月)
授業開始日: 10月11日(火)
授業最終日: 2017年2月14日(火)

**FALL 2016
Elective Japanese Language Course**

Please visit the KOAN
(<https://koan.osaka-u.ac.jp/>) to register for the Elective Japanese Language Course

Registration Periods: September 26 – October 24
Classes begin: October 11, 2016
Last Day of Classes: February 10, 2017

For more information about the program, please visit
http://ciee.osaka-u.ac.jp/en/japanese_program/for-students/

大阪大学国際教育交流センター CIEE Center for International Education and Exchange <http://ciee.osaka-u.ac.jp/>

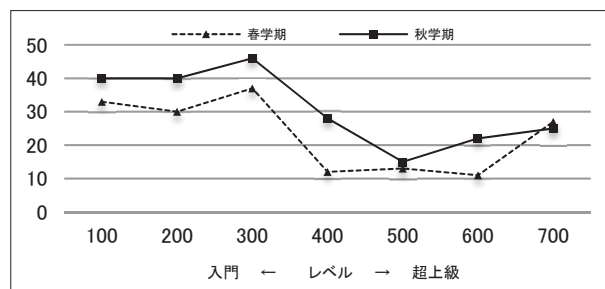
秋学期広報用ポスター

○履修者のレベル分布

入門（レベル 100）～初中級（レベル 300）程度の履修者が多く、その傾向は秋学期においていっそう顕著である。

○履修者の出身国・地域

春学期は 49 カ国・地域、秋学期は 42 カ国・地域に及ぶ。



履修者のレベル分布

3. 全学共通教育

全学共通教育における日本語関係科目は、他の外国語科目と同様、「第2外国語」と「国際教養2」の科目として開講されている。学部留学生の多様なバックグラウンドやニーズを勘案した結果、科目構成は「総合日本語」「専門日本語」「多文化コミュニケーション（日本語）」の三本立てとし、前二者を「第2外国語」として、後者を「国際教養2」として履修する位置づけとしている（ただし、インターナショナルカレッジの学生は「第1外国語」と「国際教養2」の科目として履修している）。「総合日本語」では大学生活全般に役立つ日本語能力を総合的に身につけることを目指し、「専門日本語」ではより専門的な日本語能力を養成することを目指す。また、「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と一般学生が協働してプロジェクトワークに取り組むことによって、多文化間における実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的としている。科目の設定にあたっては、各科目の性格を明確にし、学生が自分のレベルやニーズに応じて履修する科目を組み合わせることのできる柔軟性を持たせることに意を用いた。

2009 年度に 2 コマ増設した「多文化コミュニケーション（日本語）」および 1 コマ増設した「専門日本語」（吹田キャンパスで開講）、2011 年度に 2 コマ増設した「専門日本語」に加え、2014 年度は、さらに受講者のニーズに配慮して授業を展開するため、「総合日本語」と「多文化コミュニケーション（日本語）」をそれぞれ 2 コマずつ増設するとともに、後期からは緩やかな定員制を導入し、語学教育／多文化教育として適切なクラスサイズが実現できるようにした。2016 年度は、それまで増やしてきたコマを整理し直し、学生の受講機会の維持に配慮しつつ、受講者の少なかった 2 コマを削減した。

以上の留学生向け科目以外に、一般学生が受講する「基礎セミナー」（「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同開講）を加え、計 27 コマ（実質 18 コマ）を提供した。

○全学教育推進機構兼任教員

- ・村岡 貴子 教授：企画開発部言語教育部門
- ・大谷 晋也 准教授：実施調整部言語教育部会

○提供科目とコマ数

(1) 第2外国語

- ・総合日本語（1単位：前期2コマ・後期2コマ計4コマ提供）
大学生活全般に役立つ総合的な日本語能力の養成を目的とする。
- ・専門日本語（1単位：前期2コマ・後期3コマ計5コマ提供）
各自の専門を学習・研究する際に役立つ日本語能力の養成を目的とする。

(2) 国際教養2

- ・多文化コミュニケーション（日本語）（2単位：前期5コマ・後期4コマ計9コマ提供）
下記(3)の「多文化コミュニケーションセミナー」を受講する一般学生と、本科目を受講する留学生とが、協働してプロジェクトワークを実践する活動を通じ、多文化社会でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

(3) 基礎セミナー

- ・多文化コミュニケーションセミナー（2単位：前期5コマ・後期4コマ計9コマ提供）
上記(2)の「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同で開講。

○共通教育提供科目・担当者一覧

(1) 第2外国語

授業科目名	担当者
総合日本語	大谷 晋也
総合日本語	勝田 順子
専門日本語	義永美央子
専門日本語	村岡 貴子

後 期

授業科目名	担当者
総合日本語	勝田 順子
総合日本語	勝田 順子
専門日本語	義永美央子
専門日本語	大谷 晋也
専門日本語	村岡 貴子

(2) 国際教養2

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション(日本語)	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーション(日本語)	宮原 啓造
多文化コミュニケーション(日本語)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション(日本語)	西村 謙一
多文化コミュニケーション(日本語)	有川 友子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション(日本語)	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーション(日本語)	西村 謙一
多文化コミュニケーション(日本語)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション(日本語)	勝田 順子

(3) 基礎セミナー

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーションセミナー	宮原 啓造
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	有川 友子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	勝田 順子

4. 国際交流科目

本学では、英語もしくはその他の外国語で実施する正規科目として国際交流科目を提供している。国際教育交流センターでは、同科目の枠組みで、短期留学生を主な対象として日本語科目（JA）を提供している。また、本科目は、学部英語コースの学生も第一外国語科目として履修している。各JAクラスでは、90分の授業が週に3コマ提供され、話す・聞く・読む・書くの各技能が総合的に習得できるようにカリキュラムが編成されている。本年度は、入門（JA100）から上級（JA600）まで、6レベルで各2トラックを開講した。また秋学期には人間科学部で開講されたモナシユカレッジ学生を対象とした短期プログラムに日本語の科目を提供するため、JA100が3トラックでの開講となった。トラック1は主として学部英語コース学生とiExPO、フロンティア・ラボ等の短期留学生、トラック2は主としてOUSSEP学生が受講している。専任教員が担当する講義（lecture）は2トラック合同で開講し、トラック間の交流を図るとともに、限られた人員・予算内での学生数の増加に対応している。

○提供科目と担当者一覧

平成28年度 春学期

授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波 康治・岡田亜矢子・乾 逸子
JA100 トラック2	難波 康治・花井 理香
JA200 トラック1	義永美央子・上仲 淳・滝井 未来
JA200 トラック2	義永美央子・半田佳奈子
JA300 トラック1	西口 光一・畑中 香乃・矢部 正人
JA300 トラック2	西口 光一・岡崎 洋三
JA400 トラック1	勝田 順子・新庄あいみ
JA400 トラック2	勝田 順子・矢部 正人・蔭山 拓
JA500 トラック1	難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵
JA500 トラック2	難波 康治・滝井 未来
JA600 トラック1	大谷 晋也・岡崎 洋三・小原 俊彦
JA600 トラック2	大谷 晋也・田中 真衣・伊藤 創

平成28年度 秋学期

授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波 康治・岡田亜矢子・乾 逸子
JA100 トラック2	難波 康治・花井 理香
JA100 トラック3	難波 康治・岡田亜矢子・花井 理香
JA200 トラック1	義永美央子・上仲 淳・滝井 未来
JA200 トラック2	義永美央子・半田佳奈子
JA300 トラック1	西口 光一・畑中 香乃・矢部 正人
JA300 トラック2	西口 光一・岡崎 洋三
JA400 トラック1	勝田 順子・新庄あいみ
JA400 トラック2	勝田 順子・矢部 正人・蔭山 拓
JA500 トラック1	難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵
JA500 トラック2	難波 康治・滝井 未来
JA600 トラック1	大谷 晋也・岡崎 洋三・小原 俊彦
JA600 トラック2	大谷 晋也・田中 真衣・伊藤 創

5. 学際融合教育科目

本学の大学院教育では、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指す学際融合教育科目が提供されている。大学院に在籍する留学生の増加に伴い、研究活動の遂行のために必要なアカデミックな日本語能力の必要性が高まっているが、本センターではこのようなニーズに対応するため、「上級専門日本語・アカデミックリーディングA/B」「上級専門日本語・アカデミックライティングA/B」「上級専門日本語・アカデミックプレゼンテーションA/B」「上級専門日本語・アカデミックコミュニケーションA/B」の4科目を学際融合教育科目として提供している。また本年度春学期には、日本または日系企業での就職を希望する学生対象の科目として、「キャリアデザインとビジネス・コミュニケーション」を新たに開講した。各科目を履修し、所定の評価を得た受講生は1科目あたり2単位を取得することができる。これらの科目では、理系・文系を問わず、さまざまな国・地域からの留学生が集まる環境を生かし、言語・文化や専門分野の違いを超えた対話や学びの場を提供するように努めている。学期ごとの開講科目名および担当者は下記の通りである。

○学際融合教育科目・担当者一覧

前 期		後 期	
授業科目名	担当者	授業科目名	担当者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) A	西村 謙一	上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) B	西村 謙一
上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) A	村岡 貴子	上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) B	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・プレゼンテーション) A	難波 康治	上級専門日本語 (アカデミック・プレゼンテーション) B	難波 康治
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) A	義永美央子	上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) B	義永美央子
キャリアデザインとビジネス・ コミュニケーション	魚崎 典子 金 孝卿		

IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生プログラム（以下、KOSMOSプログラム）とは、日本の国立大学の理工系学部に韓国人留学生を受け入れる留学生事業であり、大阪大学では、プログラム初年度の平成12年度より受入を開始した。本プログラムでは、学部入学前に1年間の予備教育を行っており、前半を韓国で、後半を大阪大学で実施している。

全学的な受け入れ体制のもとで実施されているKOSMOSプログラムは、日本語教育と専門教科教育の2つの教育課程から構成されている。数学、物理、化学、英語といった専門教科は受け入れ学部の専門教育教員が担当し、日本語科目については、国際教育交流センター教員がコーディネーターとなり、授業の計画および実施に携わっている。

チュートリアルを含めて週8コマ開講されている日本語科目では、日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションを行い、かつ大学生活で必要とされる総合的な日本語を運用する能力を養成することを目標とし、多様な科目を配置している。さらに、大学では自ら問題を発見し、分析し、その結果を発信する能力が求められることから、発表やディスカッション、レポート作成といった活動も重視している。

また、国際教育交流センターの日本語教育研究チームの教員が「ホームルーム」の時間を活用して生活面でのアドバイスをおこなっている。さらに、交流アドバイジング研究チームとも連携して、課外活動として地域の学校における国際理解教育プログラムへの参加も促している。

1. 時 間 割

第2次第7期日韓共同理工系学部留学生対象予備教育時間割（平成28年度）2016.10－2017.2

	月曜日 (吹田)	火曜日 (豊中)	水曜日 (吹田)	木曜日 (豊中)	金曜日 (吹田)
1時間目 8:50－10:20		共通教育 数学聴講 解析学	理系 日本語① (村上) Room4		
2時間目 10:30－12:00	専門基礎 日本語① (蔭山) Room4	専門教科 化学 (立光) C-S4	理系 日本語② (村上) Room4	日本事情・ 異文化適応 (蔭山) C204	専門基礎 日本語③ (金) Room 4
昼休み					
3時間目 13:00－14:30	専門教科 物理 (I) (金) Room4	専門教科 化学 (立光) C-S4	ホームルーム	専門教科 数学(2) (森) C-S4	専門基礎 日本語④ (上仲) Room 4
4時間目 14:40－16:10	専門教科 物理 (II) (寺井) Room4	専門教科 数学(1) (宮田) C-S4		専門基礎 日本語② (上仲) C-S4	専門基礎 日本語⑤ (上仲) Room4
5時間目 16:20－17:50					専門教科 英語 (前川) Room 4

※月曜日・水曜日・金曜日は吹田で授業（国際教育交流センターICホールで授業）

※時間割は次の順で記載……授業名、()内：講師名、下段：講義室名

※C-S4は全学教育推進機構C棟4階S4教室、C204は全学教育推進機構C棟2階204教室。

2. 学生数と進学先

平成 28 年度は、5 名の学生を受け入れた。進学先は、理学部 1 名、工学部 4 名である。

3. 平成 28 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会

6 月 24 日に千葉大学が当番校となって日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催され、センターからは村岡貴子教授、西村謙一准教授、学生交流推進課の遠山裕子課長と中島花子係員の 4 名が参加した。同協議会は、日本の文部科学省と韓国国立国際教育院、日本側受入大学と韓国側の予備教育担当大学である慶熙大学の関係者が一同に会し、予備教育を含めた本事業の現状とその問題点等について認識の共有を図り、より効果的な事業実施に向けて検討を行うことを目的としている。

(1) 日 程：2016 年 6 月 24 日（金）

(2) 場 所：千葉大学

(3) 講 演

(1) 「日本の留学生施策について」（文部科学省 泉 茂樹氏）

＊日韓共同理工系学部留学生事業関連のみ抜粋

- ・第 2 次第 7 期からの高校の内申成績を点数化して評価に 3 割加えることになった
- ・第 3 次事業にむけて、日本人の韓国留学、他分野への拡充などを検討する必要がある。

(2) 「韓日理工系学部留学生事業の発展方案について」

（大韓民国国立国際教育院 林 華 教育研究士）

- ・本事業修了者の進路について。
- ・2016 年度の選抜に関わる全体日程と変更点について。

(3) 「2016 年第 2 次第 7 期生韓国予備教育課程の現状報告」

（慶熙大学校国際教育院院長 趙 顕 龍）

- ・カリキュラムを変更して英語科目などを外し、当該予備教育の入学前に日本語を先行学習として課すことによって、来日時に当該学生が N2 レベル以上の日本語能力を有する状態になるよう教育を施している。
- ・日本側のごく一部の配置大学が本事業の学生に日本留学試験（EJU）を課していることについて、本プログラムは特別プログラムであるため、同試験を課さないよう要請する。

(4) 全体会議

テーマ：日韓プログラムによる人材育成の成果と今後の課題について

(1) 「千葉大学が実施したフォローアップ調査の報告」（千葉大学 佐藤尚子 准教授）

①千葉大学に配置された学生数、②プログラム卒業生を対象としたフォローアップ調査の結果について

(5) 日韓生による発表

すでに企業（韓国企業に就職後日本に再留学 1 名、日本企業 1 名）で働いている卒業生は、日韓の友好関係促進に貢献したいとの抱負を述べた。また、在学中に兵役に従事した卒業生からは、スムーズな復学のためには日本側受入れ大学の丁寧なサポートが重要であるとの見解が示された。

(6) 日韓共同理工系学部留学生アンケート 集計結果（千葉大学 佐藤尚子 准教授）

調査項目：①渡日前、②入学後の生活、授業について、③卒業後の進路について、④第3次事業について

- ①日本語教育・コミュニケーション能力の育成が渡日前教育で最も重要。
- ②学生が直面する困難は、講義内容の理解など授業の問題および人間関係の構築。留学生担当教職員やカウンセラーが学生対応に当たる。
- ③進路指導は他の留学生や日本人学生への対応と同様。大学院進学理由は就職や研究継続のため。

V. 国際教養・専門複合型プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（英語名 OUSSEP）は、大阪大学短期留学特別プログラムとして運用を開始された 1996 年以来、国際交流委員会が管掌する本学の交換留学プログラムの中核として平成 28 年度は春学期に 81 名、秋学期には 79 名の交換留学生を受け入れた。G30 によって非正規生を含めた留学生受入に数値目標を設定する動きの中で、Junior Year Abroad タイプの留学生の受け皿として、学内におけるその役割はますます重くなっている。同時に、日本人学生と留学生が英語で専門科目（国際交流科目）を共に学ぶ状況を学内に作るための戦略プログラムとしての性格も色濃くなってきた。なお国際交流科目の一部は「G30 英語コース」の履修科目としても指定されており、様々な背景を持つ学生が一堂に集うカリキュラムを充実させている。

平成 28 年度も奨学金受給者を主対象として UR 都市機構と連携した宿舎を用意した。職制上変則的ではあるものの、プログラムコーディネータが管理会社の協力の下に運営しており、かつては 8 住戸 16 人を住まわせていた宿舎を、本年度は 5 住戸 15 人の三人シェア体制へ変更した。このように本プログラムは留学生受入スキームのインフラ整備など、全学プログラムの運営活性化に向けての先導的な役割を果たしている。

なお平成 20 年度以来、留学生センター所属のコーディネータおよびサブコーディネータの二人体制（教員 1、職員 1）で運用されているが、平成 21 年度には G30 選定に伴い、サブコーディネータが G30 特任職員となった。教員 3（教授、准教授、特任助教）、職員 3（うち特任職員 1 はスーパースターグローバル創成支援事業によって増員）並びに事務補佐員 2 名から構成される「短期留学開発研究チーム」によって運営されている一プログラムという位置づけになっている。また OUSSEP 向け英語授業担当者を対象とした FD 研修会を各学期授業前に開催し、英語授業の質の向上やノウハウの継承に努めている。

ちなみに平成 28 年 9 月 24 日には第二期の OUSSEP（1997-1998）の総勢 22 名の参加者のうち 9 名もの元 OUSSEP 学生が大阪大学吹田キャンパスを再訪、ささやかな同窓会イベントを持つことが出来た。今では社会人としてそれぞれに責任のあるポジションに就いた元 OUSSEP 学生達であるが、当時のコーディネータ教員の中村収三先生や北濱榮子先生、古城紀雄元センター長、日本語チームの大谷晋也先生、元 IRIS 担当の瀬戸幸子さんとともに、18 年前の学生時代に戻って交歓の時をもつことができた。なかでも、全員が若い時期の日本留学経験のインパクトについて、感謝の念を持って語っていたのが印象的だった。



1. 行 事

OUSSEPおよび国際交流科目関係の行事（2016年4月から2017年3月まで）

月	日	曜日	行 事 等
4	1	金	4月受け入れ学生 大阪到着 市役所手続き等（～4/5（火））
	6	水	交換留学生オリエンテーション（OUSSEP, FrontierLab, iExPO）
			吹田キャンパスツアー
			OUSSEPオリエンテーション
			自主研究指導教員面談（吹田キャンパス）
			ホストファミリーとの出会いの会
	7	木	UR学生オリエンテーション
	8	金	豊中キャンパスツアー
			ITオリエンテーション
			自主研究指導教員面談（豊中キャンパス）
	11	月	国際交流科目（平成28年度第1学期）開始
	11～14		学生定期健康診断（豊中キャンパス）
5	18	月	国際交流科目（平成28年度1学期）履修届提出締め切り
	20～27		学生定期健康診断（吹田キャンパス）
	22	金	自主研究 Registration & Study Plan Form提出締め切り
6	30	土	いちょう祭準備
	1～2		いちょう祭 祭日
	3	火	いちょう祭片付け
7	30	月	日本食文化調理体験（高野豆腐）
	18	土	見学旅行（高野山）
8	19	日	
9	4	月	日本食文化調理体験（わらび餅）
	上旬予定		フェアウェルパーティ
	3	水	国際交流科目（平成28年度第1学期）終了
10	4	木	夏季休業開始 終了学生随時帰国
	15	木	9月受け入れ学生大阪到着（～9/20（火）） 市役所手続き等（～9/27（火））
	28	水	豊中オリエンテーション（交換留学生オリエンテーション、OUSSEPオリエンテーション、ITオリエンテーション、豊中キャンパスツアー、自主研究指導教員面談）
11	29	木	吹田オリエンテーション（UR学生オリエンテーション、ホストファミリーとの出会いの会、自主研究指導教員面談、吹田キャンパスツアー）
	3	月	国際交流科目（平成28年度2学期）授業開始
	11	火	国際交流科目（平成28年度2学期）履修届提出締め切り
12	17	月	自主研究 Registration & Study Plan Form提出締め切り
	3	木	大学祭準備 授業なし
	4	金	まちなか祭大学祭（～11/6（日））
1	7	月	My Country & My University発表会（吹田キャンパスサイバーメディアコモンズ） 大学祭片付け授業なし
	12	土	見学旅行（宮島・広島）
	13	日	
2	28	月	日本食文化調理体験（お好み焼 VS 広島焼き）
	22	木	冬期休業（～1/5（木））
	1	金	大学入試センター準備のため休講
3	3	金	フェアウェルパーティ
	10	金	国際交流科目（平成28年度2学期）終了
	11	土	2月終了学生随時帰国

2. 2016 年度春学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2016 年度 春学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

	国 籍	所 属 大 学	性別	配属部局
1	アメリカ合衆国	ブリティッシュ・コロンビア大学	男	外国語学部
2	アメリカ合衆国	ジョージア大学	男	法学部
3	アメリカ合衆国	ジョージア大学	女	外国語学部
4	アメリカ合衆国	テキサスA&M大学	男	理学部
5	アメリカ合衆国	ワシントン大学	女	外国語学部
6	イギリス	香港科技大学	男	基礎工学部
7	イギリス	リーズ大学	女	理学部
8	インドネシア	インドネシア大学	女	経済学部
9	オーストラリア	アデレード大学	女	理学部
10	オーストラリア	オーストラリア国立大学	女	人間科学部
11	オーストラリア	モナシュ大学	女	外国語学部
12	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	女	人間科学部
13	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	女	人間科学部
14	カナダ	マックマスター大学	男	経済学部
15	カナダ	マックマスター大学	男	人間科学部
16	カナダ	マックマスター大学	男	人間科学部
17	韓国	延世大学校	女	経済学部
18	韓国	昌原大学校	女	外国語学部
19	台湾	国立交通大学	男	工学部
20	台湾	国立交通大学	女	外国語学部
21	台湾	国立成功大学	女	基礎工学部
22	台湾	国立台湾大学	女	経済学部
23	チェコ	ブラハ・カレル大学	女	文学研究科
24	中国	ゲッティンゲン大学	女	文学研究科
25	中国	浙江大学	女	人間科学部
26	中国	同済大学	女	理学部
27	中国	同済大学	男	工学部
28	中国	トロント大学	男	理学部
29	中国	南京大学	男	工学部
30	中国	南京大学	女	外国語学部
31	中国	南京大学	男	人間科学部
32	中国	華東政法大学	女	法学部
33	中国	華東政法大学	女	法学部
34	中国	武漢大学	男	国際公共政策研究科
35	中国	トロント大学	男	外国語学部
36	中国	マックマスター大学	女	理学部

2016年度 春学期 OUSSEP学生名簿（2/2）

	国 籍	所 属 大 学	性別	配属部局
37	ドイツ	アウグスブルク応用科学大学	男	工学部
38	ドイツ	アウグスブルク大学	女	法学部
39	ドイツ	ウェストファリアン・ヴィルヘルム大学 ミュンスター	女	法学部
40	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学	男	文学部
41	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学	男	基礎工学研究科
42	ドイツ	ゲーテ大学フランクフルトアムメイン	女	経済学研究科
43	ドイツ	ゲーテ大学フランクフルトアムメイン	女	文学研究科
44	ドイツ	ハイデルベルク大学	女	文学部
45	ドイツ	ハイデルベルク大学	男	人間科学部
46	ドイツ	ビーレフェルト大学	女	人間科学部
47	ドイツ	ビーレフェルト大学	男	人間科学部
48	ドイツ	ベルリン工科大学	男	理学部
49	ドイツ	ミュンヘン工科大学	男	基礎工学部
50	ドイツ	ルール大学ボーフム	女	経済学部
51	ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール カルビン派大学	男	外国語学部
52	フィリピン	デ・ラ・サール大学	女	外国語学部
53	フィンランド	オーボアカデミー大学	女	文学部
54	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	女	理学研究科
55	フランス	グルノーブル大学連合	男	文学部
56	フランス	グルノーブル大学連合	女	外国語学部
57	フランス	グルノーブル大学連合	女	外国語学部
58	フランス	グルノーブル大学連合	男	情報科学研究科
59	フランス	グルノーブル大学連合	女	情報科学研究科
60	フランス	ストラスブール大学	男	人間科学部
61	フランス	リール政治学院	女	外国語学部
62	フランス	リール政治学院	女	外国語学部
63	ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ	女	文学部
64	香港	香港科技大学	女	基礎工学部
65	香港	香港科技大学	女	基礎工学部
66	香港	香港科技大学	女	基礎工学部
67	香港	香港科技大学	男	基礎工学部
68	香港	香港科技大学	男	基礎工学部
69	マレーシア	プリティッシュ・コロンビア大学	女	人間科学部
70	メキシコ	メキシコ自治大学	男	人間科学部
71	メキシコ	メキシコ自治大学	男	人間科学部
72	ロシア	サンクトペテルブルク大学	女	文学部
73	日本	パデュー大学	女	工学部

2016 年度 春学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	日本芸術瞥見	A Glimpse at Japanese Arts	文学部	藤田 治彦
2	比較社会学	Comparative Sociology	人間科学部	Scott North
3	政治学 I	Politics I	人間科学部	Raymond YAMAMOTO
4	国際協力学 I	International Development and Collaboration I	人間科学部	中村 安秀
5	社会の中の自己	Self, Identity and Society	人間科学部	Don BYSOUTH
6	日本の社会階層	Social Stratification in Japanese Society	人間科学部	Paola CAVALIERE
7	家族と結婚の社会学入門	Introduction to Sociology of Marriage and Family	人間科学部	Viktoriya KIM
8	移動の社会学	Sociology of Migration	人間科学部	Viktoriya KIM
9	多文化共生論	Seminar in Studies of Multicultural Societies	人間科学部	Viktoriya KIM
10	基本的人権論	Human Rights	人間科学部	Christie LAM
11	人類学 I	Anthropology I	人間科学部	MOHACSI GERGELY
12	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学部	Pedriz Luis
13	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学部	Pedriz Luis
14	バイオエシックスとヘルス・ロー	Bioethics and Health Law; Legal Issues Concerning Biotechnology, Medicine and Health Care System	法学部	瀬戸山晃一
15	身の回りの高分子	Polymers in Daily Life and Science	理学部	今田 勝巳
16	我が国の保健サービスと医療ケア	Health Service and Medical Care in Japan	医学部	吉澤 剛
17	環境・エネルギー問題に対する工学的アプローチ	Engineering Approaches to Energy and Environmental Issues	工学部	西嶋 茂宏
18	近代日本文学における大阪	Osaka in Modern Japanese Literature	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュウ
19	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	堀川 智也
20	国際貿易と投資	International Trade and Investment	国際公共政策研究科	利 博友
21	イノベーションの管理と変遷	Managing Innovation and Change	インターナショナルカレッジ	三森八重子
22	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100-Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
23	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100-Track 2		
24	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200-Track 1	国際教育交流センター	義永美央子
25	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200-Track 2		
26	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300-Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
27	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300-Track 2		
28	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400-Track 1	国際教育交流センター	勝田 順子
29	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400-Track 2		
30	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500-Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
31	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500-Track 2		
32	総合日本語 JA600-トラック 1	Japanese JA600-Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
33	総合日本語 JA600-トラック 2	Japanese JA600-Track 2		
34	社会保障とサービスデザイン	Social Security and Service Design	国際教育交流センター	伊藤ゆかり
35	オンライン・リソースを活用した L2 学習	Second Language Learning with Online Resources	国際教育交流センター	魚崎 典子
36	日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	国際教育交流センター	近藤佐知彦
37	数学とその工学応用 (I)	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)	国際教育交流センター	宮原 啓造
38	言語と翻訳	Language and Translation	国際教育交流センター	蔵岡 冨香
39	自主研究 II-A 自主研究 II-B 自主研究 II-C	Independent Study II-A Independent Study II-B Independent Study II-C		各自主研究担当教員

3. 2016 年度秋学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2016 年度 秋学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

	国 籍	所 属 大 学	性別	配属部局
1	アメリカ合衆国	ジョージア大学	男	基礎工学部
2	イギリス	リーズ大学	男	人間科学部
3	イギリス	リーズ大学	女	理学部
4	イギリス	リーズ大学	女	理学部
5	イギリス	リーズ大学	男	文学部
6	インドネシア	インドネシア大学	女	文学部
7	エジプト	ハイデルベルク大学	女	経済学部
8	オーストラリア	アデレード大学	女	理学部
9	オーストラリア	オーストラリア国立大学	女	人間科学部
10	オーストラリア	オーストラリア国立大学	男	理学部
11	オーストラリア	オーストラリア国立大学	男	外国語学部
12	オーストラリア	モナシュ大学	女	外国語学部
13	オランダ	デルフト工科大学	男	工学部
14	オランダ	デルフト工科大学	男	人間科学部
15	オランダ	デルフト工科大学	女	人間科学部
16	カナダ	トロント大学	女	外国語学部
17	カナダ	トロント大学	男	人間科学部
18	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	男	外国語学部
19	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	女	外国語学部
20	カナダ	マックマスター大学	女	法学部
21	カナダ	マックマスター大学	男	工学部
22	韓国	延世大学校	女	経済学部
23	韓国	昌原大学校	女	外国語学部
24	韓国	釜山大学校	女	文学部
25	韓国	慶尚大学校	女	経済学部
26	スロバキア	ミュンヘン工科大学	男	基礎工学部
27	中国	浙江大学	女	人間科学部
28	中国	同済大学	女	理学部
29	中国	武漢大学	男	国際公共政策研究科
30	中国	ハイデルベルク大学	女	文学研究科
31	中国	ハイデルベルク大学	女	文学研究科
32	中国	香港中文大学	女	経済学部
33	中国	北京師範大学	女	文学部
34	中国	北京師範大学	女	文学部
35	デンマーク	南デンマーク大学	女	人間科学部
36	ドイツ	アーヘン工科大学	男	経済学部
37	ドイツ	アーヘン工科大学	男	理学研究科
38	ドイツ	アーヘン工科大学	男	工学研究科
39	ドイツ	アーヘン工科大学	男	基礎工学研究科
40	ドイツ	アーヘン工科大学	男	経済学研究科
41	ドイツ	アウグスブルク大学	男	基礎工学研究科

2016 年度 秋学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

	国 籍	所 属 大 学	性別	配属部局
42	ドイツ	アウグスブルク大学	男	理学部
43	ドイツ	アウグスブルク大学	男	法学部
44	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学	女	人間科学部
45	ドイツ	グルノーブル大学連合	男	基礎工学研究科
46	ドイツ	グローニンゲン大学	女	法学部
47	ドイツ	ゲーテ大学フランクフルト	女	人間科学部
48	ドイツ	ゲーテ大学フランクフルト	女	人間科学部
49	ドイツ	ゲーテ大学フランクフルト	女	経済学研究科
50	ドイツ	ゲーテ大学フランクフルト	女	人間科学部
51	ドイツ	ゲッティンゲン大学	男	経済学部
52	ドイツ	ゲッティンゲン大学	男	理学部
53	ドイツ	ハイデルベルク大学	男	文学研究科
54	ドイツ	ハイデルベルク大学	男	法学部
55	ドイツ	ハイデルベルク大学	女	文学研究科
56	ドイツ	ビーレフェルト大学	女	人間科学部
57	ドイツ	ビーレフェルト大学	男	経済学研究科
58	ドイツ	ミュンヘン大学	男	人間科学研究科
59	ドイツ	ルール大学ボーフム	男	人間科学部
60	ドイツ	ルール大学ボーフム	男	経済学研究科
61	ドイツ	ルール大学ボーフム	女	人間科学部
62	フィリピン	デ・ラ・サール大学	女	文学部
63	フィリピン	フィリピン国立大学	女	外国語学部
64	フィンランド	オーボアカデミー大学	男	経済学研究科
65	フィンランド	オーボアカデミー大学	女	人間科学研究科
66	フィンランド	ユヴァスキュラ大学	女	理学研究科
67	フランス	グルノーブル大学連合	男	工学研究科
68	フランス	グルノーブル大学連合	男	工学研究科
69	フランス	グルノーブル大学連合	女	外国語学部
70	フランス	グルノーブル大学連合	男	経済学部
71	フランス	ボルドー大学	女	理学部
72	フランス	リール政治学院	女	外国語学部
73	フランス	リール政治学院	女	外国語学部
74	ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ	女	文学部
75	ミャンマー	ヤンゴン大学	女	人間科学部
76	ロシア	サンクトペテルブルク大学	女	文学研究科
77	香港	香港科技大学	女	基礎工学部
78	香港	香港科技大学	男	基礎工学部
79	香港	香港科技大学	男	基礎工学部
80	台湾	国立台湾大学	女	経済学研究科
81	台湾	国立台湾大学	女	経済学部
82	台湾	国立台湾大学	女	理学部
83	日本	ミュンヘン工科大学	女	基礎工学部

2016 年度 秋学期 国際交流科目開講リスト

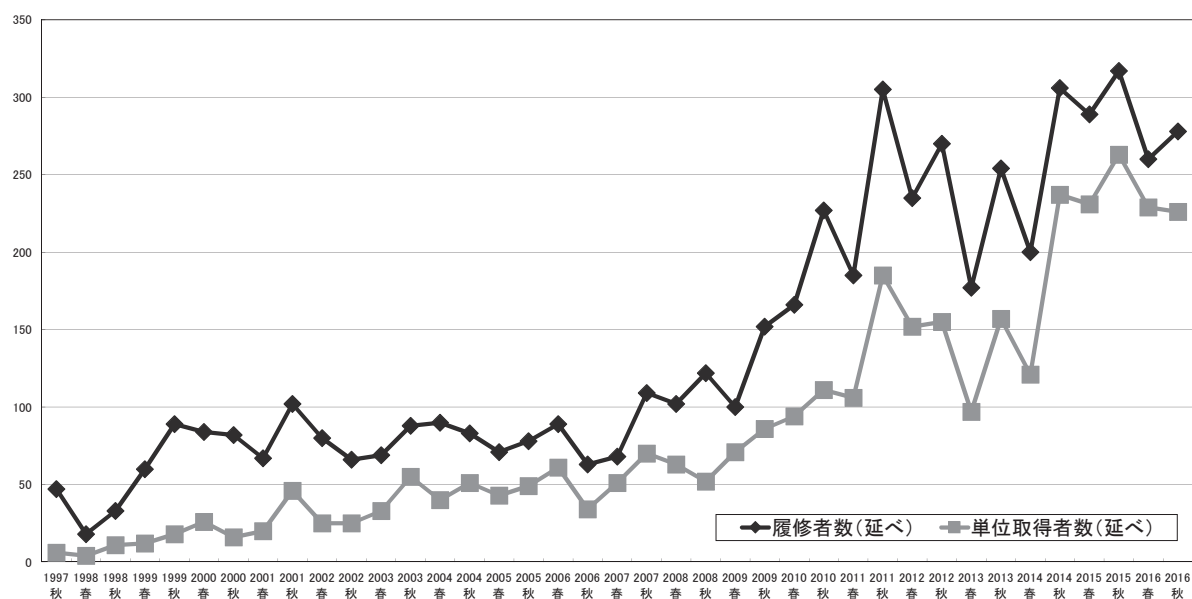
No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	日本と中国の文学と言語	Literature and language of Japan and China	文学研究科	斎藤 理生
2	ジェンダー論	Gender Studies	人間科学研究科	Paola Cavaliere
3	社会学入門	Introduction to Sociology	人間科学研究科	Viktoriya KIM
4	社会学Ⅱ	Sociology II	人間科学研究科	Viktoriya KIM
5	人類学Ⅱ	Anthropology II	人間科学研究科	Christie LAM
6	市民社会運動	Introduction to Civil Society Movements	人間科学研究科	Christie LAM
7	メディア社会学	Media Sociology	人間科学研究科	Viktoriya KIM
8	日本の神話と伝説	Japanese Myths and Legends	人間科学研究科	Irina HOLCA
9	日本のサル学	Primateology in Japan	人間科学研究科	中道 正之
10	多変量統計科学	Multivariate Statistical Science	人間科学研究科	足立 浩平
12	比較思想史	Contemporary Japanese Thoughts	人間科学研究科	Wolfgang SCHWENTKER
13	特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題)	Special lecture (Topics in Comparative Contract and Torts Law)	法学研究科	Leonardo Ciano
14	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Pedriz Luis
15	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Pedriz Luis
16	現代宇宙地球科学の話題	Current Topics in Earth and Space Science	理学研究科	長峯健太郎
17	応用理工学入門	Introduction of Mechanical, Materials and Manufacturing Science	工学研究科	芝原 正彦
18	電子工学の最前線	Frontiers in Electronics	工学研究科	森 伸也
19	持続可能な社会に向けた環境とエネルギー問題	Energy and Environment: A multidisciplinary approach towards world's energy crisis	工学研究科他	田中 敏宏
20	国際理解入門	Introduction to International Understanding	工学研究科	藤田 清士
21	エレクトロニクスへの招待	Invitation to Electronics	基礎工学研究科	田中 歌子
22	近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュー
23	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	堀川 智也
24	地域統合論	Regional Integration	国際公共政策研究科	利 博友
25	言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese Language Acquisition	国際教育交流センター	西口 光一
26	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100-Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
27	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100-Track 2		
28	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200-Track 1	国際教育交流センター	義永美央子
29	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200-Track 2		
30	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300-Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
31	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300-Track 2		
32	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400-Track 1	国際教育交流センター	勝田 順子
33	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400-Track 2		
34	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500-Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
35	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500-Track 2		
36	総合日本語 JA600-トラック 1	Japanese JA600-Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
37	総合日本語 JA600-トラック 2	Japanese JA600-Track 2		
38	文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	国際教育交流センター	有川 友子
39	社会起業	Social Entrepreneurship	国際教育交流センター	伊藤ゆかり
40	コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	国際教育交流センター	魚崎 典子
41	日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	国際教育交流センター	近藤佐知彦
42	数学とその工学応用 (Ⅱ)	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)	国際教育交流センター	宮原 啓造
43	翻訳と翻訳者たち	Translation and Translators	国際教育交流センター	歳岡 冨香
44	自主研究 I-A 自主研究 I-B 自主研究 I-C	Independent Study I-A Independent Study I-B Independent Study I-C		各自主研究担当教員

4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

部局別：OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文		人科		外		法		経済		理		医		歯				
2016 春	6	(6)	6	(4)	24	(18)	17	(14)	4	(2)	22	(19)	3	(3)	0	(0)			
2016 秋	17	(16)	24	(21)	40	(33)	19	(16)	19	(13)	19	(18)	0	(0)	1	(0)			
2016 春・秋 合計	23	(22)	30	(25)	64	(51)	36	(30)	23	(15)	41	(37)	3	(3)	1	(0)			
1996 春 から 2015 秋 の合計	441	(277)	425	(182)	896	(491)	578	(327)	518	(340)	353	(204)	132	(61)	8	(4)			
1996 春 から 2016 秋 の合計	464	(299)	455	(207)	960	(542)	614	(357)	541	(355)	394	(241)	135	(64)	9	(4)			
学部	薬		工		基工		言語		国公		情報		生命		高司		計		G/R
2016 春	0	(0)	30	(26)	31	(28)	1	(1)	5	(3)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	149	(124)	0.83
2016 秋	0	(0)	22	(15)	11	(5)	1	(0)	2	(1)	2	(2)	0	(0)	0	(0)	177	(140)	0.79
2016 春・秋 合計	0	(0)	52	(41)	42	(33)	2	(1)	7	(4)	2	(2)	0	(0)	0	(0)	326	(264)	0.81
1996 春 から 2015 秋 の合計	55	(31)	754	(408)	497	(305)	19	(11)	41	(27)	19	(12)	29	(13)	3	(1)	4768	(2694)	0.57
1996 春 から 2016 秋 の合計	55	(31)	806	(449)	539	(338)	21	(12)	48	(31)	21	(14)	29	(13)	3	(1)	5094	(2958)	0.58

いずれも延べ数。() 内の数字は単位取得者数を表す。G/Rは、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。



OUSSEP 学生以外の国際交流科目受講状況および単位取得状況の推移

5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み

近年の教育の国際化にともない英語での授業科目が増えている。国際交流科目は、本学の日本人学生や正規留学生などの一般学生と協定校からの交換留学生がともに英語でさまざまな授業を受ける科目であり、提供科目数は年々増え、平成 27 年度も、国際教育交流センターを含む全学のさまざまな学部から多様な授業が行われた。国際教育交流センターではカリキュラムの時間割調整や授業コーディネートをを行っている。

(1) FDオリエンテーション

英語による専門科目授業の質保証のため、当センターでは学期毎に授業担当教員およびTA（ティーチングアシスタント）を対象にFDオリエンテーションを豊中と吹田の両キャンパスで実施している。

平成 28 年度 春学期 国際交流科目 担当教員・TA対象 FDオリエンテーション

●平成 28 年 4 月 7 日（木）吹田キャンパス IC ホール 2F 講義室 5 13:30 ～

<プログラム>

I. 授業を実施頂く上でご配慮いただきたいこと

国際交流科目授業アンケートのお願いと前学期の結果報告

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. FDセミナー

TLSC より学習の評価方法に関するセミナー

講師：大山 牧子（全学教育推進機構教育学習支援部門 助教）

III. 質疑応答・全体での意見交換

平成 28 度 秋学期 国際交流科目 担当教員・TA対象
FDオリエンテーション

●平成 28 年 9 月 30 日(金) 豊中キャンパス 文理融合型研究棟 6F 共通講義室 1 13:30 ~

<プログラム>

I. 授業を実施頂く上でご配慮いただきたいこと

国際交流科目授業アンケートのお願いと前学期の結果報告

近藤 佐知彦 (国際教育交流センター 教授)

II. FDセミナー

TLSC より「英語授業入門」に関するセミナー

講師：竹村 治雄 (全学教育推進機構教育学習支援部門 教授)

III. 質疑応答・全体での意見交換



近藤教授による説明



竹村教授による講演

(2) 授業評価アンケートの実施とフィードバック

授業の質保証の取り組みとして、毎学期数回の授業が行われた時点で、授業の最後に時間をとって受講生アンケートを実施している。アンケートは指定した受講生に回収させ、コピーをとり担当教員に学内便にて返送するとともに、集計して個別の授業の結果及び全体の集計結果を返送し、その学期の後半の授業にアンケートでの受講生の声をフィードバックいただきながら、授業を組み立てていただくよう担当教員の方々にお願いしている。詳しくは巻末資料のアンケート用紙と集計結果を参照いただきたい。また、学期の原則最終授業に同様のアンケートをとり、指定した学生に回収させ、そのコピーと集計結果は、成績評価の締め切り後に担当教員に返送している。

平成 28 年 10 月 20 日

平成 28 年度秋学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る 国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。先生方にご開講頂いている国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入に大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められています。

このような趣旨に基づき、毎学期に 2 回（中間および期末）受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しています。今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですが何とぞご高配賜りますようお願い申し上げます。具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照くだされば幸いです。公平性担保のために、特に「回収方法」につきましてご注意くださいようお願い申し上げます。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考ともさせて頂きたく併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させていただきます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 奥 奈津子

oku-n@office.osaka-u.ac.jp

Tel : 06-6879-7128 (内線 7128)

VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム

1. 『超短期』プログラム

平成 20 年度以来、旧留学生センターから引き続いて当センターでは、いわゆる「超短期」と呼ばれるプログラムを運用してきている。平成 21 年度には「ナノテクノロジーコース」と「日本語日本文化コース」の二つのプログラムを「Spring Intensive Program 2010」のタイトルの下で「超短期」プログラムとして並行開催した。平成 22 年度は日本語日本文化研修に集中し、春休みに加えて夏休みのプログラムを開催してきた。

日本学生支援機構（JASSO）によって Short-stay 奨学金が創設された平成 23 年度には、東日本大震災の悲劇を受けて、単なる「日本語日本文化プログラム」に留まらず「ショートステイ日本語・防災プログラム」として再設計し、阪神淡路大震災の経験を活かした世界から注目される「防災・減災」の取り組みについても紹介するプログラムとして運用することとした。平成 23 年度夏においては、前年度のタイ王国での洪水被害に伴い夏休みのスケジュールが変わったため同国の協定校から例年通りの参加は難しい由の相談を受けた。そこでプログラムの「防災」の主旨にも鑑み、通常の 8 月プログラムに加えて 9 月プログラムを開催して、日本語に親しみつつ、日本の防災実践に触れる機会を提供した。平成 24 年度は夏と春の二回開催をしたものの、平成 25 年度は Global 30 が最終年次を迎えることに鑑み、「日本語・防災」としての春季プログラムは一旦休止して夏季プログラムのみを運営した。春季には「アカデミックジャパニーズ基礎」として開催した。参加者数は合計で例年度と同程度となり、多くの学生に日本語の学習と日本の防災・減災の実践に触れる機会を提供した。平成 26 年度にはスーパースーパーグローバル大学等事業が公募され、本プログラムも再び夏と春の二回開催体制へと戻し、以降平成 28 年度についても引続き同じ体制でプログラムを運営している。

【夏超短期参加者リスト】

2016－2017 夏超短期プログラム（2016.8.4－2016.8.25 実施）

	性 別	在 籍 校	国 籍	生 年	専 攻
1	Male	マヒドン大学	Thailand	1997	Business administration
2	Female	マヒドン大学	Thailand	1996	Intercultural studies
3	Male	マヒドン大学	Thailand	1997	Finance
4	Male	マヒドン大学	Thailand	1996	International bussiness
5	Female	マヒドン大学	Thailand	1995	International bussiness
6	Female	マヒドン大学	Thailand	1996	Business economics
7	Female	マヒドン大学	Thailand	1997	Intercultural studies and languages
8	Female	マヒドン大学	Thailand	1994	Finance
9	Female	マヒドン大学	Thailand	1995	Social science

【春超短期参加者リスト】

2016－2017 春超短期プログラム（2017.2.1－2017.2.21 実施）

	性 別	在 籍 校	国 籍	生 年	専 攻
1	Female	釜山大学校	Republic of Korea	1993	Political science and diplomacy
2	Female	釜山大学校	Republic of Korea	1995	Political science and diplomacy
3	Female	釜山大学校	Republic of Korea	1992	Molecular biology
4	Male	釜山大学校	Republic of Korea	1992	Japanese language and literature
5	Male	釜山大学校	Republic of Korea	1997	Electrical and computer engineering
6	Male	釜山大学校	Republic of Korea	1994	Public policy
7	Male	釜山大学校	Republic of Korea	1992	Japanese language and literature
8	Male	釜山大学校	Republic of Korea	1994	Molecular biology
9	Male	釜山大学校	Republic of Korea	1996	History
10	Male	釜山大学校	Republic of Korea	1993	Environmental engineering
11	Female	釜山大学校	Republic of Korea	1994	Public administration
12	Female	釜山大学校	Republic of Korea	1996	Molecular biology
13	Female	釜山大学校	Republic of Korea	1995	Arts

2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP

J-ShIPは平成23年度夏に新たに創設された。設立に至る経緯や、プログラムのねらいについては近藤（2012）等に譲るが、端的に述べれば、秋セメスター15週を5週ずつの3ユニットに分け、1ユニット（5週）、2ユニット（10週）で日本語を集中的に学習する日本語特化型のプログラムとして案出され、こちらも平成23年度に新設されたSSプログラム奨学金を最大限獲得する設計となっている。かなりの突貫工事であったが、日本語教育開発研究チームの全面的な協力を得て急遽創設にこぎ着けることができた。将来的にはそれぞれのレベルにあった1ユニット、もしくは連続した2ユニットを自由に履修できる環境を理想としている。しかし、立ち上げには、種々の制約から10月から12月中旬までの2ユニット、および12月中旬から1月末までの1ユニットとして運用された。また豪州からの学生を対象にした12月よりの1モジュールについては、豪州への派遣学生との交流会などを盛り込むことで、SS & SVプログラムとして奨学金の上積みをしているが、実質的には一貫したプログラム設計となっていた。

平成24年度には、新たに「夏プログラム」も増設し、カリフォルニア大学（UC）を中心とした米国の協定校の「夏休み」期間にあわせた開講で、数多くのアメリカ人学生に対して、日本語に親しみ、また日本語単位を在籍校において互換しうる機会を提供した。平成25年度にも引き続いて3サイクル（夏2ユニット、秋2ユニット、冬1ユニット）のプログラムを開講した。夏のプログラムにはUCをはじめとして多数の学生がアメリカおよび香港から集まり成功を収めた。特に平成25年6月にはUCの日本進出50周年のイベントが東京で行われたが、同時にUC関係者多数を招いて大阪でもサブイベントを開催し、その際にもJ-ShIPが本学とUCとが連携をする際のフラッグシップ的な位置づけとして紹介されている。なお、種々の事情から秋プログラムは参加者なしとなったものの、豪州向け冬プログラムには多数の参加を見た。

平成26年度については参加者無しとなった秋プログラムを休止し、結果として米国向け90コマ8週間のサマーインスティテュート（6－8月）、および豪州向け45コマ5週間のサマーインスティテュート（12－1月）の2サイクルを運営することになった。それぞれに多数の学生が来学し、特に夏プログラムにつ

いては、UC などから予想外に多くの学生が殺到し、教室を「時間差」でやりくりをしながらプログラムの運営を行うことになった。また平成 26 年度からは宿舍のオプションとして新たに「ホームステイ」を導入した。いずれのプログラムでも日本学生支援機構からの奨学金支援を受けている。平成 27 年度には、協定校側からの強い要望を受けて中上級クラスである「Mid-Summer」プログラムを追加し、受入れ体制をさらに拡充して運営するなど、引き続いて受入態勢を強化してきた。例えばハード面では箕面に教室および職員室を増設して 3 教室体制を整備した。また非常勤講師のボランティアに頼っていた「オフィスアワー」を制度化し、参加学生の旺盛な学習ニーズに応えている。

近藤佐知彦（2012）「SS プログラム J-ShIP の 1 年目：新コンセプトの超短期日本語プログラムへの挑戦」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』16、97-106

【夏 J-ShIP 参加者リスト】

2016－2017 夏 J-ShIP Program（2016.6.16－2016.8.10 実施）

	性 別	在 籍 校	国 籍	生 年	専 攻
1	Male	サッサリ大学	Italy	1995	English
2	Female	カリフォルニア大学アーバイン校	U.S.A	1997	English
3	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1994	Psychology
4	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1996	Microbiology
5	Female	カリフォルニア大学デビス校	U.S.A	1996	Communications
6	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1997	Pre-Haas
7	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1995	Media studies
8	Male	カリフォルニア大学バークレー校	Republic of Korea	1996	Intended business
9	Male	カリフォルニア大学アーバイン校	U.S.A	1997	Biological science
10	Male	カリフォルニア大学サンディエゴ校	U.S.A	1995	Computer engineering
11	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1996	Psychology
12	Male	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1997	Cognitive science
13	Male	カリフォルニア大学サンタバーバラ校	China	1996	Physics
14	Female	カリフォルニア大学サンディエゴ校	U.S.A	1994	Sociology
15	Female	カリフォルニア大学サンディエゴ校	China	1995	Joint mathematics and economics
16	Male	カリフォルニア大学サンディエゴ校	U.S.A	1996	Biochemistry
17	Male	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1998	Linguistics and computer science
18	Female	カリフォルニア大学サンタバーバラ校	U.S.A	1997	Pre communication
19	Male	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1994	Media studies
20	Male	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	U.S.A	1995	Biochemistry and molecular biology
21	Male	カリフォルニア大学サンタバーバラ校	U.S.A	1996	Math
22	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1994	Legal studies and theater
23	Male	カリフォルニア大学デビス校	U.S.A	1991	History
24	Male	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1992	Business
25	Female	カリフォルニア大学サンディエゴ校	U.S.A	1996	Bioinformatics
26	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1997	Electrical engineering computer science
27	Female	カリフォルニア大学アーバイン校	U.S.A	1995	Psychology and social behavior
28	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1995	English
29	Male	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1996	Mechanical engineering

30	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1996	Molecular, cellular, and developmental biology
31	Male	カリフォルニア大学サンディエゴ校	U.S.A	1993	Pharmacological chemistry
32	Male	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	Republic of Korea	1996	Computer science
33	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1996	Biology
34	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1996	Computer science
35	Male	カリフォルニア大学アーバイン校	U.S.A	1997	Computer Engineering
36	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	China	1994	Statistics
37	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1996	History
38	Male	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1996	Biology
39	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1994	Molecular toxicology
40	Male	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	U.S.A	1995	Computer game design
41	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1993	Political Economy
42	Female	カリフォルニア大学デビス校	China	1997	Communication
43	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1996	Nutritional sciences
44	Female	カリフォルニア大学サンタバーバラ校	U.S.A	1994	Biopsychology
45	Female	カリフォルニア大学デビス校	U.S.A	1995	Neurology, Physiology, Behavior
46	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1995	English
47	Female	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	U.S.A	1996	Biochemistry
48	Male	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1995	Molecular & cell biology
49	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1995	Psychology and Asian studies
50	Female	カリフォルニア大学バークレー校	U.S.A	1996	Molecular and cell biology
51	Female	カリフォルニア大学デビス校	China	1998	Managerial economic
52	Female	ケンタッキー大学	U.S.A	1995	Education
53	Male	ケンタッキー大学	U.S.A	1997	Philosophy
54	Male	ケンタッキー大学	U.S.A	1996	Economics

【Mid-Summer J-ShIP 参加者リスト】

2016－2017 Mid-Summer J-ShIP Program（2016.7.10－2016.8.10 実施）

	性 別	在 籍 校	国 籍	生年	専 攻
1	Male	マレーシア工科大学	Malaysia	1994	Electronic engineering
2	Female	逢甲大学	Republic of China	1994	Risk management and insurance
3	Male	逢甲大学	Republic of China	1994	Mechanical and computer engineering
4	Male	逢甲大学	Republic of China	1994	International trade
5	Female	グルノーブル大学	France	1996	Japanese

【冬J-ShIP参加者リスト】

2016－2017 冬J-ShIP Program（2017.1.5－2017.2.3 実施）

	性 別	在 籍 校	国 籍	生年	専 攻
1	Female	モナシュ大学	Australia	1985	Japanese studies
2	Male	モナシュ大学	Australia	1997	Japanese
3	Female	モナシュ大学	Hong Kong	1997	Accounting
4	Female	モナシュ大学	China	1994	Application development
5	Female	モナシュ大学	Australia	1995	Japanese
6	Female	モナシュ大学	Australia	1997	Biomedical science
7	Male	モナシュ大学	Australia	1997	Accounting
8	Female	モナシュ大学	Australia	1997	Japanese
9	Female	モナシュ大学	Australia	1998	Japanese
10	Female	モナシュ大学	Australia	1998	Japanese studies
11	Male	モナシュ大学	Australia	1997	Japanese
12	Female	モナシュ大学	Australia	1998	Japanese
13	Female	モナシュ大学	Australia	1994	Mathematics
14	Male	モナシュ大学	China	1996	Information and technology system
15	Male	モナシュ大学	Australia	1997	Chemistry and Japanese
16	Female	オーストラリア国立大学	Australia	1997	Law and French
17	Female	オーストラリア国立大学	Australia	1991	Japanese and Asian studies
18	Female	オーストラリア国立大学	Australia	1995	Human rights
19	Female	オーストラリア国立大学	Australia	1997	Japanese
20	Female	オーストラリア国立大学	Australia	1996	Japanese
21	Female	オーストラリア国立大学	China	1996	International relations
22	Female	オーストラリア国立大学	China	1994	Accounting
23	Female	オーストラリア国立大学	China	1995	Finance
24	Female	オーストラリア国立大学	China	1996	International business
25	Male	オーストラリア国立大学	Australia	1998	International security studies
26	Male	オーストラリア国立大学	Australia	1996	Japanese
27	Female	オーストラリア国立大学	China	1996	Japanese
28	Female	オーストラリア国立大学	Australia	1997	Japanese

Ⅶ. 留学生支援

国際教育交流センター交流アドバイジング研究チームは、吹田キャンパスは留学生交流情報室（IRIS：Information Room for International Students）、豊中キャンパスは国際教育交流センター豊中分室に、箕面キャンパスは国際教育交流センター箕面分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイジング担当教員との密接な連携のもと、留学生支援を継続的に行っている。留学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。定期的に発行するIRISレター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、学生間の交流の促進の観点から、大阪大学留学生会（OUISA：Osaka University International Student Association）やB.S.P.（Brothers and Sisters Program）の支援も継続して行っている。更に、地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携、地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力も継続して行っている。このほか、短期プログラム開発研究チームの一般学生の海外留学支援にも協力している。

1. 生活・就学支援

(1) 国際教育交流センターにおける相談対応

留学生とその家族が日本で生活する上で、生活習慣や文化に円滑に適応できるようにアドバイスにあたるとともに、さまざまな留学生関連プログラムなどの紹介と情報提供をしている。また、国際交流活動等についての相談にも応じるなど、留学生に対する総合的な支援をしている。

こうした相談や情報提供は、吹田地区ではセンター内の留学生交流情報室（IRIS（あいりす）はInformation Room for International Studentsの略。以下IRISと記す。）にて平日8時半～18時の間、豊中地区では学生会館2階の豊中分室で平日10時半～17時の間、箕面分室は原則として平日10時半～17時の間、原則として休業日を除く学期期間中、行っている。表1にIRIS、表2に豊中分室、表3に箕面分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携および、関係部局との連携をしながら留学生の相談対応を実施した。

(2) 新規来日留学生への支援

国際教育交流センター所属及び新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムの案内及び申込受付などを含め、来日前からコンタクトを取っている。来日当初の約一週間のオリエンテーションプログラムを、国際学生交流課や国際教育交流センター日本語教育研究チーム、短期プログラム開発研究チーム等と連携して実施し、学生の円滑な留学がスタートできるように支援した。

国際教育交流センターは、留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、大阪大学留学生ホストファミリープログラム（略称OHP）を実施している。大阪大学で学ぶ留学生と大阪大学近郊の市民ボランティアが、宿泊ではない、家族ぐるみで気軽な交流活動を行っている。来日前にホストファミリープログラムに申し込んだ学生とホストファミリーのマッチングに

については、近隣のボランティア団体や国際交流団体と連携して調整し、来日当初のオリエンテーション期間中に出会いの会を設けて、留学生とホストファミリーが来日初期の段階に出会う機会を設定している。また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、オリエンテーションプログラムの中に研究室訪問の日程を組み、留学生来日前に指導教員と連絡を取り、研究室訪問の日程調整をあらかじめ行った上で実施した。学生間の交流や支援の観点から、B.S.P.の学生によるキャンパスツアー、大阪大学留学生会（OUIA）の活動の紹介を学生達と連携して行った。

表1 大阪大学国際教育交流センター留学生交流情報室「IRIS」の相談状況及び来室・利用状況

平成28年度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	194	169	218	211	144	315	525	617	391	374	151	93	3402
日本語	60	14	10	17	5	25	44	6	8	17	6	4	216
奨学金	18	6	0	1	0	2	4	1	2	0	2	3	39
保証人	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
住居保証人	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
医療	33	22	11	2	0	3	9	3	3	2	7	3	98
入管関係	8	5	3	3	0	1	2	1	3	1	1	3	31
家族について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職	53	13	8	1	4	24	110	79	8	12	4	18	334
住居	4	11	10	0	94	4	3	0	1	7	4	9	147
各種情報提供	257	162	201	114	10	48	114	121	72	65	74	40	1278
生活用品	32	24	36	20	2	7	36	9	29	54	32	17	298
学習・研究	15	5	3	0	0	2	2	7	4	10	12	10	70
事故・トラブル	0	2	2	1	0	0	1	0	0	2	0	1	9
引越	0	0	1	0		0	0	0	0	0	1	11	13
アルバイト	2	1	1	0	1	1	2	0	1	7	12	1	29
ホストファミリー	36	2	31	159	125	16	41	10	1	31	106	27	585
ホームステイ	0	1	12	0	1	1	2	0	0	0	0	0	17
海外留学相談	1	0	0	0	3	3	0	0	0	2	0	0	9
問い合わせ等（学外）	32	19	24	34	35	51	65	45	68	59	42	27	501
その他	0	0	2	1	3	2	0	2	0	2	1	12	25
計	748	457	574	564	427	505	960	901	591	645	455	279	7106

相談対応件数推移

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
件数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124	5087	4675	4880	4489	4413	5112	4517	5553	6114	8106	7106

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
件数	16450	17848	17996	18025	18077	19255	19356	19934	19532	19574	20909	20107	20176	19170

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	2041	1642	1834	1806	313	672	2003	1777	1508	1715	877	309	16497
日本人学生	198	33	72	74	8	60	199	115	40	58	51	10	918
その他・一般	152	120	137	110	108	187	121	125	117	109	260	209	1755
合計	2391	1795	2043	1990	429	919	2323	2017	1665	1882	1188	528	19170

*ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表2 大阪大学国際教育交流センター豊中分室の相談状況及び来室・利用状況

平成28年度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	48	40	35	26	12	4	66	50	25	27	9	11	353
日本語	22	6	5	3	0	1	37	13	10	7	5	3	112
奨学金	3	0	1	1	2	1	7	7	2	0	3	3	30
保証人	0	0		0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
住居保証人	2	1	0	0	0	1	1	0	3	0	1	3	12
医療	5	3	2	2	2	1	9	6	2	6	2	0	40
入管関係	5	1	0	4	3	1	2	2	0	4	6	3	31
家族について	0	0	1	1	2	0	1	0	0	0	1	0	6
就職	7	4	7	3	1	4	8	7	3	5	8	4	61
住居	3	0	0	1	1	0	0	1	2	0	4	1	13
各種情報提供	95	43	48	39	23	36	140	70	47	44	33	16	634
生活用品	3	0	1	7	1	4	15	10	9	6	3	4	63
学習・研究	31	6	18	22	9	6	34	18	30	19	8	9	210
事故・トラブル	1	6	2	0	0	0	3	2	1	1	0	0	16
引越	0	0	0	1	0	3	0	0	0	1	5	1	11
アルバイト	7	9	7	5	4	1	9	11	3	5	2	5	68
ホストファミリー	14	5	2	0	0	0	36	1	0	1	1	0	60
ホームステイ	1	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
海外留学相談	44	49	64	35	16	22	30	18	12	14	7	6	317
問合わせ等（学外）	7	4	8	7	6	0	1	2	3	1	4	1	44
その他	10	8	7	8	10	7	12	5	11	12	8	2	100
計	308	185	216	165	92	92	412	223	163	153	110	73	2192

相談対応件数推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
件数	3056	2843	2294	1352	1164	1139	805	916	1253	1271	993	906	1302	2192

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者数推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
件数	9575	8320	7524	5183	5324	7508	5212	6029	9065	11230	10563	9580	9612	12878

豊中分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	672	578	755	642	146	289	1597	1364	1113	1068	389	158	8771
日本人学生	373	445	498	367	108	68	452	269	261	262	145	37	3285
その他・一般	97	85	102	63	38	28	94	88	64	73	46	44	822
合計	1142	1108	1355	1072	292	385	2143	1721	1438	1403	580	239	12878

*ここでの「利用」は国際教育交流センター豊中分室に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表3 大阪大学国際教育交流センター箕面分室の相談状況及び来室・利用状況

平成28年度相談対応延べ状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流		21	13	34	13	4	7	34	23	18	17	3	3	190
日本語														0
奨学金														0
保証人														0
住居保証人														0
医療														0
入管関係				1				1						2
家族について														0
就職									1					1
住居														0
各種情報提供		24	17	8	7	11	6	33	16	6	11	6	10	155
生活用品														0
学習・研究		12	2	4	10	3	1	3	7	3	9	9		63
事故・トラブル		3				1								4
引越														0
アルバイト														0
ホストファミリー		4						19	1					24
ホームステイ				6	1									7
海外留学相談		62	35	60	24	10	5	18	14	9	26	2	2	267
問い合わせ等（学外）						1								1
その他		2	1	12	27	13					18	1		74
計		128	68	125	82	43	19	108	62	36	81	21	15	788

相談対応件数推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
件数	1488	966	840	661	831	797	731	854	788

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
件数	2893	3517	4477	5249	5703	5024	4570	4525	3907

箕面分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	152	177	238	185	69	169	208	119	97	102	31	33	1580
日本人学生	252	297	336	258	46	19	248	172	130	166	70	16	2010
その他・一般	19	20	53	44	33	12	25	16	14	43	11	27	317
合計	423	494	627	487	148	200	481	307	241	311	112	76	3907

*ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

(3) 学生交流支援

学生支援については、B.S.P.と大阪大学留学生会（OUIA）の活動の支援を行った。表4にB.S.P.の活動、表5に大阪大学留学生会（OUIA）の活動を記す。今年度も年間を通して学生主体の活動を積極的に支援した。

表4 平成28年度B.S.P.の活動内容

月	日		内 容	共 催 団 体
4	5, 6	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会 (OUIA)
	8	豊中	豊中キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会 (OUIA)
	11	箕面	箕面キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会 (OUIA)
	12	豊中	お菓子パーティー	
	14	豊中	お菓子パーティー	
	20	豊中	お菓子パーティー	
	22	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUIA)
5	10	箕面	みんなで英語	
	13	豊中	W.W.W.Party	大阪大学留学生会 (OUIA)
	20	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUIA)
	24	吹田	Japanese Café	大阪大学留学生会 (OUIA)
	29	箕面	遠足（インスタントラーメン博物館と五月山公園）	
6	8	豊中	お菓子パーティー	
	17	箕面	J-ShIP Summer キャンパスツアー	
	27	箕面	アイスクリームパーティー	
	28	箕面	みんなで英語&日本語	
	30	豊中	水餃子パーティー	
7	1	吹田	かき氷パーティー	大阪大学留学生会 (OUIA)
	9	豊中	夏まつり出店	
	11	箕面	J-ShIP Mid-Summer キャンパスツアー	
	13	箕面	多国籍料理パーティー	
	14	豊中	韓国式唐揚げパーティー	
	15	吹田	七夕流しそうめんパーティー	大阪大学留学生会 (OUIA)
	19	箕面	みんなで英語&日本語	
	22	箕面	浴衣着付け教室	
8	5	豊中	スリランカ料理パーティー	
	5	箕面	みんなでおしゃべり！	
	8	豊中	たこやきパーティー	
	11	豊中	ONE DAY TRIP to Kurama & Kihune	
9	28	豊中	豊中キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介 ティーパーティー	大阪大学留学生会 (OUIA)
	29	吹田	吹田キャンパスツアー	大阪大学留学生会 (OUIA)
	30	箕面	箕面キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会 (OUIA)
10	5	吹田	吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会 (OUIA)
	6	豊中	お菓子パーティー	
	12	豊中	お菓子パーティー	

10	19	豊中	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	25	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	27	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会 (OUISA)
	31	豊中	タイ料理パーティー	
11	4～6	豊中	まちかね祭出店	台湾留学生会
	14	豊中	モザンビーク料理パーティー	モザンビーク留学生有志
	18	吹田	Japanese Café	大阪大学留学生会 (OUISA)
	27	箕面	秋の遠足 (神戸)	
12	1	吹田	たこ焼きパーティー	大阪大学留学生会 (OUISA)
	2	豊中	Japanese Café	
	5	豊中	Japanese Café	
	15	豊中	ぜんざいパーティー	
	16	豊中	Japanese Café	
	19	吹田	Japanese Café	大阪大学留学生会 (OUISA)
	20	豊中	Japanese Café	
	20	吹田	年末大掃除	大阪大学留学生会 (OUISA)
	21	箕面	水餃子パーティー	
	22	箕面	年末大掃除	
	26	豊中	年末大掃除	
1	6	箕面	J-ShIP Winter キャンパスツアー	
	17	豊中	お雑煮パーティー	
	18	豊中	Japanese Café	
	19	豊中	Japanese Café	
	20	吹田	もち&書き初めパーティー	大阪大学留学生会 (OUISA)
	25	箕面	書き初めパーティー	
	26	豊中	パエリアパーティー	教員有志
2	10	吹田	恵方巻きパーティー	大阪大学留学生会 (OUISA)
	14	豊中	お別れ会	
3	29	豊中	スリランカ料理パーティー	

表 5 平成 28 年度大阪大学留学生会 (OUISA) の活動内容

月	日	内 容	場 所	共催団体、内容他
4	5	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	研修コース留学生対象 /B.S.P.共催
	6	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	短期留学生対象 /B.S.P.共催
	8	新規留学生キャンパスツアー	豊中キャンパス	学部・短期留学生対象 /B.S.P.共催
	11	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	箕面キャンパス	Uコース対象 /B.S.P.共催
	13	OUISA オリエンテーション	吹田：ICホール講義室 5,6	新規留学生対象
	15	役員会(1)	吹田：ICホール IRIS	
	22	OUISA 総会 & ウェルカムパーティー	吹田：ICホール	B.S.P.共催
5	10	理事との面談	吹田：本部	各留学生団体代表
	13	W.W.W.Party	豊中キャンパス:大学会館	B.S.P.共催
	16	役員会(2)	吹田：ICホール IRIS	
	20	ウェルカムパーティー	箕面：福利会館 2F	B.S.P.共催
	24	OUISA HOUR (チュニジア)	吹田：CIA	
	27	ハラスメントワークショップ	吹田：ICホール講義室 5,6	ハラスメント相談室、CIEE 共催
6	4～5	役員合宿	箕面野外活動センター	
	24	役員会(3)	吹田：ICホール IRIS	

7	12	役員会(4) & OUISA 送別会	吹田 : IC ホール IRIS	
	15	アカデミックライフワークショップ	吹田 : IC ホール 講義室 5,6	ハラスメント相談室、CIEE 共催
	16	Beach Party	近江舞子ビーチ	
8	7	Fun Run	吹田キャンパス	
9	26	役員会(5)	吹田 : IC ホール IRIS	
	28	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	豊中キャンパス	短期留学生対象 /B,S,P. 共催
	29	新規留学生キャンパスツアー	吹田キャンパス	短期留学生対象 /B,S,P. 共催
	30	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	箕面キャンパス	日日センター学生対象 /B,S,P. 共催
10	5	新規留学生オリエンテーション・キャンパスツアー	吹田キャンパス	日本語研修コース・KOSMOS/B,S,P. 共催
	12	OUISA オリエンテーション	吹田 : IC ホール 講義室 5,6	新規留学生対象
	14	役員会(6)	吹田 : IC ホール IRIS	
	19	ウェルカムパーティー	豊中キャンパス: 大学会館	B,S,P. 共催
	25	ウェルカムパーティー	箕面 : 福利会館 2F	B,S,P. 共催
	27	ウェルカムパーティー	吹田 : IC ホール	B,S,P. 共催
11	4,5	待兼祭出店	豊中キャンパス	B,S,P. 共催
	9	OUISA HOUR (インド)	吹田 : IC ホール IRIS	
	21	OUISA HOUR (中国)	吹田 : IC ホール IRIS	
	22	役員会(7)	吹田 : IC ホール IRIS	
	26	大阪大学留学生会スポーツ大会	吹田キャンパス	協力 : B,S,P.
	29	OUISA HOUR (クロアチア)	吹田 : IC ホール IRIS	
		アカデミックライフワークショップ	吹田 : IC ホール 講義室 5,6	ハラスメント相談室、CIEE 共催
	30	OUISA HOUR (インドネシア)	吹田 : IC ホール IRIS	
12	1	OUISA HOUR (ウガンダ)	吹田 : IC ホール IRIS	
	9	International food party	吹田 : IC ホール IRIS	
	13	OUISA HOUR (カナダ) & 役員会(8)	吹田 : IC ホール IRIS	
	15	OUISA HOUR (スリランカ)	豊中 : CIEE 豊中分室	
	20	年末大掃除	吹田 : IC ホール IRIS	B,S,P. 共催
	22	パネト・ネパーティー	吹田 : IC ホール IRIS	
1	10	OUISA HOUR (ブラジル)	吹田 : IC ホール IRIS	
	12	アラビアフードパーティー	吹田 : IC ホール IRIS	
	17	OUISA HOUR (クロアチア)	豊中 : CIEE 豊中分室	
	19	OUISA HOUR (韓国)	吹田 : IC ホール IRIS	
	24	役員会(9)	吹田 : IC ホール IRIS	
2	21	役員会(10)	吹田 : IC ホール IRIS	
3	17	OUISA 送別会	吹田 : IC ホール IRIS	
	22	役員会(11)	吹田 : IC ホール IRIS	

(4) 学内連携

国際教育交流センターは、学内の各部局の留学生関係者との連携の強化も継続して実施している。各部局の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」ミーティングを定例で4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。国際教育交流センター主催の連絡・交換会は平成28年7月22日に開催した。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

地域との連携も引き続き積極的に行っている。ホストファミリープログラムについては、大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会を年2回開催し、留学生の来日時期に合わせて、ホストファミリーの組み合わせの連絡調整や、ホストファミリープログラム等に関する意見交換を行った。ホストファミリーや地域のボランティアや関係者との連絡を緊密に取っている。表6は平成28年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数である。

第25回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会を平成29年2月16日に開催した。今回の協議会では、大阪大学中国、インドネシア、ベトナム、インド各留学生会の活動や各国の文化についての発表の後、各国の民族音楽等のパフォーマンスが行われた。当日は学内42名、学外101名、あわせて143名の参加があった。

表6 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組合せ団体別数推移

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	計
ホストファミリーグループ アミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	9	15	10	13	14	12	16	13	11	10	7	245
茨木市国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	11	15	13	10	9	6	8	7	10	7	10	225
(公財)とよなか国際交流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	29	42	85	80	73	68	80	73	63	62	65	906
(公財)箕面市国際交流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	9	22	36	23	28	36	35	32	42	50	39	472
池田ホームステイ友の会→ 池田市国際交流協議会 ^{*6}	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	15	14	13	12	8	8	4	8	8	7	9	27
(公財)吹田市国際交流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	15	16	30	28	24	29	32	39	41	47	62	516
国際交流の会とよなか (TIFA)	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	18	14	12	14	15	15	13	19	18	11	14	285
川西市国際交流協会 ^{*1}									11	13	14	9	9	19	16	12	11	9	6	15	14	15	10	183
留学生さとおやの会 ^{*2}												5	8	7	6	7	6	6	7	10	8	11	9	90
海外協力グループ クスクス ^{*3}															7	12	11	13	6	4	6	10	9	78
国際交流グループ チャーターボックス ^{*4}																11	12	9	8	12	10	11	13	86
三井ボランティアネットワーク ワーク事業団 ^{*7}																							3	3
OHP/IRISに直接登録 ^{*5}	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	4	6	19	17	20	15	25	27	24	32	29	330
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	127	170	247	239	231	226	240	259	255	273	279	3635

- *1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成14年10月開始
- *2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成17年4月開始
- *3 海外協力グループクスクスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成20年9月開始
- *4 チャーターボックスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成21年4月開始
- *5 ホストファミリーの学内公募平成19年8月開始
- *6 池田ホームステイ友の会は平成24年3月で終了、平成24年9月より池田市国際交流協議会として参加
- *7 三井ボランティアネットワーク事業団のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成28年10月開始

(2) 国際理解教育への協力

地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力も引き続き実施した。表7は、平成28年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、派遣した留学生数である。

大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会において近隣の市町の教育委員会とも連携しながら、地域の小中高等学校へ留学生を派遣した。留学生の派遣は、地域の学校からの依頼に対して、学校交流ボ

ランティアに登録している留学生にメール等で案内を出して希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行い、実施後、留学生には報告書の提出、というプロセスで実施している。

表7 平成28年度「国際理解教育」実施状況

月	日	府／市	学校／プログラム名	派遣人数	派遣学生国籍
6	14	吹田市	かんらん保育園	4	ヨルダン・ロシア・中国・グアテマラ
6	24	茨木市	春日丘小学校	16	アメリカ・ロシア・グアテマラ・インドネシア・ハンガリー・香港・エルサルバドル・中国・モンゴル・ブラジル・ブルガリア・メキシコ・ドイツ
7	29		東大谷高等学校	3	ブルガリア・南スーダン・東ティモール
9	27-29		報徳学園中学校	13	インド・ウガンダ・東ティモール・インドネシア・ロシア・イラン・ブラジル・中国・ベトナム・ペルー・エジプト・南スーダン
10	6	大阪府	刀根山支援学校 阪大病院分教室	1	ロシア
11	2	茨木市	茨木小学校	5	インドネシア・ペルー・ロシア・中国・グアテマラ
11	11	豊能町	東能勢中学校	6	ブルガリア・イエメン・ロシア・中国・カナダ
11	16	能勢町	能勢中学校①	6	イラン・イエメン・ネパール・ベトナム・エジプト・インドネシア
11	17		関西大倉高等学校	14	イエメン・スーダン・ブラジル・ギニア・ロシア・イギリス・中国・スペイン・エジプト・インドネシア・オーストラリア・東ティモール・チュニジア
11	22	茨木市	沢池小学校	9	ロシア・東ティモール・ブラジル・インドネシア・エルサルバドル・カナダ・中国・ドイツ
11	25	川西市	清和台中学校	5	ロシア・ギニア・ペルー・イラン・中国
11	29	茨木市	清溪小学校	5	中国・ロシア・韓国・東ティモール・ブラジル
12	2	川西市	川西明峰中学校	5	中国・インドネシア・ロシア・ポーランド
12	3	大阪府	茨木高等学校	45	ブルガリア・イギリス・ロシア・スウェーデン／チリ・インドネシア・マレーシア・インド・ペルー・ベトナム・ドイツ・東ティモール・チュニジア・タイ・ミャンマー・フィリピン・ポーランド・中国・台湾・バングラデシュ・マレーシア・イラン・ウクライナ・ポルトガル・アメリカ・エジプト・マラウイ・オーストラリア
12	6	吹田市	藤白台小学校	4	ロシア・インドネシア・中国・ブルガリア
12	9	能勢町	能勢中学校②	17	イエメン・ネパール・スーダン・ベトナム・ロシア・中国・イラン・グアテマラ・ドミニカ共和国・ブルガリア・ギニア・スロベニア・エジプト・インドネシア・スロバキア
12	20	寝屋川市	寝屋川第五中学校	12	ブルガリア・ロシア・インドネシア・ベトナム・ヨルダン・中国・イエメン・東ティモール・台湾・香港
1	13	大阪府	豊中高等学校	46	ブルガリア・ロシア・インドネシア・中国・ポルトガル・香港・韓国・メキシコ・スロバキア・ベトナム・ウガンダ・ドイツ・イエメン・台湾・オーストラリア・ウズベキスタン・アメリカ・マレーシア・ミャンマー・ベラルーシ・東ティモール・フィリピン・エジプト・バングラデシュ・イラン・ギニア・ポーランド・インド・マラウイ
1	20	豊中市	豊中第十四中学校	5	ロシア・中国・ベトナム・インドネシア・オーストラリア
1	27	吹田市	西山田中学校	5	ロシア・ブルガリア・香港・ベトナム・バングラデシュ
1	23	大阪市	堀江小学校	10	エジプト・中国／香港・インドネシア・エルサルバドル・メキシコ・タイ・ベトナム
1	24	大阪市	堀江小学校	10	中国・ロシア・インドネシア・イラン・メキシコ・フランス・東ティモール・ベトナム
1	30	大阪市	堀江小学校	10	中国／香港・ロシア・インドネシア・エルサルバドル・台湾・ベトナム・タイ
1	31	豊中市	豊中第四中学校	5	ドイツ・東ティモール・ロシア・インドネシア・韓国
2	3	吹田市	吹田第一中学校	7	ポーランド・ロシア・中国・オーストラリア・ベトナム・台湾・インド
2	7	摂津市	摂津第三中学校	8	インド・ポーランド・中国・ロシア・フィンランド・フランス・メキシコ
2	9	能勢町	能勢中学校③	8	ブルガリア・インド・チュニジア・中国・オマーン・ポーランド・東ティモール
3	3-5	大阪府	大手前高等学校	12	インド・ブルガリア・韓国・ブラジル・ベルギー・ウガンダ・エルサルバドル・スウェーデン／チリ・フィンランド・ミャンマー・ウクライナ・ポーランド
延べ人数		296			
件数		28			

3. 留学生に対するキャリア支援

日本での就職を希望している外国人留学生を支援する目的で、平成 28 年度、国際教育交流センターでは、「留学生のための就職対策講座」を全 8 回開催した。また個々の相談に対応するため就職相談コーナーを開室した。

(1) 平成 28 年度の留学生のための就職対策講座

2016 年 10 月より 2017 年 1 月にかけて「留学生のための就職対策講座」を開催した。講座は外部講師、学内のキャリアカウンセラー、元留学生 OB・OG、内定者の留学生の協力のもと全 8 回のシリーズとして開催され、参加者数は述べ 185 名であった。(図 1 参照)。

Job Search Strategy Course for International Students 2016 平成28年度 留学生のための就職対策講座 CIEE		
月日 Date	場所 Place	講義項目 Subject
※ 10月6日(木) 【豊中】全学教育推進機構 大講義室 留学生のための就職活動セミナー(学生・キャリア支援課主催)		
1 Oct. 17 th (Mon)	【豊中】Seminar Room B, 2F Student Commons	Introduction to job search for international students (English)
2 10月28日(金)	【吹田】ICホール2F R5 & 6	情報収集及び企業・業界研究
3 11月10日(木)	【豊中】ステューデントcommons 2F セミナー室B	自己分析/キャリアデザイン
4 11月18日(金)	【吹田】ICホール2F R5 & 6	OB・OGによる体験談
5 11月24日(木)	【吹田】同上	内定者による体験談
6 12月7日(水)	【豊中】ステューデントcommons 2F セミナー室B	エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策
7 1月6日(金)	【吹田】ICホール2F R5 & 6	面接対策(1)(日本企業の面接ルール、説得力あるアピール方法)
8 1月18日(木)	【豊中】ステューデントcommons 2F セミナー室B	面接対策(2)(模擬面接)

時間帯/Time: 17:30-19:00 (10月6日のみ16:30-17:50) Language: English on Oct. 17th.
Other seminars are in Japanese.

申込み Registration career@ciece.osaka-u.ac.jp

1. 氏名 2. 学部 3. 学年 4. 国籍 を書いて申し込んでください。件名に「就職対策講座申し込み」と書いてください。
Email us with 1. your full name, 2. faculty, 3. year, and 4. nationality.
Put "Job search strategy course registration" in the subject line.

※全講座申し込みは10月16日まで。Registration for the full course until October 16th.
※単発申し込みは各セミナー開催日の前日まで。Registration for a single seminar until one day before the date.

主催 大阪大学国際教育交流センター 共催 教育・学生支援部 学生・キャリア支援課 協力 工学研究科国際交流推進センター

図 1 就職対策講座ポスター

(i) アンケート調査結果

就職対策講座では毎回アンケートを実施した。各回の参加者数は図 2 に示されている通りである。全 8 回のうち、第 1 回「就活入門セミナー」の参加者が最も多く 44 名、次に第 3 回「自己分析／キャリアセミナー」の 24 名が続いた。参加者の出身国では中国が最も多く 85 名で、全体の 46% を占めた (cf. 表 8)。所属別では経済系が最も多く 45 名であった (cf. 図 3)。学年別では博士課程前期 1 年次が最も多く 97 名で全体の 52% を占めた (cf. 図 4)。また今年度より、セミナーの様子をビデオ撮影を計 4 回行い、学内の学習管理システム CLE にアップロードした。

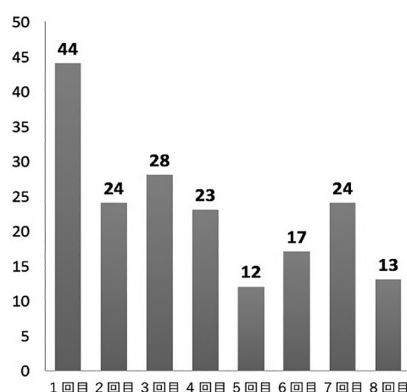


図 2 各回の参加人数

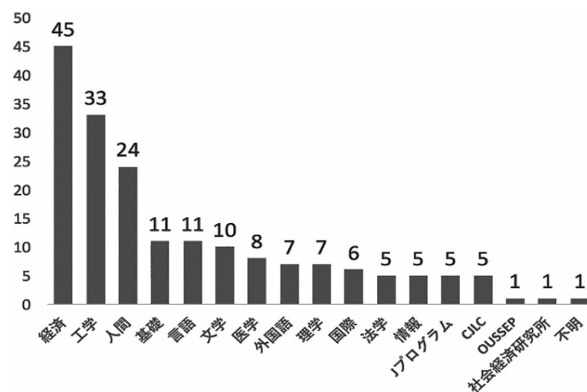


図 3 参加者の所属

表 8 参加者の出身国

出身国	人数	出身国	人数
中国	85	ミャンマー	2
ベトナム	16	日本	2
韓国	8	イラン	1
インドネシア	6	インド	1
ボスニア・ヘルツェゴビナ	5	オーストラリア	1
フィリピン	4	ギニア	1
マレーシア	4	シンガポール	1
ロシア	4	スウェーデン	1
台湾	4	スーダン	1
アルゼンチン	3	スペイン	1
カナダ	3	チュニジア	1
タイ	3	トルコ	1
香港	3	ハンガリー	1
エジプト	2	ブルガリア	1
ブラジル	2	ポーランド	1
ボツワナ	2	不明	1

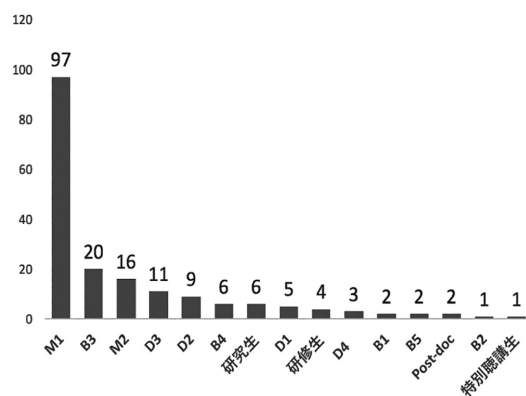


図 4 参加者の学年



i) 第 2 回 情報収集および企業・業界研究



ii) 第 3 回 自己分析／キャリアデザイン



iii) 第 4 回 OB・OGによる体験談



iv) 第 8 回 模擬面接

就職対策講座の様子

(2) 留学生のための就職相談コーナー

留学生の就職活動に対する「迷い」や「悩み」に対処するため、吹田および豊中キャンパスで各週1回の就職相談コーナーを原則予約制で行った(図7参照)。平成28年度利用者数は延べ33名、メールによる相談は延べ37件となっている(表9、10参照)。

大阪大学国際教育交流センター
CIEE

留学生のための就職相談コーナー
Consultation on Job Search for International Students

留学生の皆さん、日本での就職活動について相談してみませんか？
If you are interested in finding a job in Japan, why not come for consultation?

豊中 / Toyonaka

毎週火曜日(Tue.) 12:00 ~13:00
学生交流棟 2F 国際教育交流センター ミーティングルーム
CIEE Meeting Room, 2nd floor, Student and Service Union

吹田 / Suita

毎週木曜日(Thu.) 12:00 ~13:00
ICホール2F, 講義室4 Room 4, 2nd floor, IC Hall

申込み Appointment

career@ciee.osaka-u.ac.jp

1. 希望日時 2. 氏名 3. 学部 4. 学年 5. 国籍 を書いて申し込んでください。件名に「相談コーナー 申し込み」と書いてください。
Email us with 1. your preferred date, 2. your full name, 3. faculty, 4. year, and 5. nationality.
Put "career consultation" in the subject line.

※ メール予約優先。Priority given to those who have an appointment via email
※ 春季・夏季・冬季休業期間中はメール予約必須。
Appointment necessary during spring, summer and winter vacations

主催 大阪大学国際教育交流センター
Center for International Education and Exchange

協力 教育推進部 学生・キャリア支援課
Campus Life and Career Support Division

コーディネーター 魚崎典子特任准教授
Noriko UOSAKI, specially appointed associate professor



図5 就職相談コーナーポスター

主な相談内容は以下の通りである。

- 在留カードの手続きについて
- エントリーシートの日本語チェック (多数)
- 履歴書の日本語チェック (複数)
- 日本での就職活動がなかなかうまくいかなくて、相談したい。
- 会社をどう探したら良いか、および在留カードの手続き
- 外国人として、TOEFLとTOEICとIELTS、日本人と同様にTOEICを受けるべきですか？
- インターンの面接について相談
- 模擬面接 (練習)
- グループディスカッションの流れに学びたい。
- 水泳部に9ヶ月いたことはアピールできるか？
- ずっと働く気はないけど、それは言ってはダメですか？
- 内定を二つもらったら、断っても良いか？
- 日本の企業は上司が帰らないと自分も帰れないと聞きました。
- インターンがしたい。
- 服装自由と書いてあって自由服で行ったらみんなリクルートスーツだった。
- 学部のときに内定を断った会社に修士で再度受けてもよいか？

表9 相談コーナー利用状況（月別・出身国別）

	中 国	インド ネシア	アフガ ニスタン	ヨル ダン	イ ン ド	香 港	ロ シ ア	オース トラリア	ス ー ダン	シ リ ア	イエ メン	フィリ ピン	ビーモ ザンク	スウェー デン	ルー マニア	パキ スタン	ボス ニア	日本 (G30)	ドミ ニカ	ボツ ワナ	マレー シア	ス ペ イン	計
4月	2	1	1	1	1	1	1																8
5月	4							1													1		6
6月	2								1	1	1	1											6
7月																							0
8月	1																						1
9月																							0
10月	1	1											1										3
11月	1													1	1	1	1	1	1				7
12月																							1
1月																			1				1
2月	1																						0
3月																						1	0
	12	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	34

表10 メール相談件数（月別・出身国別）

	中 国	インドネシア	フィリピン	スウェーデン	ドミニカ	韓 国	スペイン	ベトナム	計
4月	1	6	1						8
5月	2								2
6月			1						1
7月									0
8月				1					1
9月									0
10月	1	5							6
11月		1		4	1				6
12月									0
1月									0
2月						1			1
3月	3						7	3	13
	7	12	2	5	1	1	7	3	38

VIII. 海外派遣留学支援

国際教育交流センターでは、本学の学生の海外派遣留学促進のために様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加に応え、短期語学研修プログラムの実施、海外留学オリエンテーションでの情報の提供、相談対応による疑問や不安の解消に努めている。

1. 海外研修・異文化体験プログラム

短期海外研修として、英国エセックス大学での夏季語学研修、オーストラリアモナシュ大学での春季語学研修を実施した。海外体験を希望する学生に機会を提供することに加え、これらのプログラムは、協定校への交換留学の準備段階としても位置付けられている。英語力の伸びを客観的に測るために研修前と、研修中あるいは研修後に、IELTS・TOEFLの受験を義務付けた。

また、事前研修として留学生との交流学习の場も設けた。エセックス現地研修出発前には、3度（6月25日、7月7日、8月10日）事前研修を行ったが、このうち1度目の事前研修では、箕面キャンパスにて、大阪大学で日本語を学ぶ留学生との協働活動（グループディスカッション、グループプレゼンテーション）を行った。モナシュ現地研修出発前には3度（1月13日、1月21日、2月15日）出発前の事前研修を行い、2度目の事前研修は本学で短期間日本語研修プログラムに参加している留学生との協働活動を行った。モナシュ研修では、現地プログラムの最終にお茶の水女子大学の学生と共同でのプログラムが行われた。

(1) 事前研修（留学生との協働活動）の様子



(2) エセックスプログラム現地研修日程（参加者 18 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2016 年 8 月 14 日（日）	AM 08:00	関西国際空港集合
	AM 10:00	出国：関西国際空港発 （キャセイパシフィック航空 CX503 便）
	PM 13:00	経由：香港国際空港着
	PM 14:35	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック航空 CX253 便）
	PM 20:30	入国：ヒースロー空港着
		大学のバスでエセックス大学へ移動
2016 年 8 月 15 日（月） 2016 年 9 月 16 日（金）		エセックス大学にて研修 Excursion（Oxford）：8 月 27 日（土） IELTS 受験：9 月 3 日（土）
2016 年 9 月 17 日（土）		大学のバスで空港へ移動
	PM 12:25	出国：ヒースロー空港発 （キャセイパシフィック航空 CX252 便）
2016 年 9 月 18 日（日）	AM 07:05	経由：香港国際空港着
	AM 08:00	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック航空 CX594 便）
	PM 12:50	入国：関西国際空港着

(3) モナシュプログラム現地研修日程（参加者 22 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2017 年 2 月 18 日（土）	AM 08:00	関西国際空港集合
	AM 10:00	出国：関西国際空港発 （キャセイパシフィック国際航空 CX503）
	PM 01:25	経由：香港国際空港着
	PM 07:10	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック国際航空 CX135 便 TG465）
2017 年 2 月 19 日（日）	AM 07:30	入国：メルボルン空港着
		大学のバスでモナシュ大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面
2017 年 2 月 20 日（月） 2017 年 3 月 23 日（木）		モナシュ大学にて研修
2017 年 3 月 24 日（金）		大学のバスで空港へ移動
	PM 03:25	出国：メルボルン空港発 （キャセイパシフィック国際航空 CX104 便）
	PM 09:45	経由：香港国際空港着
2017 年 3 月 25 日（土）	AM 01:50	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック国際航空 CX566 便）
	AM 06:15	入国：関西国際空港着

2. 海外留学オリエンテーション

(1) 海外留学オリエンテーション入門編

平成 28 年度 4 月に主に新入生を対象に入学当初の段階で海外への興味関心を喚起する目的で、全新生が共通教育を受ける豊中キャンパスにおいて、海外留学オリエンテーション入門編をそれぞれお昼休みと夕方に国際交流オフィス学生交流推進課の協力のもと開催した。(表 1 参照)。

オリエンテーションでは在学中の交換留学制度や夏や春休み中の短期の語学研修プログラムについての説明、実際のプログラム参加学生の体験談発表の後、質問を受け付けた。また交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語で行われる国際交流科目や、教員や留学経験学生による留学相談システムなどの情報を提供することで、計画的に交換留学へ向けた準備を始めるよう促した。終了後も多数の質問が寄せられ、新入生の海外に対する高い興味関心を確認することができた。

表 1 平成 28 年度 4 月海外留学オリエンテーション（入門編）参加者数

開催キャンパス	開催日時	参加者数
豊 中	4 月 13 日（18 時～19 時）	74
豊 中	4 月 15 日（昼休み）	138
計		212（前年比 + 19%）

(2) 海外留学オリエンテーション本編

平成 28 年度 5 - 6 月には、主に交換留学の制度と手続きを解説する海外留学オリエンテーション本編を、こちらも国際交流オフィス学生交流推進課の協力のもと開催した。例年通り豊中・吹田・箕面の 3 キャンパスで計 4 回開催した（表 2 参照）。

表 2 平成 28 年度 5・6 月海外留学オリエンテーション
各キャンパスの海外留学オリエンテーション参加者数

開催キャンパス	開催日時	参加者数
箕 面	6 月 7 日（昼休み）	141
吹 田	6 月 8 日（18 時～19 時）	13
豊 中	6 月 9 日（18 時～19 時）	62
豊 中	6 月 10 日（昼休み）	143
計		358（前年比 + 4%）



海外留学オリエンテーション（入門編）の様子



海外留学オリエンテーション（本編）の様子

3. 大学間交換留学者数

上記のように、総計 570 名の留学オリエンテーション参加者があり、また後述する留学相談件数の増加からも、多くの学生が海外留学に興味を示していることがうかがえる。それにともなって、大学間交換留学派遣者数も堅調に推移している。提携大学が受け入れに際し要求する語学能力水準などの条件をクリアし、書類選考を通過した学生に対し学内面接選考を実施した。これに合格して交換留学派遣の推薦を獲得した学生数は、平成 28 年度においては、大学間協定に限定しても 150 名に至っている（表 3 参照）。

表 3 交換留学派遣推薦者数（大学間協定）

地 域	国	大 学 名	人数
アジア	タイ王国	カセサート大学	3
		タマサート大学	2
		チェンマイ大学	2
		チュラロンコン大学	2
	フィリピン共和国	アテネオ・デ・マニラ大学	2
	モンゴル国	モンゴル国立大学	1
	台 湾	国立台湾大学	4
	大韓民国	ソウル大学校	5
		延世大学校	1
		釜山大学	3
		漢陽大学校	4
		中央大学校	4
	中華人民共和国	香港中文大学	1
		清華大学	1
		南京大学	1
		武漢大学	1
		北京師範大学	2
		北京大学	6
オセアニア	オーストラリア連邦	オーストラリア国立大学	2
		クイーンズランド大学	3
ヨーロッパ	オーストリア共和国	ウィーン大学	3
	オランダ王国	グローニンゲン大学	3
	スウェーデン王国	イエーテボリ大学	3
	デンマーク王国	コペンハーゲン大学	7
	ドイツ連邦共和国	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	2
		ゲッティンゲン大学	2
		ハイデルベルク大学	3
		ベルリン工科大学	1
		ミュンヘンルートウヴィヒ・マクシミリアン大学	1
		ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	2

ヨーロッパ	フィンランド共和国	オーボアカデミー大学	4
		ヘルシンキ大学	1
	フランス共和国	エックス・マルセイユ大学	1
		グルノーブル大学連合	2
		ストラスブール大学	5
	ベルギー王国	ルーヴェンカトリック大学	1
	ロシア連邦	サンクトペテルブルク大学	4
	英 国	シェフィールド大学	1
		リーズ大学	7
南 米	ブラジル連邦共和国	サンパウロ大学	3
	メキシコ合衆国	メキシコ国立自治大学	2
北 米	アメリカ合衆国	ウェズリアンカレッジ	2
		カリフォルニア大学	19
		ジョージア大学	4
		テキサスA&M大学	3
		ナザレスカレッジローチェスター校	1
		パデュー大学	2
		ワシントン大学	3
	カナダ	トロント大学	1
		ブリティッシュ・コロンビア大学	3
		マックマスター大学	4
総 計			150

4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

国際教育交流センターでは、国際交流オフィス学生交流推進課と協力して、海外で研修あるいは留学する予定の学生を対象に、試験が終了する時期に派遣前危機管理オリエンテーションを実施している。

平成 28 年度は、2016 年 8 月 10 日豊中キャンパス（参加者 169 名）/2016 年 2 月 15 日吹田キャンパス（参加者 144 名）の 2 度開催し、海外渡航中のテロ対策や健康や生活の面で注意すべきことなどについて周知徹底した。

【プログラム】

平成 28 年度留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日時：平成 28 年 8 月 10 日（水）14:00～16:45

場所：吹田キャンパス 銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール

司会：歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム〉

14:00～14:05 開会の挨拶

宮原 啓造（国際教育交流センター 准教授）

14:05～15:25 「海外渡航時の危機管理について」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15:25～15:35 休 憩

15:35～15:50 留学経験者による体験談

太田 遥香（経済学部 4 年 フィリピン国立大学に大学間交換留学）

15:50～16:40 「海外渡航時の健康管理について」

馬場 幸子（医学系研究科 特任助教）

16:40～16:45 閉会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

平成 28 年度第 2 回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日時：平成 29 年 2 月 15 日（水）14：00～16：45

場所：医学部 A 講義室

司会：歳岡 冨香 特任助教（国際教育交流センター）

〈プログラム〉

14：00～14：05 開会の挨拶

近藤 佐知彦 教授（国際教育交流センター）

14：05～14：15 「留学・海外研修に際しての諸手続きと留意事項」

赤坂 真弓 専門職員（国際部国際学生交流課）

14：15～15：45 「海外渡航中の危機管理について」

江見 裕明 部長（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部）

中野 翠 スーパーバイザー

（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部）

15：45～15：55 休 憩

15：55～16：40 「海外渡航中の健康管理について」

大橋 一友 教授（医学系研究科保健学専攻）

16：40～16：45 閉会の挨拶

近藤 佐知彦 教授（国際教育交流センター）



危機管理オリエンテーション・会場の様子

5. 留学報告会

8月10日の「派遣前危機管理オリエンテーション」の終了後、前年度と同様に「留学報告会」を開催した（参加者19名）。主な目的は、短期語学研修プログラム、大学間・部局間交換留学、研究留学、学位取得型留学（長期留学）を実際に経験し帰国した学生から、渡航前にしておくべき留学準備や、特定の国・大学の情報を聞き、これから留学を開始する学生が充実した留学生活を実現するための助けとするためである。報告会においては帰国学生の体験談発表後、帰国学生とこれから留学を開始する学生との間で活発な情報交換が行なわれた。またこの企画は、様々な国や地域に留学した経験者同士の人的ネットワークを構築することも趣旨の一つとしている。なお、2月15日開催の危機管理オリエンテーション後には、留学報告会に代わり、「交換留学交流会」として、吹田キャンパスICホール内で、交換留学を経験した帰国学生、交換留学に内定した学生、協定校からの留学生の交流の場が設けられた。

【プログラム】

平成28年度第1回留学報告会

日時：平成28年8月10日（水）17:00～19:00

場所：吹田キャンパス 银杏会館3階 C会議室

司会：歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム〉

第1部

◆開会の挨拶 歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

◆参加者の自己紹介及びプログラム紹介

・モナシュ大学（オーストラリア）春季語学研修プログラム参加

岸本 菜々萌（文学部人文学科 U2）

・グローニンゲン大学（オランダ）にて大学間交換留学

山下 汐莉（法学部国際公共政策学科 U4）

・サンクトペテルブルク大学（ロシア）にて大学間交換留学、実践活動

村上 愛瑠（外国語学部外国語学科ロシア語専攻 U4、トビタテ第3期生）

・カンピーナス州立大学（ブラジル）にて研究留学

阪本 亮太（工学研究科地球総合工学専攻 M2）

◆パネルトーク

— 休 憩 —

第2部

◆交流会

◆閉会の挨拶 歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）



留学報告会の様子

6. 海外留学相談とアドバイス

留学を希望する学生のサポートのために、学期期間中を中心として教員による留学相談を実施した。2016年9月6日と2017年1月10日には、学生交流推進課と共同でトビタテ！留学 JAPAN 留学計画相談会を開催した。

(1) 教員による留学相談

国際教育交流センター豊中分室と箕面分室では、学期期間中、毎週一度昼休みに、吹田キャンパスでは要望に応じ、留学経験のある教員により、対面での留学相談を実施した。今年度より、留学ポートフォリオを使用して留学相談予約を受け付けた。相談者数は119名であった。ポートフォリオのアンケート機能で集計した、相談利用者の内訳に関する情報は以下の通りである（回答者数94名）。

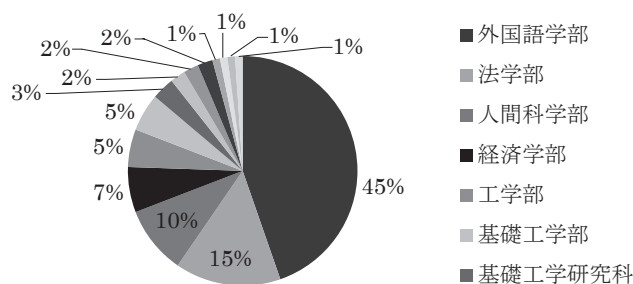


図1 所属学部・研究科

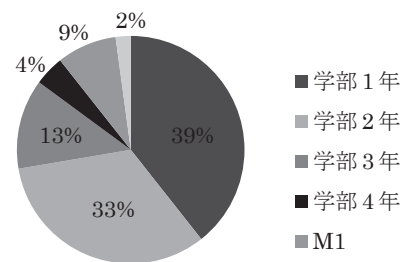


図2 学年

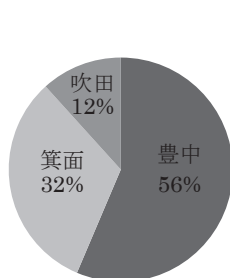


図3 相談利用キャンパス

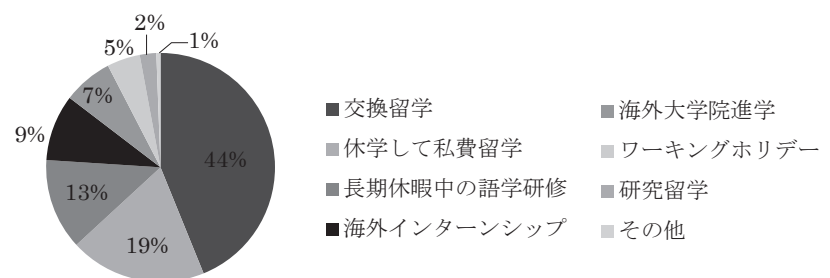


図4 予定（希望）留学形態

(2) 留学経験学生による留学相談

交換留学から帰国した学生担当者2名により、定期的な留学相談会を開催した。

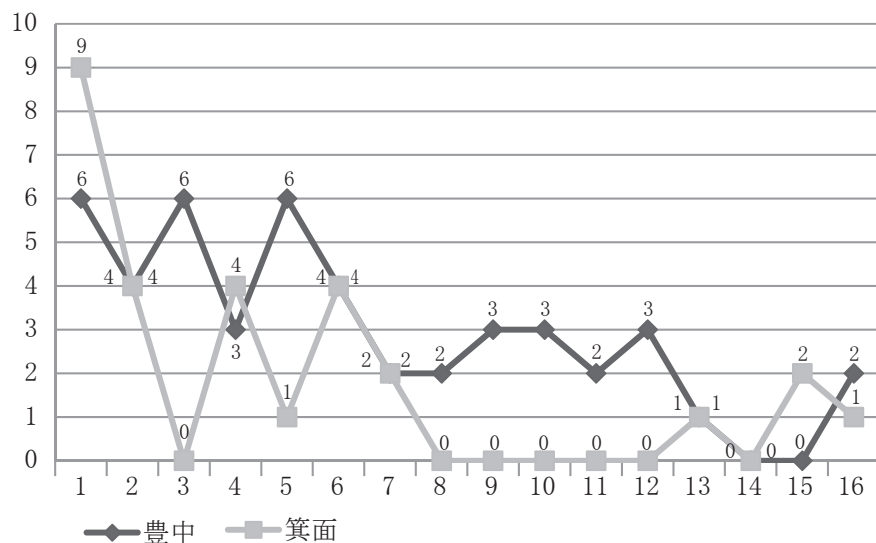


図5 交換留学経験学生による留学相談会参加人数（合計75名）

（豊中・箕面キャンパスで学期期間中（4月～7月、10月～1月）各月2回の計16回・昼休みに開催）

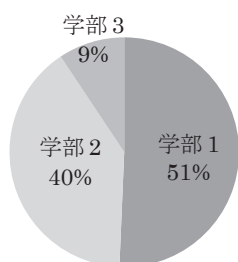


図6 相談会参加者学年

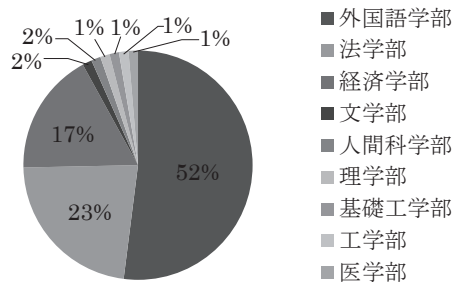


図7 相談会参加者所属学部・研究科

IX. サポートオフィスの活動

2007年10月に国際部学生交流推進課内に設置されたサポートオフィスは、大阪大学が文部科学省から国際化拠点整備事業（Global 30）に採択されたことに伴い、2009年10月、国際教育交流センター（旧留学生センター）内に新オフィスを設立し、事業を拡大・拡充した。

サポートオフィスでは、留学生・外国人研究者、およびその家族の方が必要とする、入国前から帰国時までの各種情報を提供している。このような活動をととして、世界

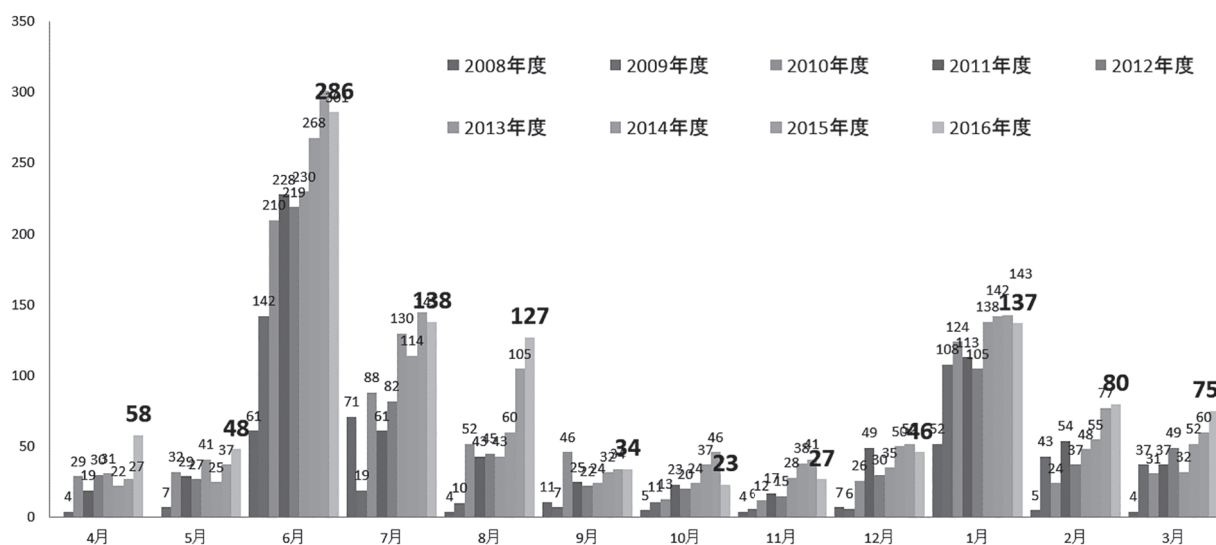
中から大阪大学に来る留学生・外国人研究者と大阪大学のスタッフ全員の絆を大切に、留学生・外国人研究者が安心して日本で生活し、本来の目的である勉学・研究活動に集中できるように支援することを目指している。

2016年度のサポートオフィスの主な取り組みは次のとおりである。



1. 査証（ビザ）関連手続きの支援

2016年度の在留資格認定証明書（CESR）交付申請手続きの件数は1,079件であった（「留学」738件、「教授」188件、「文化活動」52件、「家族滞在」101件、その他0件）。CESR Web申請システムは、新システム（申請者画面の日英併記、管理者画面変更）に移行した。また、ビザ関連支援に関連するE-mailの送信件数は約5,621件、電話対応件数は約2,164件、窓口対応件数は約472件であった。グラフに2008年度からの月別のCESR Web申請件数を示す。



2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援

2010年4月にUR都市機構との留学生・外国人研究者に対する賃貸住宅貸与に関わる全学での包括協定が締結され、連帯保証人不要・敷金減免や研究者向けには家具家電付住宅とNPOによる生活サポートサービスが実現した。これに伴い、URとの契約件数（入居者人数）は、2009年度は1件（1名）だったが、サポートオフィスが業務を引き継いだ2010年は10件（14名）、2011年度は33件（42名）、2012年度は48件（62名）、2013年度19件（26名）、2014年度43件（51名）、2015年度47件（60名）、2016年度77名と確実に支援実績を伸ばしている。2017年3月末日現在、約55名がキャンパス周辺のUR賃貸住宅に居住している。

ハウジングリクエスト機能を用いたリクエスト件数は100件であり、それに対する不動産会社からの返信件数は477件であった。宿舍支援に関するE-mailの送信件数は3,135件、電話対応件数は961件、窓口対応件数は283件であった。

3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催

サポートオフィスとIRISが主催となり、サイバーメディアセンターの協力のもと、新規来日者向けに、吹田・豊中キャンパスにて年2回オリエンテーションを開催した。2016年度の参加者の合計は274名であった。主な内容は以下のとおりであった。

- ① サポートオフィスの紹介
- ② 在留資格に関する案内
- ③ 市役所等での手続きの案内
- ④ 宿舍についての案内
- ⑤ 学内外のコミュニティとネットワークの紹介
- ⑥ 学内の情報ネットワークの説明
- ⑦ 異文化での生活についてのアドバイス
- ⑧ 日本語履修についての説明（留学生対象）

2016年度 春期
新規来日留学生・外国人研究者向けオリエンテーション
主催: サポートオフィス&IRIS (国際教育交流センター) 協力: サイバーメディアセンター

◆ **開催日時・場所**

2016年4月5日(火) 13時00分～(1時間程度) 英語
14時45分～(1時間程度) 日本語
豊中キャンパス 全学教育推進機構 講義B棟 2階 207講義室

2016年4月8日(金) 9時00分～(1時間程度) 英語
10時45分～(1時間程度) 日本語
吹田キャンパス コンベンションセンター 2階 会議室2

◆ **実施内容**

サポートオフィス概要
IRISとその他の学内外コミュニティについて
在留資格及びその他来日直後に必要な手続きについて
宿舍について
大阪大学で新しい生活を始めるにあたってのアドバイス
大阪大学のインターネットサービスについて
日本語履修についての説明(留学生対象)
個別相談(自由参加)

サポートオフィス
TEL: 06-6879-4750
E-mail: supportoffice@office.osaka-u.ac.jp

<お問い合わせ>
留学生交流情報室(IRIS)
TEL: 06-6879-7076
E-mail: iris@ciee.osaka-u.ac.jp

4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催

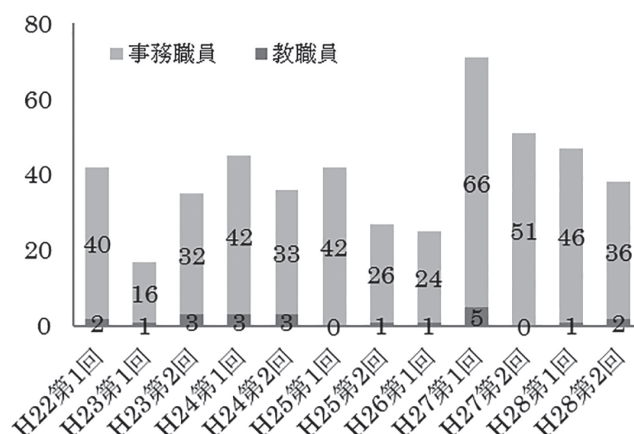
2016 年秋および 2017 年春の留学生・外国人研究者の受入に関わる体制支援の強化を目指して、留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者を対象に、受入に伴う在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きや宿舍支援（情報提供）に関する研修会を以下の日程で開催した。グラフは研修会への参加者数の推移を示す。

【2016（H28）年度第 1 回研修会】

参加者 47 名（教員 1 名、事務職員 46 名）
 2016 年 6 月 6 日（月）09：00-11：30（豊中）
 2016 年 6 月 8 日（水）09：00-11：30（吹田）

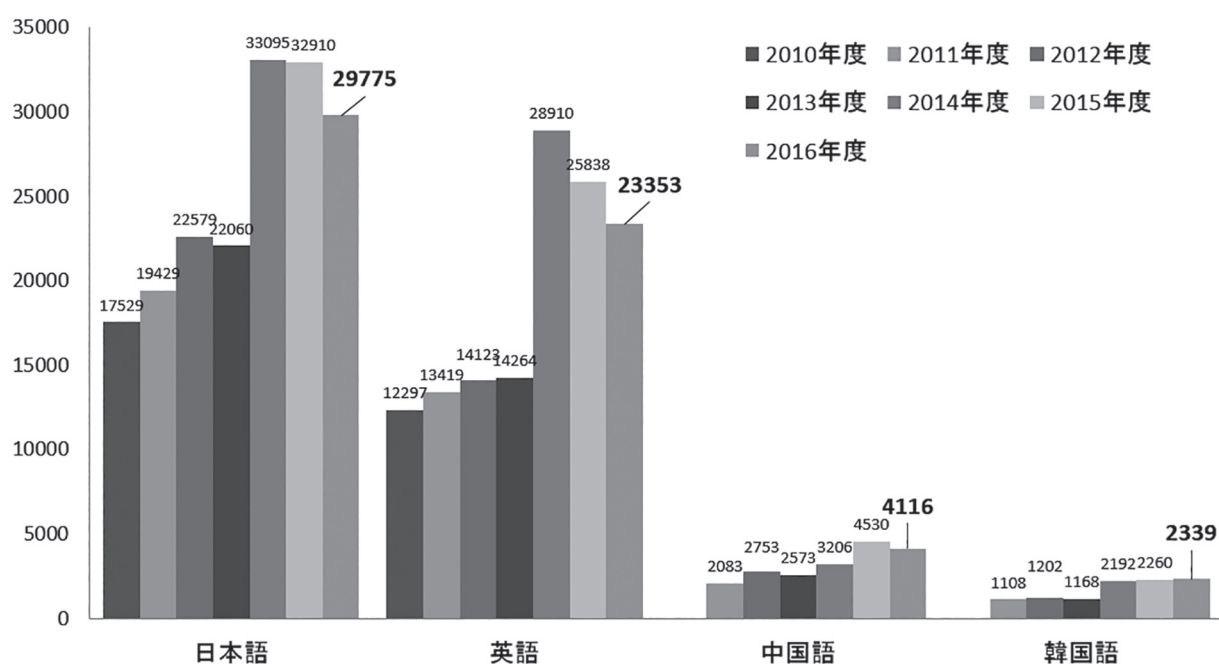
【2016（H28）年度第 2 回研修会】

参加者 38 名（教員 2 名、事務職員 36 名）
 2016 年 11 月 28 日（月）13：00-15：40（豊中）
 2016 年 12 月 6 日（火）13：00-15：40（吹田）



5. ホームページの管理運営

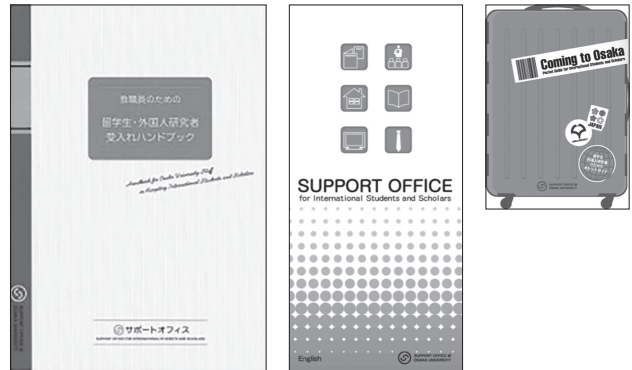
サポートオフィスの業務や留学生・外国人研究者が必要な情報を集約したホームページを 4 ヶ国語で公開している（日・英サイトは 2010 年 4 月より、中・韓サイトは 2011 年 4 月より公開）。2016 年度のサイトの閲覧件数は、日本語サイトが約 29,775 件、英語サイトが約 23,353 件、中国語サイトが約 4,116 件、韓国語サイトが約 2,339 件であった。グラフは各言語の閲覧件数を示す。



6. 各種印刷物の改訂版作成・配布

『教職員のための留学生・外国人研究者受入ハンドブック』は、研修会を中心に配布した（114部）。『Coming to Osaka』は、主にCESR送付時に同封し（805部送付・配布）、『Living in Osaka』は新規来日者向けオリエンテーションで主に配布した（977部）。『Living in Osaka』の別冊として子育てに関する情報を集約した「妊娠・出産・子育て編」、および宿舎情報やそれに関連する契約・引越し等に関する情報を集約した「住まい編」も必要対象者に配布した（妊娠・出産・子育て編：61部送付・配布、住まい編：139部送付・配布）。また、6ヶ国語で作成されているサポートオフィスの紹介パンフレットは、来訪者や留学フェア等で配布された（英：636部）。

*（ ）内の数値は2016年度の配布数。



X. 大学院・学部教育

国際教育交流センター教員はそれぞれの専門分野に応じて、兼任教員として大学院・学部教育を担当している。以下、1. 授業担当、2. 研究指導、3. 研究指導学生学位論文の順で、教学活動を記述する。

1. 授業担当

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程

【科目名】応用言語学研究A

【講義題目】第二言語教育学のための言語心理学（西口 光一）

【講義概要】現代の外国語教育学は、現代の言語研究が拠り所としているのと同じ言語観や言語コミュニケーション観に、基づいて成立している。その一方で、人文科学の分野においては、記号論の観点から言語や思考や意識などを基礎づけなおす作業がすすんでいる。本講義では、そうした動きの中心に位置するバフチンの言語哲学・記号論を、外国語教育学の興味・関心に引きつけて読み解いた。授業は、『対話原理と第二言語の習得と教育』（西口光一著、くろしお出版）の各章を輪読する形で進めた。また、バフチンの言語観に基づいて開発された基礎日本語教科書『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese — テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）に関して、バフチン言語論との関連や教育内容と教育方法等について解説した。

【科目名】応用言語学研究B

【講義題目】ダイアロジズムと第二言語教育学（西口 光一）

【講義概要】バフチンの言語哲学・文化記号論をさらに深く理解し、外国語教育学への応用を検討することを目的として、“Methods for teaching foreign languages”（Hall, 2002）などを輪読の形式で講じた。随時に、自己表現活動中心の基礎日本語教育の方法についても言及した。

【科目名】言語技術研究A

【講義題目】日本語による書記言語によるコミュニケーション（村岡 貴子）

【講義概要】本授業の目的は、日本語による書記言語の特徴と関連の概念について理解し、それをもとに、種々のメディアを通じたコミュニケーション、および言語教育の実践上の問題について考察することである。考察に際しては、ジャンル分析の手法を援用しつつ、各種文書の具体的な言語資料を材料として表現やテキスト構造の分析を行った。また、関連の学術論文等の文献を読むことにより、書記言語でのコミュニケーションにおいて生じる誤解や、正確な伝達の不成功に関する課題についても認識を促した。

本授業では、基本的に演習形式により、発表やディスカッションを積極的に取り入れた。受講者には、上記テーマにかかわる問題意識をもって事前に文献等の講読を行い、授業中に積極的かつ簡潔に発言することを課した。

【科目名】言語技術研究B

【講義題目】アカデミック・ライティングの実践と研究（村岡 貴子）

【講義概要】本授業の目的は、関連の学術論文等の文献を読みつつ、書記言語コミュニケーションとしてのアカデミック・ライティング（以下、ライティング）について理解を深めた上で、複数回の演習を通してライティングの運用能力の向上を図ることである。特に、大学院生として研究活動を行う上で必要となるライティングに関して、ディスコース・コミュニティの概念から、受講者各自の専門分野における事情や方法論を客観的に把握できることを目指した。原著論文をはじめ、レポートやレジュメ、要旨の作成といった、アカデミックな場面でのライティング活動の特徴、および多様な背景を有する読み手への配慮について、具体例に基づき、十分な意見交換を行った。

本授業では、基本的に演習形式により、発表やディスカッションを積極的に取り入れた。受講者には、上記テーマにかかわる問題意識をもって事前に文献等の講読を行い、授業中に積極的かつ簡潔に発言することを課した。

【科目名】言語コミュニケーション論A

【講義題目】言語教育と質的研究（義永美央子）

【講義概要】本講義では、言語の教育・学習に関する質的研究・定性的研究の基本的姿勢や分析方法について概説した後、質的研究の手法を用いた言語教育・学習に関する論文を読み、フィールドワークやインタビュー等によって得られたデータの「分厚い記述」がどのようにして可能になるのかを考察した。授業では発表やディスカッションを中心とし、受講生の主体的かつ積極的な参加を促した。

【科目名】言語コミュニケーション論B

【講義題目】言語学習における自律学習とその支援（義永美央子）

【講義概要】近年、言語学習において、学習者の自律（オートノミー）、すなわち自分自身の学習を管理する能力に注目が集まっている。ICTを始めとする学習リソースが豊富にある現代社会において、言語学習者は「何をどのように学ぶか」をどのように決定しているのだろうか。また、そうした主体的な学習を教師はどのように支援できるのだろうか。本講義では、まず自律学習に関する基本概念を検討した後、自律学習・学習者オートノミーやその支援に関する論文を読み、自律学習がどのように生起するのか、また自律学習をどのように支援できるのかを考察した。授業では発表やディスカッションを中心とし、受講生の主体的かつ積極的な参加を促した。

【科目名】言語文化教育論A

【講義題目】言語文化教育論入門（大谷 晋也）

【講義概要】まず、言語とは、文化とは、言語文化とは、そして言語文化教育とは何かということを、それらを取り巻く周辺領域を視野に入れながら再考した。世界の多言語・多文化状況を確認した後、フランスや日本などを例にとりながら、言語文化教育が担い、担わされてきた負の歴史について振り返るとともに、それを正へと転換する方策について検討した。その後、少数民族に対する中国の言語政策とアラビア語圏各国の諸相について、院生の発表を元に考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】言語文化教育論B

【講義題目】言語文化教育の現状と課題（大谷 晋也）

【講義概要】ヨーロッパや東南アジア、オセアニア、中米のいくつかの国や地域に焦点を当て、現在行われている言語文化教育を知るとともに、よりよい教育の可能性について、院生の発表を元に考察した。

特に、異言語教育や少数言語に関する各国の言語（教育）政策を取り上げ、その目的と効果、理想と現実について知り、より平等で開かれた社会を目指した言語文化教育がどのようなものであるべきなのかを検討した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】応用マルチメディア論A

【講義題目】ITによる言語教育の拡張（難波 康治）

【講義概要】 e-Learningということばが使われるようになって、すでに久しい。また、ICT技術は携帯電話やゲーム機などのようにユーザに「コンピュータ」を意識させないまま、コミュニケーションの形態を急速に変化させ続けている。このような状況の中、第二言語教育あるいは外国語教育にとって、IT技術の活用がどのような意味を持つかについて検討した。実際のウェブ教材およびITデバイスを通して、その有用性を相互に報告する形で、評価を行い、その成果をwebサイトにおいて公開した。

【科 目 名】応用マルチメディア論B

【講義題目】外国語教育におけるインターフェイスの変革（難波 康治）

【講義概要】後期は、昨今テスト理論として注目を集めている項目応答理論（IRT）を応用してWeb上にアダプティブテストを作成することを目的に、演習形式にて各種テスト理論を基礎から学んだ。

【科 目 名】言語文化政策論A

【講義題目】多文化主義の構想（西村 謙一）

【講義概要】かつて、近代国家は単一の「国民」で形成されているとの擬制のもとにあったが、その擬制は必ずしも成り立たないと指摘されるようになってすでに久しい。国家が複数のエスニック・グループを内包しており、それが「国民」としての一体性を持ちえないケースもあるということは、国家のあり方を議論する際の前提として広く受け入れられるようになっている。この授業では、国家とエスニック・グループの複数性との関係をめぐる思想としての「多文化主義」に関する議論を検討した。

【科 目 名】言語文化政策論B

【講義題目】多文化状況の中の市民社会（西村 謙一）

【講義概要】前期に引き続いて、「多文化主義」に関する議論を検討するとともに、受講生の研究報告を通じて、「多文化主義」の思想の実践的側面に関する議論を行った。

② 博士後期課程

【科目名】応用言語学特別研究A（西口 光一）

【科目名】応用言語学特別研究B（西口 光一）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（村岡 貴子）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（村岡 貴子）

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程 及び ② 博士後期課程

【科目名】生涯教育学特定演習Ⅰ（木村 涼子、有川 友子）及び生涯教育学特定演習Ⅱ（木村 涼子、有川 友子）

【講義題目】文化と教育に関する研究Ⅰ及びⅡ（有川 友子 担当分）

【講義概要】授業は2名の教員で分担したが、有川は文化と教育にかかわる多様な研究を参考にしながら、その理論的枠組みや研究方法、また社会に生起する具体的な諸課題への示唆について考えた。

(3) 工学研究科

① 博士前期課程

【科目名】プロダクトデザイン Product Design（宮原 啓造）

【講義概要】機械や装置などのプロダクトを設計し開発していくための方法論を実践的な課題学習を通じて修得する。具体的には「プロダクトデザイン方法論」で講述される設計・開発のための方法論に基づきつつ、数名の学生からなるチームに産業界から提供される具体的な開発設計のための模擬課題をプロジェクトとして与え、各課題の分析・設計・試作などを通じて、一連の方法論の内容、それらを総合的に運用するためのプロセスについての考え方、創造的なデザインに求められる基本的な能力などを養う。

(4) 大学院高度副プログラム

【プログラム名】インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践

【プログラム実施部局／連携部局】国際教育交流センター／言語文化研究科

【履修対象者】大学院博士前期（修士）課程学生および博士後期課程学生

【修了要件】8単位以上を修得すること（原則として1年で修得すること）

【プログラムの趣旨・概要】グローバル化、ボーダレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっている。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もある。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものである。本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考える。

【到達目標】本プログラムでの学習を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を涵養すること。また、各授業での協働的な学習活動を通じて、背景の異なる他者とのコミュニケー

ションの際に、他者の話を傾聴し、かつ、他者への配慮ある発信方法を獲得すること。

【カリキュラムの構成】

言語コミュニケーション論A・B（義永未央子）、言語技術研究A・B（村岡 貴子）、言語文化教育論A・B（大谷 晋也）、言語文化政策論A・B（西村 謙一）から8単位を修得する。

(5) インターナショナル・カレッジ

【春 学 期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
オンライン・リソースを活用したL2学習	Second Language Learning with Online Resources	魚崎 典子
数学とその工学応用（I）	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)	宮原 啓造
日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	近藤佐知彦
言語と翻訳	Language and Translation	歳岡 冴香
社会保障とサービスデザイン	Social Security and Service Design	伊藤ゆかり

日本語 300 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
日本語 301	Japanese Language 301	畑中 香乃
日本語 302	Japanese Language 302	西口 光一
日本語 401	Japanese Language 401	勝田 順子
日本語 402	Japanese Language 402	新庄あいみ
日本語 502	Japanese Language 502	藤澤 好恵
日本語 601	Japanese Language 601	大谷 晋也
日本語 602	Japanese Language 602	岡崎 洋三
国際コミュニケーションセミナー日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	勝田 順子
国際コミュニケーションセミナー日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

日本語 700 レベル（共通教育科目）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	大谷 晋也
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	勝田 順子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	宮原 啓造
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	有川 友子

【秋 学 期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	有川 友子
日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	近藤佐知彦
コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	魚崎 典子
数学とその工学応用（II）	Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)	宮原 啓造
翻訳と翻訳者たち	Translation and Translators	歳岡 冨香
言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese Language Acquisition	西口 光一

日本語 200 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
日本語 201	Japanese Language 201	義永美央子
日本語 202	Japanese Language 202	上仲 淳
日本語 301	Japanese Language 301	畑中 香乃
日本語 302	Japanese Language 302	西口 光一
日本語 601	Japanese Language 601	大谷 晋也
日本語 602	Japanese Language 602	岡崎 洋三
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	勝田 順子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

共通教育科目（700 レベル）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	勝田 順子
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	勝田 順子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	大谷 晋也
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	伊藤ゆかり
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	勝田 順子

2. 研究指導

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
M2	訂正フィードバックと「傍観者」の認知的反応 — 学習者は他者へのフィードバックから何を学ぶのか —	西口 光一 (瀧田 恵巳)
M2	来日初期中国人留学生の対人関係の変容 — 日本人チューターとの談話の分析から —	村岡 貴子 (中村 綾乃)
M2	日本語ライティング指導における学習者同士の「気づき」の実態 — ピア・レスポンスのインターアクションを通して —	村岡 貴子 (佐藤 彰)
M2	日本語が堪能でない非漢字圏留学生のために日本語をどう調整するか — 「やさしい日本語」への書き換えを例に —	(中 直一) 義永美央子
M2	中国人日本語学習者と日本語母語話者の間に起こるチャットにおける実態調査	(郡 史郎) 難波 康治
M2	中国におけるゲーミフィケーションを活用した日本語教育の困難と克服 — 大学専攻日本語教育を例に —	(岩根 久) 大谷 晋也
M2	中国SNSの発達とその政治参加への影響	西村 謙一 (A. ディボフスキー)
M1	日本語母語話者と中国人上級日本語学習者の「ほめ返答」モデルについて — 「ほめ対象」のフェイス侵害度からの考察を中心として —	西口 光一 (秦 かおり)
M1	中国語母語話者のEメールに対する意識が文章に及ぼす影響 — 文系大学院生・研究生の作成したEメール文の分析 —	村岡 貴子 (植田 晃次)
M1	パラフレーズを用いたピア・リーディングの可能性	義永美央子 (力武 京子)
M1	中国人日本語学習者を対象とした「やさしい日本語」の研究	(山下 仁) 難波 康治
M1	日本語学習者・教師の満足度が高い授業に見られる協働の過程に関する一考察	(岩居 弘樹) 大谷 晋也
M1	「女性活躍加速のための重点方針 2016」の批判的談話分析	(山下 仁) 西村 謙一

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

② 博士後期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
D3	中国における日本語専攻課程のカリキュラムについて — 新日本語専攻教学大綱の新時代のカリキュラムを考える —	西口 光一 (山本 佳樹)
D3	自律的な外国語学習を促す方略 — 韓国語学習者の自己調整学習過程から —	西口 光一 (植田 晃次)
D3	外国語習得の負担を軽減する教材開発と実践研究のプロセス — 台湾における成人日本語習者の日本語習得を事例として —	西口 光一 (小門 典夫)
D3	初級段階からの専門日本語教育の重要その実践への提言 — 研究留学生による専門紹介プレゼンテーション資料作成過程から —	村岡 貴子 (岩根 久)
D3	EPA 看護師候補者のための漢字・語彙指導 — 看護師国家試験の出題漢字・語彙のデータベースに基づくオンライン教材開発 —	村岡 貴子 (大谷 晋也)
D3	会話における応答詞の対人的交渉方略の様相	(郡 史郎) 義永美央子
D3	オーストラリア在住日英バイリンガル話者のコードスイッチング	(ジェリー・ヨコタ) 義永美央子
D3	公立小学校で低学年にJSI児童に日本語を教える日本語指導協力者たちの ライフヒストリーからみる日本語指導協力者の意味世界	(山下 仁) 難波 康治
D3	台湾における郷土言語の習得と使用から見る台湾人の帰属意識	(伊勢 芳夫) 西村 謙一
D2	観光ガイドのための自律的な日本語学習環境の構築を目指す教育と学習支援 — 中国の大学における観光日本語教育の改善に向けて —	村岡 貴子 (力武 京子)
D2	親しい対話者との自己開示における特徴の日韓比較 — 相互行為の観点から —	義永美央子 (秦 かおり)
D1	物語り行為としての言語教育	西口 光一 (力武 京子)
D1	日本語の複合語のアクセントに関する総合的研究	(郡 史郎) 大谷 晋也

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

③ 研究生

研 究 題 目	指 導 教 員
エジプト人中級日本語学習者の読解の現状とストラテジー考察	西口 光一
オンラインゲームを通じた日本語学習者の会話能力の向上	義永美央子
日本語母語話者のコミュニケーション意識の変化 — 過剰依頼表現の「テイタダク」を通して	義永美央子
中国におけるメディアの在り方の新たな可能性 — 表現の自由とナショナリズムをめぐって —	西村 謙一

3. 研究指導学生学位論文

(1) 言語文化研究科

① 修士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
訂正フィードバックと「傍観者」の認知的反応 — 学習者は他者へのフィードバックから何を学ぶのか —	西口 光一 (瀧田 恵巳)
来日初期中国人留学生の対人関係の変容 — 日本人チューターとの談話の分析から —	村岡 貴子 (中村 綾乃)
日本語が堪能でない非漢字圏留学生のために日本語をどう調整するか — 「やさしい日本語」への書き換えを例に —	(中 直一) 義永美央子
SNS（微信）における会話の構造 — 中国語と日本語のコードスイッチングを中心に —	(郡 史郎) 難波 康治
中国におけるゲーミフィケーションを活用した日本語教育の困難と克服 — 大学専攻日本語教育を例に —	(岩根 久) 大谷 晋也
中国SNSの発達とその政治参加への影響	西村 謙一 (A. ディボフスキー)

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

② 博士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
中国語話者を対象とする日本漢字音教育のための基礎的研究 — 日本語能力試験2級漢語を中心として —	(坂内 千里) 西口 光一
ドイツにおける日本人交換留学生のネットワーク構築に関する研究	(我田 広之) 西口 光一
日系企業の中国人ビジネスパーソンにおける異文化間コンフリクトへの対応 — 中国の大学における日本語のビジネスコミュニケーション教育への応用に向けて —	村岡 貴子 (森 祐司)
タイ人ビジネスパーソンによる日本語の断りメールにおける言語行動様式とラポールマネジメント — 日本人ビジネスパーソンとの比較を通じて —	(春木 仁孝) 義永美央子

*印は博士論文資格審査後の研究指導教員。()内は言語文化研究科教員。

4. リサーチ・アシスタント (RA) の受入れ

研 究 プ ロ ジ ェ ク ト 名	採 用 時間数	担 当 教 員
離散値駆動型マニピュレータおよび自律分散型移動体システムの研究	80	宮原 啓造
教育機関・プログラムと連携した地域家庭への留学生受入れ； ホームステイの研究	110	近藤佐知彦
中上級学習者向けのビジネス日本語教育のためのコースウェアの開発と 評価に関する研究	116	金 孝卿

XI. その他の活動

1. 各種行事

○学内行事

- 2016年4月6日 平成28年度春季第45-1回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：吹田キャンパス ICホール2階講義室1～6、4階会議室、留学生交流情報室（IRIS） 組み合わせ数78組
- 2016年4月11日 留学生のための交通安全講習会
於：吹田キャンパス 銀杏会館3階、阪急電鉄・三和銀行ホール 参加者：61名
- 2016年4月13日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：74名
- 2016年4月15日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：138名
- 2016年4月16日 平成28年度春季第45-2回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、講義室1313 組み合わせ数21組
- 2016年4月20日 第15回大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室
学内参加者：4名、学外参加者：8名、合計：12名
- 2016年6月3日 第74回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：豊中キャンパス 大学会館セミナー室2 参加者12名
- 2016年6月7日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：箕面キャンパス A棟416講義室 参加者：141名
- 2016年6月8日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：吹田キャンパス ICホールRoom5・6 参加者：13名
- 2016年6月9日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：豊中キャンパス大阪大学会館 講堂 参加者：143名
- 2016年6月10日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂 参加者：116名
- 2016年6月27日 留学生のための防犯講習会
於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1階 会議室1 参加者：34名
- 2016年6月29日 留学生のための防犯講習会
於：豊中キャンパス 大阪大学会館1階、アセンブリーホール 参加者：28名
- 2016年7月22日 平成28年度国際教育交流関係者連絡・交換会
於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1階 会議室1 参加者：65名

- 2016年 8 月 1 日 トビタテ！留学JAPAN 第 6 期応募説明会
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ 2 階 セミナー室B 参加者：22 名
- 2016年 8 月 5 日 第 44 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階会議室 参加者：学内 5 名、学外 21 名、合計 26 名
- 2016年 8 月10日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
 於：吹田キャンパス 銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール 参加者：169 名
- 2016年 8 月10日 留学報告会
 於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 C 会議室 参加者：19 名
- 2016年 9 月 2 日 第 75 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階会議室 参加者 16 名
- 2016年 9 月 6 日 トビタテ留学JAPAN 留学計画相談会
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階会議室 参加者：27 名
- 2016年 9 月29日 平成 28 年度秋季第 46-1 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出合いの会」
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 1 ～ 6、4 階会議室、留学生交流情報室（IRIS） 組み合わせ数 52 組
- 2016年10月 5 日 平成 28 年度秋季第 46-2 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出合いの会」
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階講義室 5 ～ 6、留学生交流情報室（IRIS） 組み合わせ数 18 組
- 2016年10月 8 日 平成 28 年度秋季第 46-3 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出合いの会」
 於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、講義室 1301-1305、1311-1313 組み合わせ数 79 組
- 2016年10月17日 平成 28 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 1 回目「Introduction」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室B 参加者：44 名
- 2016年10月24日 留学生のための交通安全防犯集会
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター 3 階 MO ホール 参加者：24 名
- 2016年10月28日 平成 28 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 2 回目「情報収集及び企業・業界研究」
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6 参加者：24 名
- 2016年11月 6 日 平成 28 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 3 回目「自己分析 キャリアデザイン」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室B 参加者：28 名
- 2016年11月18日 平成 28 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 4 回目「OB・OG による体験談」
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6 参加者：23 名

- 2016年11月24日 平成 28 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 5 回目「内定者による体験談」
於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6 参加者：12 名
- 2016年12月12日 国際教育交流センタースピーチコンテスト
於：吹田キャンパス IC ホール 講義室 5・6 発表者：10 名
- 2016年12月13日 第 76 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：豊中キャンパス 待兼山会館 会議室 参加者 15 名
- 2016年12月15日 トビタテ！留学 JAPAN 第 7 期応募説明会
於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ 2 階 セミナー室 B 参加者：〇名
- 2016年12月18日 平成 28 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 6 回目「エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策」
於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室 B 参加者：17 名
- 2017年 1 月 6 日 平成 28 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 7 回目「面接対策 (1)」
於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6 参加者：24 名
- 2017年 1 月10日 トビタテ！留学 JAPA 留学計画相談会
於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 4 参加者：13 名
- 2017年 1 月18日 平成 28 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 8 回目「面接対策 (2)」
於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室 B 参加者：13 名
- 2017年 2 月 3 日 平成 28 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会
兼 第 46 回大阪大学留学生教育・支援協議会
於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール
学内参加者：13 名、学外参加者 58 名、合計：71 名
- 2017年 2 月 4 日 第 5 回留学生交流・指導研究会
於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 会議室
学内参加者：3 名、学外参加者：33 名、合計：36 名
- 2017年 2 月15日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
於：吹田キャンパス 医学部 A 講義室 参加者：144 名
- 2017年 2 月16日 第 25 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会
於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール
学内参加者：42 名、学外参加者 101 名、合計：143 名
- 2017年 2 月21日 第 10 回専門日本語教育研究協議会
於：吹田キャンパス IC ホール 講義室 5・6、参加者：60 名（学内 35 名・学外 25 名）
- 2017年 2 月28日 第 45 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
於：吹田キャンパス IC ホール 4 階会議室 参加者：学内 3 名、学外 22 名、合計 25 名
- 2017年 3 月 8 日 第 77 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室 参加者 14 名

2. 海外出張・海外研修

○海外出張

- 2016年5月28日－6月4日 有川友子教授 アメリカ合衆国コロラド州デンバーに出張
NAFSAにおける大学広報および情報収集のため
- 2016年5月30日－6月4日 近藤佐知彦教授 アメリカ合衆国コロラド州デンバーに出張
NAFSAにおける大学広報および情報収集のため
- 2016年6月3日－6月5日 難波康治准教授 台湾の台中市に出張
動画を利用したアクティブラーニングに関する共同研究実施のため
- 2016年6月3日－6月7日 西口光一教授 アメリカ合衆国のサンフランシスコに出張
9th International Conference on Practical Linguistics of Japanese（第9回日本語実用言語学国際会議）での基調講演とワークショップのため
- 2016年7月14日－7月18日 西口光一教授 イギリスのカーディフに出張
3rd Cardiff Symposium on Applied Linguistics and Japanese Language Pedagogy（第3回カーディフ応用言語学日本語教育学シンポジウム）での基調講演のため
- 2016年7月24日－7月30日 魚崎典子特任准教授 米国テキサス州のオースティンに出張
第16回IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies – ICALT2016でのポスター発表のため
- 2016年8月8日－8月9日 難波康治准教授 台湾の台中市に出張
動画を利用したアクティブラーニングに関する共同研究実施のため
- 2016年8月12日－8月23日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏およびカビテ州に出張
科研で調査を行うため
- 2016年8月14日－8月19日 伊藤ゆかり准教授 イギリスのロンドンに出張
6th World Nursing and Healthcare Conferenceへの参加のため
- 2016年8月25日－8月31日 西村謙一准教授 インドネシアのジャカルタおよび中部ジャワ州に出張
科研で調査を行うため
- 2016年8月31日－9月14日 難波康治准教授 台湾の台中市に出張
動画を利用したアクティブラーニングに関する共同研究実施のため
- 2016年9月8日－9月11日 義永美央子教授 インドネシアのバリに出張
日本語教育国際研究大会（Bali ICJLE 2016）参加のため
- 2016年9月12日－9月22日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏およびバターン州に出張
科研で調査を行うため
- 2016年10月9日－10月15日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏に出張
Eastern Regional Organization for Public Administrationの2016 Annual Conferenceで研究発表を行うため
- 2016年10月16日－10月21日 伊藤ゆかり准教授 イタリア共和国のローマに出張
15th Euro Nursing and Medicare Summitへの参加のため
- 2016年10月22日－10月27日 近藤佐知彦教授 アメリカのワシントンDCに出張
IIE主催Generation Study Abroad Summitの出席および発表のため
- 2016年10月25日－10月29日 西村謙一准教授 インドネシアのバンドン市に出張

International Conference on International Relationsで研究発表を行うため

- 2016年10月25日－10月27日 魚崎典子特任准教授 オーストラリアのシドニーに出張
第15回 World Conference on Mobile and Contextual Learning (mLearn2016)での口頭発表のため
- 2016年12月6日－12月11日 宮原啓造准教授 タイのバンコクに出張
工学教育国際学会 (IEEE-TALE2016)における研究発表および情報収集のため
- 2017年2月25日－3月10日 勝田順子特任准教授 マレーシアのクアラルンプールに出張
インタビュー調査のため
- 2017年2月26日－3月1日 魚崎典子特任准教授 米国オレゴン州のポートランドに出張
第20回 ACM Conference on Computer-Supported Cooperative Work and Social Computing CSCW 2017でのポスター発表のため
- 2017年3月12日－3月19日 魚崎典子特任准教授 カナダのバンクーバーに出張
第7回 International Conference on Learning Analytics & Knowledgeでの口頭発表のため
- 2017年3月13日－3月18日 勝田順子特任准教授、アメリカ合衆国のカリフォルニア州ロサンゼルスおよびサンタバーバラに出張
J-ShIP 関連の話し合いのため
- 2017年3月15日－3月19日 村岡貴子教授、タイのバンコク、ナコンパトムに出張
科研による情報収集・調査・打ち合わせのため
- 2017年3月20日－3月27日 西村謙一准教授、インドネシアの東ジャワ州に出張
科研による調査のため

3. 出版物・印刷物等

No.	出 版 物 の タ イ ト ル	発 行 年 月
1	大阪大学国際教育交流センター 2015 年度年報	2016 年 7 月
2	OUSSEP Calendar 2017-2018	2017 年 1 月
3	第 25 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会参加団体活動概要	2017 年 2 月
4	世界・未来をともに学ぶⅥ 阪大留学生をリソースとした「国際理解教育」事例	2017 年 2 月
5	第 10 回専門日本語教育研究協議会報告書 (web 版)	2017 年 3 月
6	大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会報告書	2017 年 3 月
7	大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第 21 号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No.21	2017 年 3 月
8	ライティング・スピーキングも怖くない IELTS 完全対策	2017 年 3 月
9	2017 年度留学生日本語プログラム履修ガイド Japanese Language Programs for International Students 2017	2017 年 3 月

4. 来訪者対応

年 月 日	来 訪 者	センターからの対応者
2016年 5 月17日	ヨーク大学 Karl Ward 氏 (Study Abroad Officer, Centre for Global Programmes, International Relations Department, Global Partnerships)	歳岡特任助教
2016年 5 月25日	UC 高橋香世氏 (東京スタディセンター オフィス・マネージャー)	近藤教授
2016年 5 月31日	モナシュ大学 櫻木真由美氏 (Business Development General Manager)	近藤教授、歳岡特任助教
2016年 6 月 9 日	Campus France Nasli Aouka 氏 (パリ本局・短期留学担当)、 他 1 名	歳岡特任助教
2016年 9 月 9 日	帝京マレーシア日本語学院 炭谷憲一氏 (IBT 主査)	近藤教授、宮原准教授
2016年10月18日	パリ・エスト・クレティユ大学 Laurent Thevenet 氏 (Associate Vice President for International Relations, Department of Chemistry), 他 7 名	近藤教授、歳岡特任助教
2016年10月19日	Ling Tung University (嶺東科技大学) Dr. Travis K. Huang (Department of Information Management, Department Chair)	魚崎特任准教授
2016年10月25日	マンチェスター大学 Charlie Pybus 氏 (International Officer)	近藤教授、歳岡特任助教
2016年12月 5 日	UC Fabio Rambelli 氏 (Professor, 東京スタディセンター Director)	近藤教授、宮原准教授
2017年 2 月13日	シンガポール国立大学 Roger Tan 氏 (Vice Dean, Education and Special Duties, Undergraduate Programs) 他 2 名	近藤教授、宮原准教授、 歳岡特任助教
2017年 2 月20日	マヒドン大学 Jackrit Suthakorn 氏 (Dean, Faculty of Engineering) 他 14 名	宮原准教授

5. 日本語テーブル

日本語テーブルは、国際教育交流センターとの連絡・調整・協力の下で、ボランティアグループが主催する自主的な活動である。日本語テーブルでは、参加者はボランティアとペアになって、ひらがなや漢字の学習をしたり、各自が選んだ教科書に沿ってボランティアといっしょに日本語の練習をしたり、自由に会話を楽しんだりしている。こうした活動に参加することで、参加者は自身の日本語学習の達成感を得てさらにモチベーションを高めることができ、いっそう日本語力を伸ばすことができる。また、日本語テーブルでは、参加しているボランティアの方々から、日本での生活を快適に過ごすことができるさまざまな生活情報等も得ることができ、参加する外国人研究者や留学生及びその配偶者にとって、日本で快適に楽しく暮らす上でのたいへん貴重な場となっている。国際教育交流センターは、各部局の留学生相談室等への案内や、留学生会のメーリングリストでの案内など広報の面で日本語テーブルの活動を支援している。

○吹田地区での日本語テーブル活動

吹田地区ではボランティアグループ竹の子にほんご交流会が日本語テーブルを運営している。竹の子にほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成 18 年 4 月に発足した。会員数は、発足時が 41 名で、平成 28 年 5 月現在 31 名である。

吹田地区の日本語テーブルでは、通常の活動の他に、学習者による自分の国や専門等の話題での日本語による発表を随時行っている。また、七夕飾り、年賀状教室、お茶会、カルタ会などの日本の習慣や文化の紹介も行っている。このような種々の活動により、日本語テーブルは、外国人参加者の日本語学習・習得のための機会として、また外国人参加者と一般日本人市民との交流の機会として、さらには外国人参加者同士の交流・情報交換の機会として重要な機能を果たしている。また、平成27年9月には竹の子にほんご交流会のホームページが立ち上げられた。

他に、竹の子にほんご交流会のメンバーの有志が、日本語テーブル終了後に日本語集中コースの初級クラスにビジターとして参加し、学生の会話パートナーをした。実績は、以下の通り。

春学期：2016年5月10日(火)－7月12日(火)の計10回 ビジター参加者16名

秋学期：2016年11月8日(火)－2017年1月24日(火)の計10回 ビジター参加者7名

□実施状況

- ・期 間：春季

参加登録—平成28年4月26日(火)

平成28年5月10日(火)－7月26日(火)

※7月26日(火)は交流会として、七夕飾りを実施した。

秋季

参加登録—平成28年10月25日(火)

平成28年11月1日(火)－平成29年2月7日(火)

※2月7日(火)は交流会として、茶話会を実施した。

- ・曜日と時間：上記期間中の毎週火曜日 13:00－14:30

春季は12回、秋季は13回

- ・場 所：国際教育交流センター 第5・6教室

- ・平均参加者数：春季

外国人参加者：10.7人、日本人参加者：19.3人

秋季

外国人参加者：20.4人、日本人参加者：20.7人

□交流映画会

- ・平成28年8月2日(火) 13:00－15:00

『おくりびと』（滝田洋二郎監督、2008年、松竹）

外国人参加者：5人、日本人参加者：17人

□竹の子にほんご交流会総会

- ・平成29年3月21日(火) 13:00－13:50

□研修会

- ・平成29年3月21日(火) 14:00－15:30

「竹の子にほんご交流会の趣旨を振り返る—10周年を迎えて」

西口光一（大阪大学国際教育交流センター教授）

○豊中地区での日本語テーブル活動

ホストファミリーなどの活動をしている市民ボランティアの方々から豊中地区での日本語テーブルの開催のご提案があり、国際教育交流センターとしてもそうした活動の意義を認識したところから、平成26年6月より、豊中地区においても、市民ボランティアグループの自主運営と国際教育交流センターがそれを支援する形で、日本語テーブルが開設されることとなった。豊中地区ではボランティアグループマチカネにほんご交流会が日本語テーブルを運営している。参加者は主として、実施場所である国際交流会館に居住する外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も参加している。

マチカネにほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成26年5月に発足した。会員数は、平成28年5月現在20名である。

□実施状況

- ・期 間：春季

参加登録—登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

平成28年4月20日(水)－7月27日(水)

秋季

参加登録—登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

平成28年10月5日(水)－平成29年1月25日(水)

- ・曜日と時間：上記期間中の毎週水曜日 10:30－12:00

春季は14回、秋季も14回

- ・場所：大阪大学国際交流会館 本館ロビー

- ・平均参加者数：春季

外国人参加者：14人、日本人参加者：16人

秋季

外国人参加者：22人、日本人参加者：16人

□マチカネにほんご交流会総会

- ・平成29年3月15日(水) 10:30－12:00

□研修会（竹の子にほんご交流会との合同による実施、前ページ参照）

XII. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 学際融合教育科目 (3) 大学院 (4) 留学生日本語プログラム (5) 国際交流科目 (6) インターナショナル・カレッジ (7) その他
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語研修生 (4) 短期留学特別プログラム (5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 (6) その他
4. 教育(学外) 5. 学内運営 6. 外部資金
7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演 11. 報道 12. その他

※以下の記載の7の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有 川 友 子

1. 専門分野

教育人類学、異文化間教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春学期

多文化コミュニケーションI/II-3

(3) 大学院

○春学期

生涯教育学特定演習I(共同)人間科学研究科

○秋学期

生涯教育学特定演習II(共同)人間科学研究科

(5) 国際交流科目

○秋学期

Approaches to Understanding Cultures

(6) インターナショナルカレッジ

○秋学期

Approaches to Understanding Cultures (上記国際交流科目を英語コース学生へのオープンとした)

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応

5. 学内運営（職指定を含む）

- 国際教育交流センター長
- 国際交流委員会委員
- キャンパスライフ支援センター運営委員会委員
- ハウジング委員会委員
- ハラスメント相談室専門アドバイザー
- 国際教育交流センター人権・セクシュアルハラスメント対策委員会委員
- 経営協議会委員
- グローバル連携室室員

7. 研究業績

(2) 著 書

- 2016、『日本留学のエスノグラフィー——インドネシア人留学生の20年——』、大阪：大阪大学出版会。

(3) 口頭発表

- 2016、「留学の長期的インパクト——インドネシア人元留学生の子どもへの期待を通して考える——」（単独ポスター）、異文化間教育学会第37回大会、平成28年6月4-5日（桜美林大学 町田キャンパス）

8. 学外運営

- 国立大学留学生指導研究協議会 代表幹事 （～平成28年6月末）
- 国立大学留学生指導研究協議会 近畿地区幹事 （平成28年7月～）

9. 会議運営

- 平成28年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2017年2月
- 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2017年2月

10. 講 演

- 京都大学『留学支援ネットワークワークショップ——日本人学生の派遣に係る課題について——』における招待講演
講演題目「留学生を支援すること——受け入れ側として、送り出す側として——」
平成28年9月21日（水）11:15-12:00、場所：京都大学国際科学イノベーション拠点

12. そ の 他

- 豊中市人権文化のまちづくりをすすめる協議会委員
- 文部科学省 住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業選定委員会委員
- 独立行政法人日本学生支援機構 評価委員会委員
- 京都市「京（みやこ）グローバル大学」促進事業選考委員会委員

1. 専門分野

社会保障論、医療経済、キャリア教育

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春学期

多文化コミュニケーション

○秋学期

多文化コミュニケーション

(2) 大学院

○春学期

未来共生社会貢献論Ⅰ

○秋学期

未来共生社会貢献論Ⅱ

(5) 国際交流科目

○春学期

Social Security and Service Design（社会保障とサービスデザイン）

○秋学期

Social Entrepreneurship（社会起業）

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応（IRIS）

5. 学内運営

- ・国際教育交流センター評価WG委員
- ・国際教育交流センター広報・出版委員
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフ・ミーティングメンバー
- ・大阪大学全学フロントスタッフ・ミーティングメンバー
- ・省エネルギー推進会議担当
- ・男女共同参画推進委員
- ・人権・セクシュアルハラスメント対策委員
- ・RENKEIタスクフォースメンバー

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究C 課題番号：26350044「妊娠・出産の高年齢化の現状と課題——これからの出産を考える——」（研究代表者）

7. 研究業績

(1) 論文

- Health service use of Women of Advanced maternal age in Japan, Yukari ITO, Koichi SETOYAMA, Tomoko MIYAKE, Journal of Nursing & Care, 5(4) 252、査読有
- Impact of pregnancy and childbirth over 40 in Japan: Challenges and Solutions for administering effective care, Yukari ITO, Koichi SETOYAMA, Tomoko MIYAKE, Journal of Nursing & Care, 5(8)-110、査読有
- 「終の棲家の選択 ― 大阪市大正区民への在宅医療・介護アンケート調査から見えてきた課題」, 吉田あゆみ, 津田侑子, 松本健二, 伊藤ゆかり, 第75回日本公衆衛生学会総会抄録, 63(10)-277, 査読有

(3) 口頭発表

- 「Health service use of Women of Advanced maternal age in Japan」, Yukari ITO, Koichi SETOYAMA, Tomoko MIYAKE, 6th World Nursing and Healthcare Conference, 国際会議、2016年8月17日、於：ロンドン、有
- 「Impact of pregnancy and childbirth over 40 in Japan: Challenges and Solutions for administering effective care」, Yukari ITO, Koichi SETOYAMA, Tomoko MIYAKE, 15th Euro Nursing and Medicare Summit, 国際学会、2016年10月19日、於：ローマ、有
- 「終の棲家の選択 ― 大阪市大正区民への在宅医療・介護アンケート調査から見えてきた課題」, 吉田あゆみ, 津田侑子, 松本健二, 伊藤ゆかり, 第75回日本公衆衛生学会総会, 2016年10月26日、於：グランフロント大阪、有

8. 学外運営

- 宝塚市大型児童センター運営委員2期6年目（2009年～）
- 財団法人人と防災未来センター リサーチフェロー（2005年～）
- 大阪市大正区保健師研究チーム「終の住処研究プロジェクト」リサーチアドバイザー（2015年～）

9. 会議運営

- RENKEI Intercultural workshop at UCL “Renaissance Entrepreneurship: Shaping a future of demographic change”、2016年8月22日～9月2日、於：大阪大学
日英12大学間連携と産学連携を基盤としたプログラムのアドバイザー

10. 講演会

- Osaka University COI (Center of innovation)/GRSC (Global Risk Solutions Center) Special Lecture Sessions、2017年2月13日 於：大阪大学

11. 報道

- 「くらしナビ・学ぶ @大学 出産や育児教育を实践 学生の「ライフプラン」への意識育む」, 毎日新聞,
2016年5月31日 (<http://mainichi.jp/articles/20160531/ddm/013/100/002000c>)

12. そ の 他

- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2017年2月
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2016年4月、2016年10月
- 新規来日留学生への生活サポーターコーディネート
- 新規来日国費留学生研究訪問コーディネート

1. 専門分野

教育工学、外国語教育学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○ 春学期

キャリアデザインとビジネスコミュニケーション

(5) 国際交流科目

○ 春学期

オンライン・リソースを活用したL2学習

○ 秋学期

コンピュータを活用した語学学習

3. 学生指導

- ・就職相談コーナーにおいて留学生の個別相談対応（豊中・吹田キャンパス）
- ・留学生の相談対応（IRIS、箕面分室）

5. 学内運営

- ・海外派遣候補者選考WG
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会
- ・キャンパスライフ支援センター兼任教員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：26350319 平成26年～28年度「モバイルフォンを利用したシームレスな語学学習環境デザイン構築に関する研究と実践」研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（B）課題番号：16H03078 平成28年～31年度「教育ビッグデータの解析による教材改善手法の開発と評価」（研究代表者：殷 成久）研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・Context-aware and Personalization Method based on Ubiquitous Learning Analytics. Kousuke Mouri and Hiroaki Ogata, Noriko Uosaki, Erdenesaikhan Lkhagvasuren, *Journal of Universal Computer Science*, vol.22, No.10, pp.1380-1397, 2016. 査読有
- ・複数例文による個人用漢字学習システムの開発 Development of a Personalized Kanji Learning System Using Multiple Sample Sentences, 松下孝太郎, 車川隆洋, 崎山卓哉, 魚崎典子, 鈴木英男 教育シス

テム情報学会 JSiSE2016 第 41 回全国大会 2016/8/29-8/31 pp.69-70. 査読無

- Visualization for Analyzing Learning Logs in the Seamless Learning Environment, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, Noriko Uosaki, Mahiro Kiyota, *Proceedings of the 24th International Conference on Computers in Education (ICCE 2016)* pp.315-324. 査読有
- AETEL: Supporting Seamless Learning and Learning Log Recording with e-Book System, Mahiro Kiyota, Kousuke Mouri, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata, *Proceedings of the 24th International Conference on Computers in Education (ICCE 2016)* pp.380-385. 査読有
- Measuring & Evaluating Textbook Through Quizzes, Chengjiu Yin, Jane Yin-Kim Yan, Noriko Uosaki, Sachio Hirokawa and Etsuko Kumamoto, *Proceedings of the 24th International Conference on Computers in Education (ICCE 2016)*, pp.374-379. 査読有

(3) 口頭発表

- Career Support for International Students in Japan Using Learning Log System with eBook, Noriko Uosaki, Mahiro Kiyota, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, *5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI) LTLE 2016*, pp.1205-1206, Kumamoto, Japan July 10, 2016 to July 14, 2016. 査読有 (ポスター発表)
- Onomatopoeia Learning Support for Japanese Learners Using Learning Log System with eBook, Uosaki, Noriko, Mahiro, Kiyota, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, Mahdi, Choyekh, The 16th IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies (ICALT 2016), p.347-348. 査読有 (ポスター発表)
- Supporting Foreign Students' Job Search Process in Japan with SCROLL & AETEL, Noriko Uosaki, Mahiro Kiyota, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, *TECL Workshop Proceedings (Collabtech 2016)* pp.84-87. 査読有
- ラーニングログ・システムとEPUBを活用した留学生へのキャリアサポート, 魚崎典子, 清田麻寛, 毛利考佑, 緒方広明 JSET2016 第 32 回全国大会 於大阪大学 2016/9/17-9/18 pp.187-188. 査読無
- Development and Evaluation of a Personalized Kanji Learning System Using Multiple Example Sentences. Kotaro Matsushita, Takuya Sakiyama, Takahiro Kurumagawa, Noriko Uosaki, Hideo Suzuki, *Proceedings of The 5th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2016)* Kyoto, Japan, pp.200-203. 査読有 (ポスター発表)
- Let's Learn Business Japanese with Learning Log System and E-book. Noriko Uosaki, Mahiro Kiyota, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, *Proceedings of 15th World Conference on Mobile and Contextual Learning (mLearn2016)*, Sydney pp.265-272. 査読有
- Supporting Out-of-class Interaction among Learners with InCircle, Noriko Uosaki, Takahiro Yonekawa, and Chengjiu Yin, *Proceedings CSCW '17 Companion Companion of the 2017 ACM Conference on Computer Supported Cooperative Work and Social Computing*, pp.331-334. 査読有 (ポスター発表)
- InCircleを活用した授業外でのアクティブな相互作用の試み, 魚崎典子, 米川孝宏, 殷成久 JSET 研究会 於信州大学 2017/03/04. 日本教育工学会研究報告集 JSET17-1, pp.671-674. 査読無
- Learning Analytics in a Seamless Learning Environment, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, Noriko Uosaki, *Proceedings of the 7th International Learning Analytics and Knowledge Conference (LAK17)* pp.348-357. 査読有

8. 学外運営

- グローバル人材活用運営協議会構成員
- CARES-Osaka 運営委員会構成員
- CUMTEL SIG (Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning Special Interest Group, sub-division of ICCE2016) program committee member
- LTLE2016 (5th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments) program committee member

9. 会議運営

- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2017 年 2 月

12. その他

- 2016 年度「留学生のための就職対策講座」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2016 年 10 月～2017 年 1 月（計 8 回）
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2016 年 4 月、10 月（計 4 回）
- 2016 年度春学期新規渡日留学生対象「交通安全講習会」企画運営 2016 年 4 月
- 2016 年度春学期新規渡日留学生対象「防犯講習会」企画運営 2016 年 6 月（計 2 回）
- 2016 年度秋学期新規渡日留学生対象「交通安全防犯講習会」企画運営 2016 年 10 月

1. 専門分野

応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

○秋学期

専門日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

(3) 大学院（言語文化研究科）／外国語学部

○春学期

言語文化教育論A／言語文化教育論（G）

○秋学期

言語文化教育論B／言語文化教育論（H）

(5) 国際交流科目

○春学期

総合日本語 JA600

○秋学期

総合日本語 JA600

(6) インターナショナルカレッジ日本語科目

○春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

○秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 2（留学生）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は1）

5. 学内運営

- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・外国語学部教授会構成員
- ・全学教育推進機構兼任教員
- ・超域イノベーション博士課程プログラム担当教員
- ・未来共生イノベーター博士課程プログラム担当教員
- ・情報化推進会議委員

- 情報セキュリティ連絡会委員
- ODINS運用部会委員
- マチカネにほんご交流会担当教員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：26370607 平成 26 年度～平成 29 年度「EPA 看護師候補者のためのオンライン漢字語彙教材の開発」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究分担者

7. 研究業績

(2) 編 書

- 『土佐日記』（平安文学ライブラリー）、日本文学Web図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2016 年 6 月、Web 配信
- 『紫式部日記』（平安文学ライブラリー）、日本文学Web図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2016 年 6 月、Web 配信
- 『更級日記』（平安文学ライブラリー）、日本文学Web図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2016 年 6 月、Web 配信

8. 学外運営

- 国・地方公共団体、医療事務連絡会（箕面市等） 委員
- その他、みのお外国人医療サポートネット 運営委員

10. 講 演

- 「クラウドコンピューティングを用いた医療通訳用語彙データベースの作成」、みのお外国人医療サポートネット定例研修会、大谷晋也・高木智子、2016 年 7 月

1. 専門分野

社会言語学、会話分析、日本語教育学

2. 授業担当

学部

○春学期

総合日本語

○秋学期

総合日本語

総合日本語

多文化コミュニケーション

(5) 国際交流科目

○春学期

総合日本語 JA400-1

○秋学期

総合日本語 JA400-1

(7) その他

○日本語集中（研修）コース IJ300 授業担当（週に 1 コマ）、春学期及び秋学期

○夏季 J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2016 年 6 月 17 日～8 月 9 日までの 9 週間）のコーディネーション及び授業担当（週に 2 コマ）

○超短期プログラム（2016 年 8 月 11 日～8 月 29 日の 3 週間）のコーディネーション

○冬季 J-ShIP プログラム（2017 年 1 月 6 日～2 月 2 日）のコーディネーション及び受領担当（週に 2 コマ）

○中級日本語と防災（超短期プログラム、2017 年 2 月 1 日～2 月 21 日）のコーディネーション

5. 学内運営

・教務委員会

1. 専門分野

日本語教育学、協働実践研究、ビジネスコミュニケーション教育

2. 授業担当

(4) 留学生日本語プログラム

○春学期

アカデミックライティング JW400/500

アカデミックプレゼンテーション JP400/500

ビジネス日本語コミュニケーション BJ500600700

○秋学期

アカデミックライティング JW400/500

アカデミックプレゼンテーション JP400/500

ビジネス日本語コミュニケーション BJ500600700

(7) その他

○学際融合教育科目

前期「キャリアデザインとビジネスコミュニケーション」

3. 学生指導

(5) 日韓共同理工系学部留学生（予備教育生）5

4. 教育（学外）

- ・政策研究大学院大学 日本語教育指導者養成プログラム（特別講義）

6. 外部資金

- ・基盤研究（B）平成 26 年度～29 年度 課題番号：26284073「学びの関係性構築をめざした「対話型教師研修」の研究」（研究代表者：舘岡洋子）、研究分担者
- ・基盤研究（B）平成 25 年度～28 年度 課題番号：25284093「日本語教育における協働学習の実践・研究のアジア連携を可能にするプラットフォームの構築」（研究代表者：池田玲子）、研究分担者
- ・基盤研究（C）平成 27 年度～29 年度 課題番号：15K02669「JFL 環境の中等日本語教育における教師間協働の研究」（研究代表者：門脇薫）、研究分担者
- ・挑戦的萌芽研究 平成 27 年度～平成 29 年度 課題番号：16K13249「映像記録を用いた日本語教師の語りの保存に関する基礎研究」（研究代表者：牛窪隆太）、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「人材育成を目指すビジネスコミュニケーション教育」『日本語教育通信 日本語・日本語教育を研究

する 第 44 回』, 金孝卿・近藤彩, 2017 年 2 月, 寄稿

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/research/201702.html>

(3) 口頭発表

- 「対話と内省に基づくケース学習の授業実践」、パネルディスカッション（「学習者・教師の多様性を活かした学習環境のデザイン——「協働」をテーマとした言語教育の環境整備を考える——」（早稲田大学）, 金孝卿, 『第 11 回協働実践研究会・第 13 回外国語授業実践フォーラム予稿集』 p.37, 2017 年 2 月
- 「看護と介護の日本語教師研修に「ケース学習」を用いる試み」, 神村初美・小原寿美・奥村匡子・野村愛・金孝卿・池田玲子, 『第 11 回協働実践研究会・第 13 回外国語授業実践フォーラム予稿集』 pp.11-12, 2017 年 2 月
- 「ケース学習における対話的コミュニケーションのプロセス——職場のダイバーシティで学び合う力の養成を目指して——」, 金孝卿, 『第 21 回 JAISE 年次大会予稿集』, pp.2-47-2-48, 2016 年 8 月

9. 学外運営

- 公益財団法人日本語教育学会 大会企画運営委員、理事
- 国立大学日本語教育研究協議会 理事（2016 年 6 月から）

10. 講演会

- 台湾協働実践研究会, 「ティーチング・ポートフォリオ」作成ワークショップ——教師の教育活動のふりかえりを支援する—— 金孝卿・トンプソン美恵子, 2017 年 3 月、於：東海大学（台湾）
- 第 32 回 ISC 日本語・日本語教育研修会, 「目標の共有化と評価のあり方を考える～「ビジネス日本語」クラスのコースデザインの実践から～」, 2017 年 2 月、於：北海道大学
- ジェトロ大阪本部・関西経済連合会（グローバル人材活用運営協議会）「中堅・中小企業等の海外展開における高度外国人材の活用」に係るワークショップ（育成・定着、異文化マネジメント編）, 話題提供「関西における留学生の就職後の定着支援の取り組み」, 2016 年 11 月、於：関西経済連合会
- 「第 1 回看護と介護の日本語教師のための教師研修」（看護と介護の日本語教育研究会第 11 回例会）, 「ケース学習とは・ケース学習の体験」池田玲子・金孝卿, 2016 年 11 月、於：首都大学東京
- グローバル人材活用セミナー：各国の教員が語る ASEAN 諸国の大学生の就業観, パネルディスカッション「ASEAN 各国の日本語教育の現状と日本企業への就職に関して」, 2016 年 8 月、於：関西経済連合会
- 欧州日本語教育研修会, 「グローバル時代の人材育成とビジネスコミュニケーション教育」近藤彩・金孝卿, 2016 年 7 月、於：欧州日本学研究センター
- パリ日本文化会館主催講演会, 「ビジネスコミュニケーション教育の目指すもの——学び方・コミュニケーションのあり方を問い直す——」近藤彩・金孝卿, 2016 年 7 月、於：パリ日本文化会館

1. 専門分野

留学生教育、社会心理学、ディスコース分析

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

- 春学期：日本の社会とイデオロギー
- 秋学期：日本のメディアとコミュニケーション

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）春学期 80 名
国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）秋学期 79 名

(6) その他

Summer Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention 11 名
Winter Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention 12 名
Japanese Short-stay In-session Program (J-ShIP)
06.19－08.13. Summer Program 41 名
12.07.－01.29. Winter Program 29 名
阪神地区 3 大学連携「第四回日韓学生会議」21 名（02.16.－02.25.）
慶熙大学校 3、漢陽大学校 6、関西大学 3、関西学院大学 4
於）関西学院大学

4. 教育（学外）

広島大学・客員教授

5. 学内運営

G30 企画室兼任
高等教育入試開発研究センター兼任
カリフォルニア大学連携ワーキング
学生交流プログラム検討ワーキング
学生交流プログラム検討ワーキング OUSSEP ワーキング座長

6. 研究業績

(2) 論文

- ・ 専門著書，「Chapter 9; Impact of the English Language on University Policy in Malaysia and Japan」
Sachihiko Kondo in (eds.) T. Yamaguchi and. Deterding (2016) ‘English in Malaysia; Current Use and

Status' Brill

ISBN, 978-9004314290, 2016 年 4 月

(3) 学会発表

- 熊井知美・近藤佐知彦・熊谷圭司「学習がはかどる留学生宿舎としてのホームステイの機能分析」第 21 回留学生教育学会年次大会（大阪大学中之島センター）2016 年 8 月 27 日
- 石倉佑季子・近藤佐知彦「高等学校における外国人獲得のための高大接続リクルート」第 21 回留学生教育学会年次大会（大阪大学中之島センター）2016 年 8 月 27 日
- 池田佳子・近藤佐知彦・古川智樹「就職を意識づける地域・企業連携型の短期留学教育プログラム（文部科学省委託事業 CARES-Osaka）」第 21 回留学生教育学会年次大会（大阪大学中之島センター）2016 年 8 月 27 日
- 熊井知美・近藤佐知彦「学習がはかどる留学生宿舎としてのホームステイの機能分析」第 4 回グローバル人材育成教育学会全国大会（大阪大学銀杏会館）2016 年 12 月 11 日
- 本田直也・近藤佐知彦・早川楽「留学ポートフォリオシステム『exportfolio』の運用と今後の課題に関する展望」第 4 回グローバル人材育成教育学会全国大会（大阪大学銀杏会館）2016 年 12 月 11 日

7. 学外運営

大阪府市都市魅力戦略推進会議委員

大阪府国際化戦略実行委員会委員

（公財）大阪府国際交流財団理事

（公財）吹田市国際交流協会理事

住環境・就職支援東留学生の受入環境支援事業「CARES-Osaka」阪大側運営委員

日本学生支援機構短期プログラム審査委員

官民協働「トビタテ！留学Japan」学識者選考委員

（公財）業務スーパージャパンドリーム財団奨学金選考委員

留学生教育学会理事副会長

グローバル人材育成教育学会理事副会長

アグラブリタニカ（イギリス研究会）副会長

8. 会議運営

8 月 26 日 27 日

留学生教育学会第 21 回年次大会・実行委員長

「留学生獲得とキャリア戦略；地域で取り組む留学生教育」

主催：留学生教育学会

共催：大阪大学・学校法人エール学園・学校法人大阪 YMCA

後援：特定非営利活動法人 国際教育交流協議会（JAFSA）

公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会

一般財団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

公益財団法人 大阪観光局

大阪商工会議所

公益社団法人 関西経済連合会

12月10日11日

グローバル人材育成教育学会第4回全国大会・実行委員長

「タフな環境を生き抜くグローバル人材：不確実性時代の人材育成」

主催：グローバル人材育成教育学会

共催：大阪大学・関西大学・CARES-Osaka コンソーシアム

後援：大阪府国際交流財団

協力：日本学生支援機構

関西領事団

12. その他

2016/10 から（公財）英語検定協会およびBritish Council Tokyoと連携して日本人学生と留学生がペアワークをするProject HELP! (Harmonized English Learning Program) を実施。

1. 専門分野

日英・英日翻訳研究、レトリック・メタファーに関する認知言語学的研究

2. 授業担当

(1) 国際交流科目

○春学期

言語と翻訳

○秋学期

翻訳と翻訳者たち

(2) 短期英語研修プログラム

○夏 季

エセックス大学語学研修プログラム

○春 季

モナシュ大学語学研修プログラム

5. 学内運営

- OUSSEP 運営 Sub WG
- 海外派遣候補者選考 WG

7. 研究業績

(2) 著 書

- 「ライティング・スピーキングも怖くない IELTS 完全対策」国際教育交流センター監修、大阪大学出版会、2017 年 3 月

(3) 口頭発表

- 「大学内の異言語・異文化環境を活かした英語学習支援」2016 年 11 月 26 日、大学英語教育学会 (JACET) 関西支部秋季大会、於：関西外国語大学

8. 学外運営

- 2016 年度日本通訳翻訳学会年次大会 大会運営委員

1. 専門分野

日本語教育学、社会言語学、教育工学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○ 春学期

上級日本語（アカデミック・コミュニケーション）

○ 秋学期

上級日本語（アカデミック・コミュニケーション）

(3) 大学院

○ 春学期

応用マルチメディア論A

○ 秋学期

応用マルチメディア論B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

JP600/700（アカデミック・コミュニケーション）

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA100

総合日本語 JA500

○ 秋学期

総合日本語 JA100

総合日本語 JA500

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 501

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 501

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 1（うち留学生は1）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は2）

(3) 研究生 1（うち留学生は1）

4. 教育（学外）

- 広島大学教育学部 日本語学習とマルチメディア（集中講義）

5. 学内運営

- 教育情報化WG
- CALL システム WG
- インターナショナルカレッジ教務委員会

9. 学外運営

- 公益財団法人日本語教育学会 大会委員

10. 講 演

- 「オンライン動画を利用したアクティブラーニングの実践」 2016 年 8 月 21 日 台湾 逢甲大学外語中心

1. 専門分野

日本語教育学、言語心理学

2. 授業担当

(3) 大学院

○ 春学期

応用言語学研究 A

言語文化教育論特別研究 A

○ 秋学期

応用言語学研究 B

言語文化教育論特別研究 B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

文法講義 JG300/400

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA300-1

○ 秋学期

総合日本語 JA300-1

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

(7) その他

○ 日本語集中（研修）コース IJ100 コーディネータと授業担当（週に1コマ）、春学期と秋学期

○ 夏季J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2016年6月17日-8月9日までの9週間）のコーディネーション支援

○ 夏季Mid Summer J-ShIP（2016年7月11日-8月9日）のコーディネーション支援

○ 超短期プログラム（2016年8月11日-8月29日の3週間）のコーディネーション支援

○ 冬季J-ShIPプログラム、2017年1月6日-2月2日）のコーディネーション支援

○ 中級日本語と防災（超短期プログラム、2017年2月1日-2月21日）のコーディネーション支援

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 4（うち留学生は2）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は1）

(3) 研究生 2 (うち留学生は2)

(4) 日本語研修生 27

4. 教育 (学外)

- ・立命館大学言語情報教育研究科 日本語教育学Ⅶ (集中講義)
- ・関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科 日本語教育研究F (集中講義)
- ・京都外国語大学外国語学研究科 日本語教育研究Ⅲ (集中講義)

5. 学内運営

- ・評価委員会
- ・吹田地区事業場安全衛生委員会
- ・OUSSEP 運営サブWG
- ・Maple 運営サブWG
- ・日本語・日本文化研修留学生プログラム実施WG
- ・博士課程教育リーディングプログラム 未来共生イノベーター博士課程プログラム 兼任 (選抜・審査ワーキング・グループのメンバー)

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 16K02811 平成 28 年度～平成 31 年度「ことば行為についての対話論的対照研究 ― 対面的相互行為におけることばの日英比較」、研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「表現活動と表現活動主導の第二言語教育」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第 21 号、研究ノート、無、pp.37-45
- ・「コミュニケーション・アプローチの超克 ― 基礎日本語教育のカリキュラムと教材開発の指針を求めて」、西口光一、『リテラシー』20 号 (くろしお出版)、学術論文、招待、pp.12-23

(3) 口頭発表

- ・「ダイアロジズム, 表現活動, エンゲージメント」、2016 年 5 月 21 日、平成 28 年度日本語教育学会春季大会パネルセッション『表現活動、エンゲージメント、日本語の習得と教育』、於: 目白大学
- ・ワークショップ「自己表現活動中心の基礎日本語教育のアプローチと授業」、2016 年 6 月 5 日、第 9 回日本語実用言語学国際会議、於: サンフランシスコ州立大学
- ・ワークショップ「自己表現活動中心の基礎日本語教育のユニット・プランと授業」、2016 年 7 月 16 日、3rd Cardiff Symposium on Applied Linguistics and Japanese Language Pedagogy、Cardiff University, UK
- ・「教育実践のアジェンダと、企画、管理・運営そして報告 ― 教師と学習者の人格への解放のために」、2016 年 8 月 7 日 (日)、(公財) 日本語教育学会日本語教育実践研究フォーラム パネルセッション、於: 東京外国語大学

8. 学外運営

- 公益社団法人日本語教育学会 大会委員
- 公益社団法人日本語教育学会 査読協力者
- 国立大学日本語教育研究協議会 代表理事（2016年6月から）

10. 講演

- 「『忘れられた側面』と声の獲得としての総合基礎日本語教育の構想」、2016年6月4日、第9回日本語実用言語学国際会議 基調講演、於：サンフランシスコ州立大学
- 「コミュニケーション・アプローチを超えて―第二言語教育の企画と実践のためのバフチンの視点」、2016年7月15日、3rd Cardiff Symposium on Applied Linguistics and Japanese Language Pedagogy 基調講演、Cardiff University, UK
- 「表現活動主導の日本語教育の構想と企画」、2016年7月16日、3rd Cardiff Symposium on Applied Linguistics and Japanese Language Pedagogy 講演、Cardiff University, UK
- 「留学生と地域と日本語―NEJの活用法」、2016年9月3日、長崎留学生支援センター、於：長崎出島交流会館
- 「ことばと文化と日本語教育」、2016年11月26日、2016年「台湾日語教育研究」国際シンポジウム 基調講演、於：台湾東呉大学
- 「日本語力の増強と文型・文法事項の習得―NEJの考え方と方法」、2016年3月10日、国際教育リエゾン機構FD、於：長崎大学

1. 専門分野

比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春学期

多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナーⅠ

○秋学期

多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナーⅡ

(2) 学際融合教育科目

○春学期

アカデミックリーディングA（日本語）

○秋学期

アカデミックリーディングB（日本語）

(3) 大学院

○春学期

言語文化政策論A

○秋学期

言語文化政策論B

(4) 留学生日本語プログラム

○春学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディングJR600/JR700（日本語）

○秋学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディングJR600/JR700（日本語）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 1（うち留学生1）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生2）

(3) 研究生 1（うち留学生1）

(4) 日本語研修生 20

(5) 日韓共同理工系学部留学生（予備教育生） 5

5. 学内運営

- ・日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG（日本語科目コーディネーター）

- 人権問題委員会

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（A） 課題番号：15H02600 平成 27 年度～平成 30 年度「東南アジア地方自治ガバナンスに関する住民意識調査—フィリピンとインドネシアの比較」研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：25283009 平成 25 年度～平成 27 年度「東南アジアの自治体エリートサーヴェイ分析—タイ、インドネシア、フィリピンの比較」（研究代表者：永井史男）、研究分担者（平成 28 年度まで繰り越し）
- 科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」（研究代表者：難波康治）、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「首長のソーシャル・キャピタルは自治体パフォーマンスを向上させるのか：フィリピンを事例とした 300 市町調査の計量分析」小林盾・西村謙一・大崎裕子、『アジア太平洋研究』第 41 号、無、63-77 頁
- 「『政治王国』とフィリピン自治体のパフォーマンス」西村謙一・小林盾、『東南アジアの自治体エリートサーヴェイ分析—タイ、インドネシア、フィリピンの比較—平成 25 年度～平成 28 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書』2017 年 3 月、無、158-179 頁

(3) 口頭発表

- “Mayors’ Attribute and the Type of Political Leadership: Empirical Study on the Local Governance in the Philippines”, Kenichi Nishimura & Jun Kobayashi, Eastern Regional Organization for Public Administration (EROPA) 2016 Conference, October 11, 2016, Manila Hotel, Philippines.
- “Mayor’s Factors for Good Local Governance: Attributes, Political Orientations, Political Networks and Behavior of Mayors in the Philippines”, Kenichi Nishimura & Jun Kobayashi, International Conference on International Relations (ICON-IR), October 27, 2016, Mercure Hotel Bandung, West Java, Indonesia.

8. 学外運営

- 兵庫県立高等学校 学校評議員、SGH 企画推進委員会委員長

10. 講演

- “Mayors’ Attributes and Performance of Local Governments in the Philippines: Does “Family” Matter?”, May 23, 2016, Graduate School of International Development, Nagoya University.

12. その他

- 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーションおよびホームルーム担当

宮 原 啓 造

1. 専門分野

機械工学, 留学生教育

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

- 多文化コミュニケーション (日本語), “Communication in Multicultural Contexts (Japanese)”
- 多文化コミュニケーションセミナー I, “Multicultural Communication Seminar I”

(3) 大学院

○ 春/秋学期 工学研究科

- プロダクトデザイン, “Product Design”

(5) 国際交流科目

○ 春学期

- 数学とその工学応用 (I), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)”

○ 秋学期

- 数学とその工学応用 (II), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)”

(6) インターナショナルカレッジ

○ 秋学期 基礎教養科目

- 数学とその工学応用 (II), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)”

3. 学生指導

(1) 博士後期課程

- TA1 名 (留学生), RA1 名 (留学生)

(4) 短期留学特別プログラム

- 国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)
- FrontierLab@OsakaU
- FrontierLab@OsakaU Summer Program
- Summer Japanese Short-stay In-session Program (Summer J-ShIP)
- Mid-Summer Japanese Short-stay In-session Program (MidSummer J-ShIP)
- Summer Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention (Summer Short-term)
- Winter Japanese Short-stay In-session Program (Winter J-ShIP)
- Spring Intensive Program Japanese Language (Fundamental Academic Japanese: Spring Short-term)

4. 教育 (学外)

- 神戸大学農学部非常勤講師

5. 学内運営

- ファカルティ・ディベロップメント委員会 委員
- グローバル教育運営委員会 委員
- 国際交流委員会 海外派遣候補者選考ワーキンググループ 委員
- 国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営サブワーキンググループ 委員
- FrontierLab@OsakaU 運営企画会議 委員
- FrontierLab@OsakaU 運営サブワーキンググループ 委員／コーディネータ
- 国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- 大学院工学研究科兼任教員
- 国際教育交流センター広報出版委員会 委員
- 国際教育交流センター将来計画および評価に関する原案の作成を行うワーキンググループ 委員
- 国際教育交流センター研究倫理教育 実施副責任者
- 国際教育交流センター研究調査申請 対応窓口
- 国際教育交流センター研究会 実行委員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「国際交流に係る学生支援方針の研究——統合支援システムを用いた実証試験——」（平成 26－28 年度）

7. 研究業績

(1) 論文

- 宮原啓造「学生の英語力とその強化方策に関する考察」大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流, 第 21 号, 2017.3.

(3) 口頭発表

- MIYAHARA, Keizo and TANAKA, Toshihiro, “Short-term Exchange Programs for Engineering Research Education,” Proceeding of the IEEE International Conference on Teaching, Assessment and Learning for Engineering (IEEE TALE), pp.44-49, December 7-9, 2016, Thailand, 査読有.

8. 学外運営

- 応用物理学会 論文誌 Applied Physics Express (APEX), Japanese Journal of Applied Physics (JJAP) 登録閲読者.
- International Journal of Advanced Robotic Systems 査読者.
- Journal of Mechanical Science & Technology 査読者.

12. その他

- 宮原啓造, “世界にはばたく力と自分を見つめる力”, 平成 28 年度講演者派遣事業, 兵庫県教育委員会, 2017.3.

1. 専門分野

日本語教育学、アカデミック・ライティング研究、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春学期

専門日本語A

○秋学期

専門日本語B

(2) 学際融合教育科目

前期「上級専門日本語 アカデミック・ライティングA」

後期「上級専門日本語 アカデミック・ライティングB」

(3) 大学院

○春学期

言語技術特殊研究A

言語コミュニケーション論特別研究A

○秋学期

言語技術特殊研究B

言語コミュニケーション論特別研究B

(4) 留学生日本語プログラム

○春学期

日本語集中（研修）コースIJ200（読解）

選択コースJW600/700（アカデミックライティング）

○秋学期

日本語集中（研修）コースIJ200（読解）

選択コースJW600/700（アカデミックライティング）

(6) その他

○共通教育科目

前期「日本語表現に潜むジェンダー」牟田和恵他「現代の差別を考える ― 女性学・男性学 ―」

（オムニバス形式の講義担当）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3

(2) 博士前期課程 3（うち留学生は1）

(3) 日本語研修生 18

(4) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 5

5. 学内運営

- 教育課程委員会委員
- 全学教育推進機構兼任教員、企画開発部・言語教育部門、日本語教育セクション長
- 日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討ワーキング座長
- グローバル教育運営委員会委員
- アセアンキャンパス設置ワーキングメンバー
- 国際教育交流センター副センター長
- 国際教育交流センター財務委員会委員長

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：26284072 平成 26 年度～平成 29 年度「大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、（研究代表者：難波康治）、研究分担者
- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：16H03434 平成 28 年度～平成 30 年度「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」、（研究代表者：太田亨）研究分担者
- 科学研究費補助金基盤研究（A） 課題番号：15H01884 平成 27 年度～平成 30 年度「読解コーパスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究」（研究代表者：野田尚史）、連携研究者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「アカデミック・ライティング教育の視点から見た大学における専門日本語教育」、村岡貴子（2016）『Nagoya University Asian Law Bulletin』第 2 号、pp.25-40、名古屋大学法学研究科、招待

(3) 口頭発表

- 「社会人日本語非母語話者による職場での日本語ライティングに関する内省——日本留学経験者のビジネスパーソン・研究員への調査から——」村岡貴子（2016）、『社会言語科学会第 38 回大会発表論文集』pp.90-93 社会言語科学会、2016 年 9 月 3 日、於：京都外国語大学、招待発表
- 「韓国人理工系学部予備教育生の「論理」に対するレディネスの実態——日本語教育と数学教育のコラボ授業の答案とアンケートの考察を通じて——」太田亨・菊池和徳・安龍洙・村岡貴子、『第 19 回専門日本語教育学会研究討論会誌』、pp.12-13、2016 年 3 月 4 日、於：横浜国立大学、査読有
- 「東アジアを中心とした専門日本語教育の実践拡大と研究開発の可能性——研究者間の連携・協働の強化を目指して——」パネルディスカッション、第 18 回東アジア日本語・日本文化フォーラム特別企画『日本語教育を核とする異文化相互理解教育・国際連携教育の開発に向けて』、2017 年 2 月 4 日、於：九州大学、招待

8. 学外運営

- 日本語教育学会調査研究推進委員会委員、2015 年 6 月～
- 日本語教育学会学会誌委員会査読協力者、2015 年 7 月～2016 年 8 月

- 日本語教育学会審査・運営協力員、2017 年 9 月～
- 専門日本語教育学会代表幹事、2015 年 3 月～

12. その他

- 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目アドバイザー担当
- 大阪大学FDフォーラム研修M「留学生の指導」担当、2016.9.13、於：大阪大学豊中キャンパス

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育科目

○春学期

専門日本語

○秋学期

専門日本語

(2) 学際融合教育科目

○春学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションA

○秋学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションB

(3) 大学院

○春学期

言語コミュニケーション論A

○秋学期

言語コミュニケーション論B

(4) 留学生日本語プログラム

○春学期

選択コースJC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

○秋学期

選択コースJC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

(5) 国際交流科目

○春学期

総合日本語JA200-1

○秋学期

総合日本語JA200-1

(6) インターナショナルカレッジ

○春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

○秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 3 (うち留学生は1)
- (2) 博士前期課程 2 (うち留学生は1)
- (6) その他：研究生 2 (うち留学生は2)

5. 学内運営

- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・男女協働推進センター兼任教員
- ・男女協働推進センター広報・意識啓発部門長
- ・学生生活委員会委員
- ・国際教育交流センター教務委員長

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究 (B) 課題番号：16H03435 平成 28 年度～平成 30 年度「多文化共生社会におけるホストパーソン・支援者の接触支援スキルと意識の変容」、研究代表者
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号：16K13243 平成 28 年度～平成 30 年度「ライフコースの視点からみた日本語教師の成長とキャリア支援プログラムの開発」、研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号：15K02639 平成 27 年度～平成 29 年度「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」、研究分担者
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号：16K13241 平成 28 年度～平成 30 年度「外国人の保護者のための学校配布プリントの研究」、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「第二言語習得研究から見た教材」、義永美央子、吉岡英幸・本田弘之（編著）『日本語教材研究の視点』くろしお出版、pp.64-89、招待
- ・「まなぶ・つなぐ・つくる—ポスト・コミュニケーションアプローチの時代における教師の役割—」、義永美央子、『リテラシーズ』20 号、くろしお出版、pp.24-40、招待

(3) 口頭発表

- ・「日本語教育に関連した談話研究における言語教育イデオロギー」、義永美央子（佐藤慎司・尾辻恵美・嶋津百代とのパネルディスカッション「多言語・多文化」に開かれたことばの教育—新しい言語教育イデオロギーの創造をめざして—」における話題提供）、2016 年日本語教育国際研究大会 (Bali-ICJLE2016) 2016 年 9 月 10 日、於ヌサドゥアコンベンションセンター（インドネシア・バリ）、査読有
- ・「第二言語の教室における「ナラティブ」の利用—日本語を学ぶ研究留学生の発表活動を例として—」、義永美央子（嶋津百代・北出慶子とのシンポジウム「ナラティブをメタ分析する—言語教育からの探求—」における話題提供）、日本質的心理学会第 13 回全国大会 2016 年 9 月 24 日、於名古屋市立大学川澄キャンパス、査読有
- ・「第二言語教育における口頭運用能力の枠組み—伝達能力・複言語／複文化能力・相互行為能力を

中心に―」義永美央子（清水崇文・岩田夏穂・渡部倫子とのパネルディスカッション「第二言語習得における口頭運用能力とは―理論・実践・評価―」における話題提供）、第27回第二言語習得研究会全国大会 2016年12月17日、於九州大学伊都キャンパス、招待

- 「言語教師の成長とその支援―日本語学校へのインタビュー調査から考える―」、義永美央子・渡部倫子・本田弘之・岩田一成、言語文化教育研究学会第3回年次大会・フォーラム発表、2017年2月25日、於関西学院大学、査読有

8. 学外運営

- 日本語教育学会 大会委員会企画運営委員
- 社会言語科学会 査読協力者
- 言語文化教育研究学会 年次大会実行委員
- 言語文化教育研究学会 査読協力者
- 第二言語習得研究会 査読委員

9. 会議運営

- 2017年度日本語教育学会春季大会、企画運営、於 目白大学、2016年5月
- 2017年度日本語教育学会秋季大会、企画運営、於 ひめぎんホール、2016年10月
- 言語文化教育研究学会第3回年次大会、企画運営、於 関西学院大学、2017年2月

資料 1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2016 年度 時間割

春学期・吹田キャンパス

■：専門日本語 □：一般日本語

★国際交流科目、★★共通教育科目（単位取得可能科目）

時間帯	講義室	月		火		水		木		金	
		授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当
I 8:50 ～ 10:20	1	IJ100	西口	JB100-T1-1 総合日本語	田中 (真)						
	2			JB100-T2-1 総合日本語	岡田						
	3										
	4										
	5		金								
	6			JB200-1 総合日本語	山崎						
II 10:30 ～ 12:00	1	チュートリアル IJ100 (漢字と語彙)	TA 田中(午)	JB300-1 総合日本語	小原	JK202/302 漢字と語彙 (漢字系)	TA 班目	JK301 チュートリアル IJ100 (漢字と語彙)	TA 栄 中川	JK201 JB100-T1-2 総合日本語	上仲
	2		福良		山崎	チュートリアル IJ200	TA 李		村岡		畑中
	3				半田		菅			JB200-2 総合日本語	浦木
	4			チュートリアル IJ150 (漢字と語彙)	TA ミンジ		金			チュートリアル IJ150 (漢字と語彙)	TA 田中(午)
	5			JC400/500 アカデミック コミュニケーション	岡田			BJ500/ 600/700 ビジネス日本語 コミュニケーション	金	JB300-2 総合日本語	梅本
	6									JB100-T2-2 総合日本語	竹内
III 13:00 ～ 14:30	1	IJ100	蔭山		滝井		花井		蔭山	IJ100	浦木
	2	IJ200	福良		山崎		村上		小原	IJ200	畑中
	3	IJ300	西村		勝田		菅		野々口	チュートリアル IJ300	TA 柳
	4	IJ150	新庄		浦木		半田		乾	IJ150	梅本
	5					JG300/400	文法講義				
	6										
IV 14:40 ～ 16:10	1	IJ100	蔭山		滝井		花井		蔭山	IJ100	浦木
	2					JP400/500 アカデミック プレゼンテーション	金		小原		
	3										
	4	IJ150	新庄		浦木		半田		乾	IJ150	梅本
	5					JP600/700 アカデミック プレゼンテーション	難波				
	6			JC600/700 アカデミック コミュニケーション	義永				学際融合教育科目		
V 16:20 ～ 17:50	1			JW400/500 アカデミック ライティング	金		西口				
	2										
	3				西口						
	4				金						
	5										
	6	JR600/700 アカデミック ライティング	西村	JW600/700 アカデミック ライティング	村岡						

時間帯	月		火		水		木		金	
	授業	担当	講義室	授業	授	講義室	授業	授	講義室	授業
I 8:50 ~ 10:20				★JA100 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★A100 -T1 総合日本語	★JA100 -T2 総合日本語	★JA100 -T1 総合日本語	★JA100 -T1 総合日本語	基礎工学部 B202	
				★JA200 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA100 -T2 総合日本語	★JA100 -T2 総合日本語	★JA100 -T2 総合日本語	★JA100 -T2 総合日本語	基礎工学部 B204	
				★JA300 -T1 総合日本語	★JA200 -T1 総合日本語	★JA200 -T1 総合日本語	★JA200 -T1 総合日本語	★JA200 -T1 総合日本語	全学教育 C404	
				★JA300 -T2 総合日本語	★JA200 -T2 総合日本語	★JA200 -T2 総合日本語	★JA200 -T2 総合日本語	★JA200 -T2 総合日本語	全学教育 C107	
				★JA400 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA300 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA300 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA300 -T1 総合日本語	★JA300 -T1 総合日本語	全学教育 A313	
				★JA500 -T1 総合日本語	★JA400 -T1 総合日本語	★JA400 -T1 総合日本語	★JA400 -T2 総合日本語	★JA400 -T2 総合日本語	全学教育 C409	
				★JA500 -T2 総合日本語	★JA400 -T2 総合日本語	★JA400 -T2 総合日本語	★JA400 -T1 総合日本語	★JA400 -T1 総合日本語	基礎工学部 B205	
				★JA600 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA500 -T1 総合日本語	★JA500 -T1 総合日本語	★JA500 -T2 総合日本語	★JA500 -T2 総合日本語	全学教育 C204	
					★JA500 -T2 総合日本語	★JA500 -T2 総合日本語	★JA500 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA500 -T1/T2 総合日本語 (講義)	文学部 芸術研究棟 3 講義室	
					★JA600 -T1 総合日本語	★JA600 -T1 総合日本語	★JA600 -T1 総合日本語	★JA600 -T1 総合日本語	文学部 芸術研究棟 2 講義室	
II 10:30 ~ 12:00					★JA600 -T2 総合日本語	★JA600 -T2 総合日本語	★JA600 -T2 総合日本語	★JA600 -T2 総合日本語	文学部 芸術研究棟 1 講義室	
III 13:00 ~ 14:30										
IV 14:40 ~ 16:10										
V 16:20 ~ 17:50	★★専門日本語	義永	全学教育 A212	★★総合日本語	★★専門日本語	全学教育 C208		★★多文化 コミュニケーション	全学教育 B206	
	★★多文化 コミュニケーション	伊藤 (ゆ)	全学教育 A312	★★多文化 コミュニケーション	★★多文化 コミュニケーション	全学教育 C203		★★総合日本語	全学教育 C207	*:OSIPP:大阪大学大学院 国際公共政 策研究科

時間帯	講義室	月		火		水		木		金	
		授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当
Ⅰ 8:50 } 10:20	1	IJ100	西口	JB100-T1-1 総合日本語	田中						
	2			JB100-T2-1 総合日本語	岡田						
	3			JB200 総合日本語	山崎						
	4					理系 日本語①	村上				
	5			JB300-T1-1 総合日本語	小原						
	6			JB300-T2-1 総合日本語	矢部	JK202/302	TA 主	JK301 チュートリアル	TA 栄	JK201 チュートリアル	TA 栄
Ⅱ 10:30 } 12:00	1	チュートリアル	TA 田中(十)	チュートリアル	IJ100 (漢字と語彙)	TA ミンシ					
	2		福良		IJ200	山崎					
	3				IJ300	半田					
	4	専門基礎 日本語①	蔭山			理系 日本語②	村上				
	5										
	6	入科 本館 41 講義室 入科 本館 44 講義室		JC400/500 アカデミック コミュニケーション	岡田	BJ500/ 600/700					
Ⅲ 13:00 } 14:30	1		蔭山	IJ100	滝井						
	2		福良	IJ200	山崎						
	3		西村	IJ300	半田						
	4	専門教科 物理①	殿								
	5	★★ 共通教育	西口								
	6					JG300/400	文法講義				
Ⅳ 14:40 } 16:10	1		蔭山	IJ100	滝井						
	2										
	3										
	4	専門教科 物理②	寺井								
	5										
	6			JC600/700 アカデミック コミュニケーション	義永	JW400/500 アカデミック ライティング	金				
Ⅴ 16:20 } 17:50	1					JP600/700 アカデミック ライティング	難波	JP400/500 アカデミック プレゼンテーション	金		
	2						西口				
	3										
	4										
	5										
	6	JR600/700 アカデミック ライティング	西村	JW600/700 アカデミック ライティング	村岡						

時間帯	月		火		水		木		金	
	授業	担当	講義室	授業	授業	授業	授業	授業	授業	講義室
I 8:50 ~ 10:20	★JA100 -T1/T2 総合日本語 (講義)	難波	全学教育 B307	★JA100 -T1 総合日本語	★JA100 -T1 総合日本語	★JA100 -T1 総合日本語	★JA100 -T1 総合日本語	★JA100 -T1 総合日本語	基礎工学部 B105	講義室
	★JA200 -T1/T2 総合日本語 (講義)	義永	全学教育 C305	★JA100 -T2 総合日本語	★JA100 -T2 総合日本語	★JA100 -T2 総合日本語	★JA100 -T2 総合日本語	★JA100 -T2 総合日本語	法経研究棟 500セミナー室	
	★JA300 -T1 総合日本語	畑中	全学教育 C408	★JA200 -T1 総合日本語	★JA200 -T1 総合日本語	★JA200 -T1 総合日本語	★JA200 -T1 総合日本語	★JA200 -T1 総合日本語	全学教育 C404	
	★JA300 -T2 総合日本語	岡崎	全学教育 C409	★JA200 -T2 総合日本語	★JA200 -T2 総合日本語	★JA200 -T2 総合日本語	★JA200 -T2 総合日本語	★JA200 -T2 総合日本語	全学教育 C107	
	★JA400 -T1/T2 総合日本語 (講義)	勝田	全学教育 C203	★JA300 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA300 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA300 -T1/T2 総合日本語 (講義)	★JA300 -T1 総合日本語	★JA300 -T1 総合日本語	全学教育 A313	
	★JA500 -T1 総合日本語	菅	全学教育 C107	★JA400 -T1 総合日本語	★JA400 -T1 総合日本語	★JA400 -T1 総合日本語	★JA300 -T2 全学教育	★JA300 -T2 全学教育	全学教育 C409	
	★JA500 -T2 総合日本語	滝井	全学教育 C304	★JA400 -T2 総合日本語	★JA400 -T2 総合日本語	★JA400 -T2 総合日本語	★JA400 -T1 全学教育	★JA400 -T1 全学教育	基礎工学部 B302	
	★JA600 -T1/T2 総合日本語 (講義)	大谷	全学教育 C403	★JA500 -T1 総合日本語	★JA500 -T1 総合日本語	★JA500 -T1 総合日本語	★JA400 -T2 文法経 講義棟32	★JA400 -T2 文法経 講義棟32	全学教育 C204	
				★JA500 -T2 総合日本語	★JA500 -T2 総合日本語	★JA500 -T2 総合日本語	★JA500 -T1/T2 国際公共 政策研究科 演習室B	★JA500 -T1/T2 国際公共 政策研究科 演習室B	文法経 講義棟32	
				★JA600 -T1 総合日本語	★JA600 -T1 総合日本語	★JA600 -T1 総合日本語	★JA600 -T1 全学教育	★JA600 -T1 全学教育	文法経 講義棟31	
II 10:30 ~ 12:00	専門教科 化学			★JA600 -T2 総合日本語	★JA600 -T2 総合日本語	★JA600 -T2 総合日本語	★JA600 -T2 全学教育	★JA600 -T2 全学教育	国際公共政策 研究科 マルサスメディア演習室	
III 13:00 ~ 14:30	専門教科 化学									
IV 14:40 ~ 16:10	専門教科 化学①									
V 16:20 ~ 17:50	★★専門日本語	義永	全学教育 A212	★★専門日本語	★★専門日本語	★★専門日本語	★★専門日本語	★★専門日本語	全学教育 C207	講義室
	★★★多文化 コミュニケーション	伊藤	全学教育 A312	★★★多文化 コミュニケーション	★★★多文化 コミュニケーション	★★★多文化 コミュニケーション	★★★多文化 コミュニケーション	★★★多文化 コミュニケーション	全学教育 C304	

資料2 2016年度 留学生日本語プログラム(選択コース)履修登録者数一覧

2-1 春学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*3}	研究生 ^{*1}	特 別 研究学生 ^{*2}	特 別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科/文学部	3	1			1	1
人間科学研究科/人間科学部	17	7	10			
法学研究科/法学部	4	1	1	1		1
経済学研究科/経済学部	8	6	1	1		
理学研究科/理学部	9	1	7		1	
医学系研究科/医学部	12	2	5	5		
歯学系研究科/歯学部	3	1	2			
薬学研究科/薬学部	3	1	2			
工学研究科/工学部	63	7	48	2	1	5
基礎工学研究科/基礎工学部	4	2	2			
言語文化研究科	4			4		
国際公共政策研究科	2		2			
情報科学研究科	17		15	2		
生命機能研究科	4		3	1		
社会経済研究所	1			1		
産業科学研究所	2			2		
接合科学研究所	1			1		
核物理研究センター	1			1		
免疫学フロンティア研究センター	1			1		
レーザーエネルギー学研究センター	1			1		
国際教育交流センター	3			3		
計 ^{*4}	163	29	98	26	3	7

【特記事項】

- *1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中（研修）コース）。
研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中（研修）コース生 19 名は、所属部局欄に記載されている。
- *2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。
- *3. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる（19名）。
- *4. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。
また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	33	3	22	4	1	3
200	30	1	20	8	1	
300	37	10	21	6		
400	12		9	2		1
500	13	6	4	2		1
600	11	4	3	3		1
(超上級レベル) 700	27	5	19 [*]	1	1	1
計	163	29	98	26	3	7

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」の 19 名は「学際融合教育科目」として履修登録。

2-2 秋学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*4}	研究生 ^{*1}	特 別 研究学生 ^{*2}	特 別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科/文学部	3	2		1		
人間科学研究科/人間科学部	19	11	8			
法学研究科/法学部	4	2	2			
経済学研究科/経済学部	10	9	1			
理学研究科/理学部	19	2	17			
医学系研究科/医学部	12	2	3	7		
歯学系研究科/歯学部	6	0	4	1		1
薬学研究科/薬学部	7	7				
工学研究科/工学部	84	17	53	6	3	5
基礎工学研究科/基礎工学部	8	5	3			
言語文化研究科	6			6		
国際公共政策研究科	8		1	7		
情報科学研究科	15		12	3		
社会経済研究所	2			2		
産業科学研究所	4			4		
接合科学研究所	1			1		
微生物病研究所	2			2		
レーザーエネルギー学研究センター	1			1		
免疫学フロンティア研究センター	1			1		
蛋白質研究所	1			1		
国際教育交流センター ^{*3}	3			3		
計 ^{*5}	216	57	104	46	3	6

【特記事項】

*1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中（研修）コース）。

研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中（研修）コース生 18 名は、所属部局欄に記載されている。

*2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。

*3. 国際教育交流センター欄の研究生 3 名は、他大学配属日本語集中（研修）コース生。

*4. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる（8 名）。

*5. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。

また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第 2 外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	40	2	29	2	1	6
200	40	6	22	10	2	
300	46	8	21	17		
400	28	14	12	2		
500	15	7	5	3		
600	22	12	1	9		
(超上級レベル) 700	25	8	14 [*]	3		
計	216	57	104	46	3	6

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」の 8 名は「学際融合教育科目」として履修登録。

資料 3-1 国際交流科目授業時間割（平成 28 年春学期）

時 限	時 間	月	火		水	木	金		
		吹田キャンパス	豊中キャンパス/吹田キャンパス		豊中キャンパス/吹田キャンパス	豊中キャンパス/吹田キャンパス	吹田キャンパス/箕面キャンパス		
I	8:50 ～ 10:20		日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2, 600) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》			
			100 : 難波 康治 200 : 義永美央子 300-1 : 畑中 香乃 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 勝田 順子 500-1 : 菅 拱子 500-2 : 滝井 未来 600 : 大谷 晋也		100-1 : 岡田亜矢子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 上仲 淳 200-2 : 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 藤澤 好恵 500-2 : 滝井 未来 600-1 : 岡崎 洋三 600-2 : 田中 真衣	100-1 : 乾 逸子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 半田佳奈子 300-1 : 矢部 正人 300-2 : 岡崎 洋三 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 藤山 拓 500 : 難波 康治 600-1 : 小原 俊彦 600-2 : 伊藤 創			
			100 : 全学教育 C404 200 : 全学教育 C305 300-1 : 全学教育 C408 300-2 : 全学教育 C409 400 : 全学教育 C105 500-1 : 全学教育 C107 500-2 : 基礎工学部 B104 600 : 全学教育 C403		100-1 : 全学教育 B206 100-2 : 基礎工学部 B104 200-1 : 全学教育 B306 200-2 : 全学教育 C107 300 : 全学教育 C403 400-1 : 全学教育 C208 400-2 : 全学教育 A103 500-1 : 基礎工学部 B105 500-2 : OSIPP 演習室 C 600-1 : 全学教育 C404 600-2 : 全学教育 B316	100-1 : 基礎工学部 B202 100-2 : 基礎工学部 B204 200-1 : 全学教育 C404 200-2 : 全学教育 C107 300-1 : 全学教育 A313 300-2 : 全学教育 C409 400-1 : 基礎工学部 B205 400-2 : 全学教育 C204 500 : 文学部 芸術研究棟芸3講義室 600-1 : 文学部 芸術研究棟芸2講義室 600-2 : 文学部 芸術研究棟芸1講義室			
II	10:30 ～ 12:00	我が国の保健サービスと 医療ケア 《医学部》	身の回りの 高分子 《理学部》	人類学Ⅰ 《人間科学部》	社会の中の自己 《人間科学部》	近代日本文学に おける大阪 《言語文化 研究科》	数学とその工学 応用(Ⅰ) 《国際教育交流 センター》	多文化共生論 《人間科学部》	
		吉澤 剛	今田 勝巳	MOHACSI GERGELY	Don BYSOUTH	村上 スミス・ アンドリュース	宮原 啓造	Viktoriya KIM	
		IC Hall Room 5	理学部 G103 塩見記念室	全学教育 SCセミナー室B	全学教育 SC セミナー室 B	全学教育 SCセミナー室B	文法経講義棟 32	人間科学部本館 32	
III	13:00 ～ 14:30	言語と翻訳 《国際教育交流センター》	比較社会学 《人間科学部》		環境・エネルギー 問題に対する 工学的アプローチ 《工学部》	国際協力学Ⅰ 《人間科学部》	バイオエシックスと ヘルス・ロー 《法学部》	日本の社会階層 《人間科学部》	異文化理解演習 《外国語学部》
		蔵岡 冴香	Scott NORTH		西嶋 茂宏	中村 安秀	瀬戸山晃一	Paola CAVALIERE	堀川 智也
		IC Hall Room 5	人間科学部本館 32		工学部 A1-111	人間科学部 東館 404	豊中総合学館 L7	人間科学部 本館 41	外国語学部 A208
			日本法の諸問題 《法学部》		移動の社会学 《人間科学部》		社会保障と サービスデザイン 《国際教育交流 センター》	基本的人権論 《人間科学部》	
			ベドリサ・ルイス		Viktoriya KIM		伊藤ゆかり	Christie LAM	
			文法経講義棟 22		人間科学部 本館 32		全学教育 A312	全学教育 C304	
IV	14:40 ～ 16:10		日本の社会と イデオロギー 《国際教育交流 センター》	国際貿易と投資 《国際公共政策 研究科》	イノベーションの管理と変遷 《インターナショナルカレッジ》		家族と結婚の社会学入門 《人間科学部》		
			近藤佐知彦	利 博友	三森八重子		Viktoriya KIM		
			全学教育 A214	OSIPP マルチメディア 演習室	全学教育 A114		全学教育 C304		
			比較法の諸問題 《法学部》						
			ベドリサ・ ルイス						
			文法経講義棟 22						
V	16:20 ～ 17:50		オンライン・リソースを活用した L2 学習 《国際教育交流センター》		政治学Ⅰ 《人間科学部》		日本芸術瞥見 《文学部》		
			魚崎 典子		Raymond YAMAMOTO		藤田 治彦		
			全学教育 A304		全学教育 B306		文学部 芸術研究棟芸3講義室		

■ : 箕面キャンパス

資料 3-2 国際交流科目授業時間割（平成 28 年秋学期）

時 限	時 間	月		火		水			木			金		
		吹田キャンパス		豊中キャンパス/吹田キャンパス		豊中キャンパス			豊中キャンパス			豊中/吹田/箕面キャンパス		
I	8:50 ～ 10:20			日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2, 600) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》			日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》					
				100 : 難波 康治 200 : 義永未央子 300-1 : 畑中 香乃 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 勝田 順子 500-1 : 菅 摂子 500-2 : 滝井 未来 600 : 大谷 晋也		100-1 : 岡田亜矢子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 上仲 淳 200-2 : 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 藤澤 好恵 500-2 : 滝井 未来 600-1 : 岡崎 洋三 600-2 : 田中 真衣			100-1 : 乾 逸子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 半田佳奈子 300-1 : 矢部 正人 300-2 : 岡崎 洋三 400-1 : 新庄あいみ 400-2 : 蔭山 拓 500 : 難波 康治 600-1 : 小原 俊彦 600-2 : 伊藤 創					
				100 : 全学教育 C203 200 : 全学教育 C305 300-1 : 全学教育 C408 300-2 : 全学教育 C409 400 : 全学教育 C105 500-1 : 全学教育 C107 500-2 : 全学教育 C304 600 : 全学教育 C403		100-1 : 基礎工学部 B102 100-2 : 基礎工学部 B105 200-1 : 全学教育 B306 200-2 : 全学教育 C107 300 : 全学教育 C403 400-1 : 全学教育 C208 400-2 : 全学教育 A103 500-1 : 文法経講義棟 32 500-2 : 国際公共政策研究科 演習室B 600-1 : 全学教育 C404 600-2 : 全学教育 B316			100-1 : 基礎工学部 B105 100-2 : 国際公共政策研究科 演習室B 200-1 : 全学教育 C404 200-2 : 全学教育 C107 300-1 : 全学教育 A313 300-2 : 全学教育 C409 400-1 : 基礎工学部 B302 400-2 : 全学教育 C204 500 : 文法経講義棟 32 600-1 : 文法経講義棟 31 600-2 : 国際公共政策研究科マルチメディア演習室					
II	10:30 ～ 12:00	翻訳と翻訳者たち 《国際教育交流センター》		社会学入門 《人間科学部》		人類学Ⅱ 《人間科学部》			日本と中国の 文学と言語 《文学部》		社会学Ⅱ 《人間科学部》		持続可能な社会に 向けた環境と エネルギー問題 《工学部》	メディア社会学 《人間科学部》
		蔵岡 冴香		Viktoriya KIM		Christie LAM			斎藤 理生		Viktoriya KIM		田中 敏宏	Viktoriya KIM
		IC Hall Room 5		全学教育 SC セミナー室B		全学教育 C304			文法経講義棟 32		全学教育 B206		情報科学研究科 A110	全学教育 C107
III	13:00 ～ 14:30	国際理解 入門 《工学部》	言語心理学と 日本語の習得 《国際教育交流 センター》	応用理工学 入門 《工学部》	ジェンダー論 《人間科学部》	日本法の諸問題 《法学部》	近代・現代 日本文学 《言語文化 研究科》	特別講義 (比較契約 法・不法行為 法の諸問題) 《法学部》	地域統合論 《国際公共 政策研究科》	社会起業 《国際教育 交流センター》	市民社会 運動 《人間科学部》	現代宇宙地球 科学の話題 《理学部》	異文化理解演習 《外国語学部》	電子工学の 最前線 《工学部》
		藤田 清土	西口 光一	芝原 正彦	Paola Cavaliere	ベドリサ・ルイス	村上スミス・ アンドリュウ	Leonardo Ciano	利 博友	伊藤ゆかり	Christie LAM	長峯健太郎	堀川 智也	森 伸也
		工学部 C1-111	IC Hall Room 5	工学部 R1-211	全学教育 SC セミナー室B	法経研究棟 L2	全学教育 C201	文法経 講義棟 23	豊中 総合学館 L6	全学教育 A312	全学教育 B206	理学部 F202	外国語学部 A208	IC Hall Room5
IV	14:40 ～ 16:10	多変量統計科学 《人間科学部》		日本のサル学 《人間科学部》	比較思想史 《人間科学部》		日本のメディアとコミュニケーション 《国際教育交流センター》			文化：その理解へのアプローチ 《国際教育交流センター》			比較法の諸問題 《法学部》	
		足立 浩平		中道 正之	Wolfgang SCHWENTKER		近藤佐知彦			有川 友子			ベドリサ・ルイス	
		人間科学部 本館 33		人間科学部 本館 41	人間科学部 東館 404		全学教育 A114			全学教育 A214			文法経講義棟 22	
V	16:20 ～ 17:50			コンピュータを活用 した語学学習 《国際教育交流 センター》	エレクトロニクス への招待 《基礎工学部》	日本の神話と伝説 《人間科学部》			数学とその工学応用(Ⅱ) 《国際教育交流センター》					
				魚崎 典子	田中 歌子	Irina HOLCA			宮原 啓造					
				全学教育 A304	基礎工学部 A304	全学教育 B306			全学教育 A214					

■：箕面キャンパス

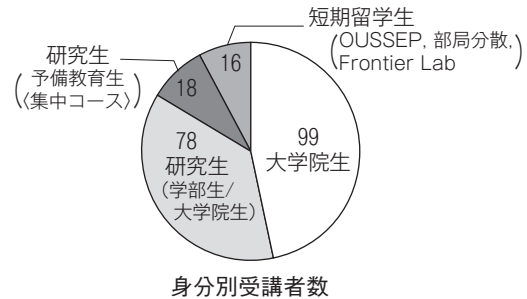
資料 4 日本語授業についてのアンケート

2016 年度 春学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分（2016 年度 春学期 科目別受講者数調べより（のべ受講者数））

(1) 大学院生	99
(2) 研究生（学部生 / 大学院生）	78
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	18
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Lab）	16
計	211



* 延べ総受講者 211 名の内、アンケート回答者数 44 名（全体の約 20.9%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.5	
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。						
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.3	
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	3.0	
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.8	
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。						
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	3.0	
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。						
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	3.9	

B. 授業への感想

(5: 高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	
(1) この授業は体系的に構成されていた。					4.3
(2) 教師は十分な準備をしていた。					4.6
(3) 教師の説明はわかりやすかった。					4.6
(4) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。					4.7
(5) 練習やアクティビティは役に立った。					4.4
(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。					4.2
(7) 宿題の量は適切だった。					4.3
(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。					4.5
(9) この授業を受講してよかったと思う。					4.6

C. 記述 → 別紙

2016 年度 春学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者：選択コース受講学生)

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

受講者数	アンケート回答者数	回答率
のべ211名	のべ44名	20.9%

○各科目平均集計

1. 選択コース

*延べ総受講者211名の内、アンケート回答者数44名 (全体の約20.9%)

質問項目	科目名	全科目 平均値	JB 200	JK 201	JK 202	JB 300	JK 301	JG 300	JG 400	JG 500	JW 400	JW 500	JP 400	BJ 500	BJ 600	BJ 700	JC 600	JC 700	JR 600	JW 600	JW 700	JP 600	JP 700
A.	回答者数/ 受講者数	44/211	3/19	3/18	2/1	5/26	1/10	2/14	1/6	2/6	1/3	5/10	1/5	3/6	1/5	2/4	2/3	1/5	2/5	3/3	1/6	2/2	1/1
	(1)	4.5	4.00	5.00	5.00	3.60	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.60	4.60	4.00	4.67	5.00	5.00	4.67	4.50	4.67	5.00	4.50	5.00
	(2)	4.3	4.33	4.00	4.00	3.60	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.60	4.60	4.00	4.00	5.00	5.00	4.33	4.00	4.33	4.00	5.00	4.00
	(3)	3.0	2.50	2.67	3.00	2.00	2.00	2.50	3.00	3.00	4.00	3.60	3.60	4.00	3.67	3.00	2.50	3.33	3.00	3.33	3.00	3.00	3.00
	(4)	2.8	2.67	3.00	2.00	2.20	2.00	2.50	2.00	2.50	4.00	3.00	3.00	3.00	2.33	3.00	3.00	3.33	2.00	3.00	3.00	4.00	2.00
	(5)	3.0	3.00	3.67	3.00	2.60	1.00	2.00	3.00	3.50	4.00	3.80	3.80	3.00	3.33	3.00	2.50	3.00	3.00	3.00	3.00	3.50	3.00
	(6)	3.9	3.67	4.33	4.00	3.00	3.00	3.50	2.00	4.50	4.00	4.60	4.60	3.00	4.33	4.00	4.00	4.00	4.50	4.00	4.00	4.50	4.00
B.	(1)	4.3	3.33	3.67	4.00	3.60	5.00	4.50	4.00	4.00	4.00	4.60	5.00	4.67	5.00	5.00	4.33	4.00	4.50	4.33	4.00	4.50	4.00
	(2)	4.6	4.33	4.33	4.00	4.60	5.00	4.50	4.00	4.50	4.00	4.60	5.00	5.00	5.00	5.00	4.67	4.00	4.50	4.67	5.00	5.00	4.00
	(3)	4.6	4.33	4.33	4.00	4.60	5.00	5.00	4.00	4.50	5.00	4.80	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	4.67	4.50	4.67	5.00	5.00	4.00
	(4)	4.7	4.33	5.00	4.00	4.60	5.00	5.00	5.00	4.50	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.33	5.00	4.50	4.33	4.00	5.00	5.00
	(5)	4.4	3.67	4.00	4.00	3.80	5.00	4.50	4.00	4.50	5.00	4.60	5.00	5.00	5.00	5.00	4.33	4.00	4.50	4.33	4.00	4.50	4.00
	(6)	4.2	3.67	4.33	3.00	4.40	5.00	4.50	1.00	4.50	4.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	4.67	4.00	4.33	4.00	4.50	4.00
	(7)	4.3	3.67	4.00	3.00	4.40	5.00	5.00	2.00	4.50	4.00	4.40	5.00	5.00	4.33	5.00	5.00	4.50	4.00	4.33	4.00	5.00	4.00
	(8)	4.5	3.67	4.33	5.00	4.60	5.00	4.50	4.00	4.50	4.00	4.80	5.00	5.00	4.67	5.00	4.50	4.67	4.00	4.67	4.00	5.00	4.00
	(9)	4.6	4.00	4.33	5.00	4.80	5.00	5.00	4.00	4.50	4.00	4.80	5.00	5.00	4.67	5.00	5.00	4.67	4.00	4.67	4.00	5.00	4.00

設問内容

A あなたの受講状況について

A1：あなたの日本語科目レベル

A2：受講したクラス

A3：あなたは、次のどのカテゴリーにあてはまりますか。

- 大学院生 (博士)/Graduate school student (DC)
- 大学院生 (修士)/Graduate school student (MC)
- 日本語集中 (研修) コース生 /Student enrolled in the Intensive Japanese Language Course
- 短期留学生 /OUSSEP, Frontier Lab, iExpo etc.)
- その他

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満	50～70%	70～80%	80～90%	90%以上
1	2	3	4	5

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

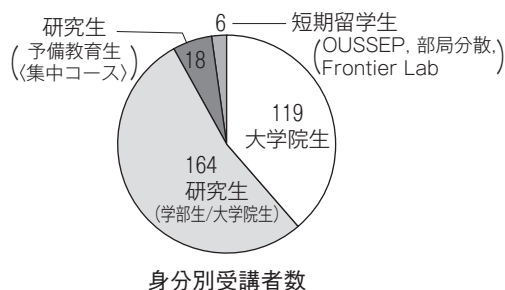
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

2016 年度 秋学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆身分（2016 年度 秋学期 科目別受講者数調べより（のべ受講者数））

(1) 大学院生	119
(2) 研究生（学部生 / 大学院生）	164
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	18
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Lab）	6
計	307



*延べ総受講者 307 名の内、アンケート回答者数 64 名（全体の約 20.8%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.0	
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。						
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.1	
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.5	
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.4	
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。						
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	2.9	
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。						
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	3.7	

B. 授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	
(1) この授業は体系的に構成されていた。					4.6
(2) 教師は十分な準備をしていた。					4.7
(3) 教師の説明はわかりやすかった。					4.6
(4) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。					4.6
(5) 練習やアクティビティは役に立った。					4.4
(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。					4.4
(7) 宿題の量は適切だった。					4.3
(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。					4.1
(9) この授業を受講してよかったと思う。					4.6

C. 記述 → 別紙

2016 年度 秋学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者：選択コース受講学生)

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

受講者数	アンケート回答者数	回答率
のべ307名	のべ64名	20.8%

○各科目平均集計

1. 選択コース

*延べ総受講者307名の内、アンケート回答者数64名(全体の約20.8%)

質問項目	科目名	全科目 平均値	回答者数/ 受講者数																												
			JB 100-T1	JB 100-T2	JB 200	JK 201	JK 202	JK 302	JB 300-T1	JB 300-T2	JK 301	JG 300	JG 400	JC 400	JC 500	JW 400	JW 500	JP 400	JP 500	BJ 500	BJ 600	BJ 700	JC 600	JC 700	JR 600	JR 700	JW 600	JW 700	JP 600	JP 700	
A.	(1)	64/307	4/21	1/19	3/29	1/16	1/9	1/5	1/20	1/11	1/22	4/16	6/17	5/11	2/6	8/15	1/6	5/14	2/5	2/5	1/4	3/7	3/12	1/6	3/12	1/1	3/10	1/4	1/9		
	(2)		4.0	3.50	5.00	2.33	4.00	5.00	4.00	3.00	4.00	5.00	3.75	4.80	4.00	4.12	5.00	4.60	3.50	4.50	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(3)		2.5	3.00	3.00	2.00	4.00	2.00	3.00	2.00	2.00	2.75	2.83	2.80	3.00	3.12	3.00	3.00	4.00	2.50	3.00	2.33	4.00	2.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(4)		2.3	2.00	3.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	3.00	2.00	2.75	2.80	2.50	2.38	3.00	2.40	2.50	2.50	2.00	1.67	3.33	1.00	5.00	1.00	4.67	2.00	4.00	4.00	4.50
	(5)		2.9	2.75	3.00	2.33	3.00	2.00	3.00	3.00	3.00	3.33	2.17	2.40	2.50	2.38	3.00	2.80	3.00	3.50	2.00	3.00	4.00	3.00	3.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.50
	(6)		3.7	4.50	5.00	2.33	3.00	5.00	5.00	5.00	3.00	4.00	3.50	3.20	3.50	3.75	4.00	3.60	3.50	4.50	4.00	4.00	3.67	3.00	4.00	4.00	4.00	4.33	5.00	4.00	4.50
B.	(1)		4.6	4.50	5.00	3.67	4.00	5.00	5.00	5.00	4.00	4.75	4.00	4.00	4.50	4.38	5.00	4.20	3.50	5.00	4.00	4.67	4.00	4.00	5.00	4.00	4.67	5.00	5.00	4.50	4.50
	(2)		4.7	4.75	5.00	4.00	4.00	5.00	5.00	5.00	4.00	4.75	4.67	4.80	5.00	4.75	5.00	4.20	4.00	4.50	5.00	5.00	4.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(3)		4.6	4.25	5.00	3.33	3.00	5.00	5.00	5.00	4.00	4.75	4.33	4.40	5.00	5.00	4.50	4.20	5.00	5.00	0.00	5.00	4.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(4)		4.6	4.50	5.00	4.00	4.00	5.00	5.00	4.00	5.00	4.75	4.50	4.60	5.00	4.86	5.00	4.40	4.50	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(5)		4.4	4.25	5.00	3.67	3.00	5.00	5.00	4.00	5.00	4.75	4.00	3.80	5.00	4.12	5.00	4.75	4.50	5.00	4.00	4.67	4.33	4.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(6)		4.4	4.25	5.00	4.00	4.00	5.00	4.00	5.00	4.00	4.50	4.50	4.40	5.00	4.62	5.00	4.20	4.00	4.50	5.00	4.00	4.67	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	(7)		4.3	4.00	4.00	3.33	4.00	5.00	5.00	3.00	5.00	4.75	4.50	4.60	5.00	4.43	5.00	4.50	4.00	4.50	4.00	4.67	4.00	3.00	5.00	4.00	4.67	4.00	4.00	4.50	4.50
	(8)		4.1	4.50	5.00	3.67	3.00	5.00	5.00	3.00	5.00	4.00	4.25	4.33	4.80	5.00	4.50	3.80	3.50	4.00	5.00	4.67	4.33	4.00	5.00	5.00	4.67	5.00	4.00	4.00	4.00
	(9)		4.6	4.50	5.00	3.33	4.00	5.00	5.00	5.00	4.00	4.25	4.50	4.60	4.50	4.62	5.00	4.60	4.00	4.50	5.00	5.00	5.00	4.67	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00

設問内容

A あなたの受講状況について

A1：あなたの日本語科目レベル

A2：受講したクラス

A3：あなたは、次のどのカテゴリーにあてはまりますか。

- 大学院生 (博士)/Graduate school student (DC)
- 大学院生 (修士)/Graduate school student (MC)
- 日本語集中 (研修) コース生 /Student enrolled in the Intensive Japanese Language Course
- 短期留学生 /OUSSEP, Frontier Lab, iExpo etc.)
- その他

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満	50～70%	70～80%	80～90%	90%以上
1	2	3	4	5

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(5) あなたは、この授業中 (90分) にいつものくくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった	1回	2	2～3回	4～5回	6回以上
1			3	4	5

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

ぜんぜん上達しなかった	ほとんど上達しなかった	すこしだけ上達した	かなり上達した	とても上達した
1	2	3	4	5

B. 授業への感想

(1) この授業は体系的に構成されていた。

(2) 教師は十分な準備をしていた。

(3) 教師の説明はわかりやすかった。

(4) 教師は質問にていねいに答えてくれた。

(5) 練習やアクティビティは役に立った。

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

(7) 宿題の量は適切だった。

(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

(9) この授業を受講してよかったと思う。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

資料 5 国際交流科目 授業アンケート (質問票)

International Exchange Subjects 2016 Fall Semester Final Questionnaire on the Subject you attended

Conducted by Center for International Education and Exchange

*Note:

This format of the questionnaire is for all exchange students. If you are NOT an exchange student, please answer to the Japanese questionnaires instead.

The main purpose of this survey is to enhance the educational effect and teaching quality of the instructors in the rest of the semester. The information may be used only by the instructor, coordinator and the staff of the program as reference for study and educational purposes.

Your answers to the questions below are irrelevant to your grade. Do NOT write your name.

Please spend at least 10 minutes to answer the questionnaires.

Do NOT submit this sheet to the instructor, please submit it after you have filled in to the designated students.

1. Which is your program?

A: OUSSEP B: iExPO C: Frontier Lab D: Maple
E: International-College (G30) CBCMP, F: International-College (G30) HUS, G: Others

2. Title of the Subject:

3. Name of the instructor:

4. Which below-mentioned field is your major close to?

1 ☐ Dentistry, 2 ☐ Economics, 3 ☐ Engineering, 4 ☐ Engineering-Science,
5 ☐ Foreign Studies, 6 ☐ Human Sciences, 7 ☐ Information Science and Technology,
8 ☐ International Public Policy, 9 ☐ Language and Culture, 10 ☐ Law and Politics, 11 ☐ Letters,
12 ☐ Medicine, 13 ☐ Pharmaceutical, 14 ☐ Sciences, 15 ☐ Others,

5. How often did you attend this class so far?

A: all B: 80%~ C: 60%~ D: 50~59% E: less than half

6. (a) Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?

(Osaka University would encourage the international students to transfer the academic credits)

Yes No

(b) If “No”, please choose the reason.

A: I'm an Osaka University's student. B: I can transfer, but I don't need credits.
C: I cannot transfer. D: other

7. Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.

8. Are you satisfied with this class?

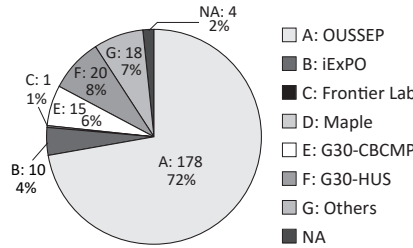
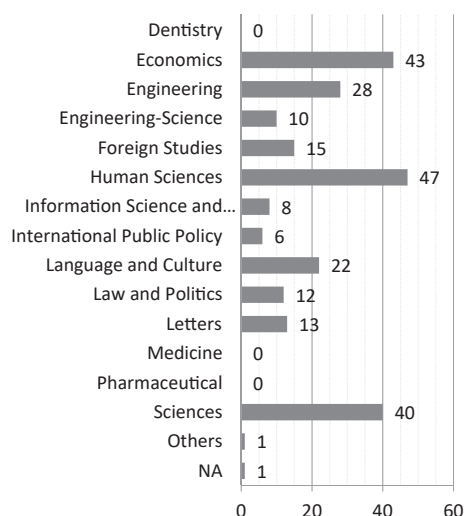
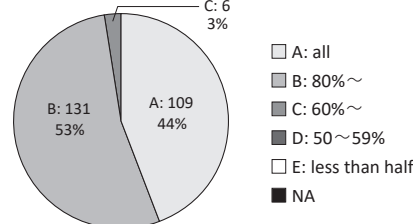
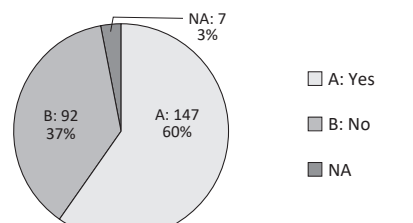
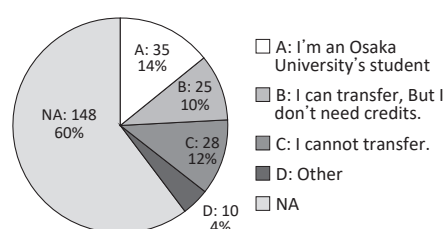
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

<Continue to the reverse side>

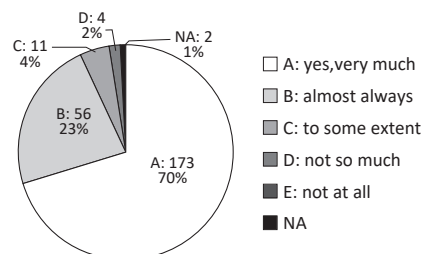
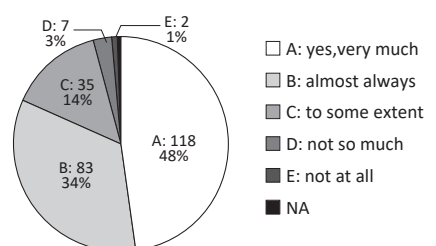
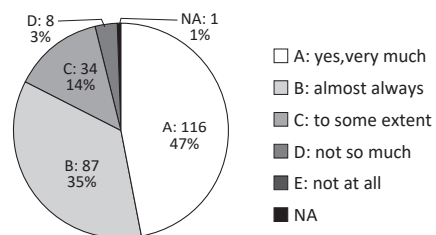
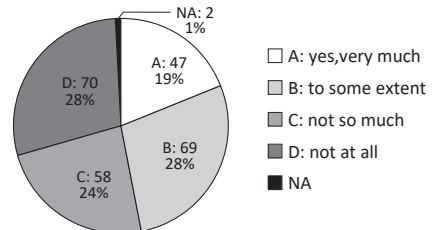
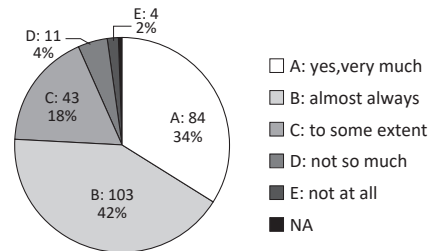
9. To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?
A: yes, very much B: to some extent C: not so much D: not at all
10. Is the lecture understandable?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
11. Does the instructor speak English understandably?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
12. Is the class conducted in accordance with the syllabus?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
13. Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
14. Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.
A: too much B: adequate C: not enough (insufficient)
15. Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently?
Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?
A: yes, very much B: to some extent C: not at all
16. (a) Is there any TA in the class? Yes No
(b) If Yes, how well does the TA contribute?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
17. Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. Audio-visual material, Field trip, Experiments, discussion, quiz, etc.)
18. Let us know your suggestion or advice to improve the class.
19. Please write other comments and frank opinions freely, if any.

Thank you so much for your cooperation!

資料 6 国際交流科目 授業アンケート（結果）

1	Which is your program?	Answer	Num.	
		A: OUSSEP	178	
		B: iExPO	10	
		C: Frontier Lab	1	
		D: Maple	0	
		E: G30-CBCMP	15	
		F: G30-HUS	20	
		G: Others	18	
		NA	4	
		Total Num.	246	
2	Subject	All the International Exchange Subjects (a number of subjects included)		
4	Your Major	Answer	Num.	
		Dentistry	0	
		Economics	43	
		Engineering	28	
		Engineering-Science	10	
		Foreign Studies	15	
		Human Sciences	47	
		Information Science and Technology	8	
		International Public Policy	6	
		Language and Culture	22	
		Law and Politics	12	
		Letters	13	
		Medicine	0	
		Pharmaceutical	0	
		Sciences	40	
		Others	1	
		NA	1	
		Total Num.	246	
5	How often did you attend this class so far?	Answer	Num.	
		A: all	109	
		B: 80%~	131	
		C: 60%~	6	
		D: 50~59%	0	
		E: less than half	0	
		NA	0	
		Total Num.	246	
6 (a)	Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?	Answer	Num.	
		A: Yes	147	
		B: No	92	
		NA	7	
		Total Num.	246	
6 (b)	If "No", please choose the reason.	Answer	Num.	
		A: I'm an Osaka University's student	35	
		B: I can transfer, But I don't need credits.	25	
		C: I cannot transfer.	28	
		D: Other	10	
		NA	148	
		Total Num.	246	

7	Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.		
	Chance to get to know different professors & their research. Interest & transfer of credits. Similar to my major at home.		
	Very different topic from what I can choose at my university. Interesting syllabus + like the instructor. Meet exchange students.		
	This is one of the only classes for law students. I'd like to learn about current research topics. Very related to Japanese culture.		
	Broadening horizon. Getting deeper understanding of another country culture.		
	I was interested in cultural differences and to hear about the life of Japanese students.		
	Some others students recommended the teacher.		
8	Are you satisfied with this class?	Answer	Num.
		A: yes, very much	84
		B: almost always	103
		C: to some extent	43
		D: not so much	11
		E: not at all	4
		NA	1
		Total Num.	246
9	To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?	Answer	Num.
		A: yes, very much	47
		B: to some extent	69
		C: not so much	58
		D: not at all	70
		NA	2
		Total Num.	246
10	Is the lecture understandable?	Answer	Num.
		A: yes, very much	116
		B: almost always	87
		C: to some extent	34
		D: not so much	8
		E: not at all	0
		NA	1
		Total Num.	246
11	Does the instructor speak English understandably?	Answer	Num.
		A: yes, very much	118
		B: almost always	83
		C: to some extent	35
		D: not so much	7
		E: not at all	2
		NA	1
		Total Num.	246
12	Is the class conducted in accordance with the syllabus?	Answer	Num.
		A: yes, very much	173
		B: almost always	56
		C: to some extent	11
		D: not so much	4
		E: not at all	0
		NA	2
		Total Num.	246



13	Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?	Answer	Num.	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
		A: yes, very much	146	
		B: almost always	68	
		C: to some extent	21	
		D: not so much	8	
		E: not at all	0	
		NA	3	
		Total Num.	246	
14	Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.	Answer	Num.	Legend: □ A: too much ▒ B: adequate ▓ C: not enough (insufficient) ■ NA
		A: too much	17	
		B: adequate	211	
		C: not enough (insufficient)	16	
		NA	2	
		Total Num.	246	
15	Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?	Answer	Num.	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: to some extent ▓ C: not at all ■ NA
		A: yes, very much	174	
		B: to some extent	64	
		C: not at all	6	
		NA	2	
		Total Num.	246	
16	Is there any TA in the class?	Answer	Num.	Legend: □ A: Yes ▒ B: No ■ NA
		A: Yes	199	
		B: No	39	
		NA	8	
		Total Num.	246	
	If YES, how well does the TA contribute?	Answer	Num.	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
		A: yes, very much	108	
		B: almost always	35	
		C: to some extent	31	
		D: not so much	20	
		E: not at all	5	
		NA	47	
		Total Num.	246	
17	Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain.			Very nice to have different lecturers. Visual materials. The TA was awesome. Handouts were very useful. Group discussions. Discussions are good, but sometimes the topics of discussions are a bit vague. PPTS + student presentations. I also liked the way the presentations were conducted- it was done in small group, so no presentations for the whole class. Giving us the information sheets. Case studies are good. Continue to provide supplementary material. Several classes had activities and experiences that made the class fun and easier to understand. It also helps with the rhythm of the class and keeps students focused. Good use of CLE. She always prepares something for ice breaker, that was so interesting. I like to have assignments, because I can better understand the class through my researches. Using many different media. Comment / feedback sheet in class. The group work after studying the theory, worked really well.

18	Let us know your suggestion or advice to improve the class.
	Maybe should the class be more interactive in asking more questions. Explain the grading system.
	Sometimes class is too theoretical. Adding some other materials such as more photos/videos may help.
	Small discussion should be encouraged. Not many students speak in a whole class discussion. Go outside the classroom!
	Don't just read a book and board. I don't need a lecture for that. Sometimes I don't understand where this course is going to.
	More guidance, especially on choosing a theme for the essay would have been helpful. It was too broad.
	Not all students including me are from engineering studies, so it is better to begin with basis, so everybody can understand.
	Add some variety in the intonation and rhythm of the speech. Making clearer structure. Clearer instructions.
	More opportunities to use Japanese in the class.
19	Exam's level seemed really high compared to homework we had. More difficult homework or easier exam please.
	Please write other comments and frank opinions freely, if any.
	That was by far my best class this semester. The field trip to Arashiyama was fun.
	The lectures were information dense - very hard to keep up with - teacher just talking the entire time - no time to discuss.
	The lecturers should talk to each other more, then they could adjust their lectures to each other, then they could avoid repetitions and match the difficulty to the class. Some classes were very easy, others were hard to follow.
	I think the target language would be specified like English or Japanese.
	This is a great course but there are too few mathematics courses offered in English at 阪大. This makes it almost impossible to transfer credits as a mathematics major.
	That was one of the best and most interesting classes I attend this semester. Very useful for those who's interested in translation practice & theory.

2016年度 年 報

2017年7月20日 発行

編集・発行者：大阪大学国際教育交流センター
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号
電話：06-6879-7118 FAX：06-6879-7077

印刷所：株式会社 遊 文 舎